



CLUSTERPRO X 5.3 for Linux
クラスタ構築コマンドリファレンスガイド
リリース 1

日本電気株式会社

2025 年 04 月 08 日

目次:

第 1 章	はじめに	1
1.1	対象読者と目的	1
1.2	本書の構成	2
1.3	CLUSTERPRO マニュアル体系	3
1.4	本書の表記規則	4
1.5	最新情報の入手先	5
第 2 章	コマンドリファレンス	7
2.1	clpcfadm.py コマンド	7
2.2	clpencrypt コマンド	12
第 3 章	クラスタを作成する	13
第 4 章	クラスタプロパティを設定する	15
4.1	基本情報	15
4.2	インタコネクト	16
4.3	フェンシング	22
4.4	タイムアウト	35
4.5	ポート番号	36
4.6	ポート番号 (ミラー)	38
4.7	ポート番号 (ログ)	39
4.8	監視	40
4.9	リカバリ	42
4.10	アラートサービス	45
4.11	WebManager	52
4.12	API	57
4.13	暗号化	61
4.14	アラートログ	63
4.15	遅延警告	64
4.16	ミラーエージェント	65
4.17	ミラードライブ	67
4.18	JVM 監視	69
4.19	クラウド	73

4.20	統計情報	76
4.21	拡張	79
第 5 章	サーバを設定する	83
5.1	サーバを追加する	84
5.2	サーバ共通のパラメータを設定する	85
5.3	サーバのパラメータを設定する	86
5.4	サーバを削除する	91
第 6 章	グループを設定する	93
6.1	グループを追加する	94
6.2	グループ共通のパラメータを設定する	95
6.3	グループのパラメータを設定する	96
6.4	グループを削除する	104
第 7 章	グループリソースを設定する	105
7.1	AWS DNS リソース	105
7.2	AWS Elastic IP リソース	115
7.3	AWS セカンダリ IP リソース	124
7.4	AWS 仮想 IP リソース	133
7.5	Azure DNS リソース	143
7.6	Azure プローブポートリソース	154
7.7	ダイナミック DNS リソース	163
7.8	ディスクリソース	172
7.9	EXEC リソース	186
7.10	フローティング IP リソース	198
7.11	Google Cloud DNS リソース	209
7.12	Google Cloud 仮想 IP リソース	218
7.13	ハイブリッドディスクリソース	227
7.14	LB プローブポートリソース	246
7.15	ミラーディスクリソース	255
7.16	Oracle Cloud DNS リソース	274
7.17	Oracle Cloud 仮想 IP リソース	285
7.18	仮想 IP リソース	294
7.19	ボリュームマネージャリソース	308
第 8 章	モニタリソースを設定する	319
8.1	ARP モニタリソース	319
8.2	AWS AZ モニタリソース	327
8.3	AWS DNS モニタリソース	335
8.4	AWS Elastic IP モニタリソース	343
8.5	AWS セカンダリ IP モニタリソース	351

8.6	AWS 仮想 IP モニタリソース	359
8.7	Azure DNS モニタリソース	367
8.8	Azure ロードバランスモニタリソース	375
8.9	Azure プロープポートモニタリソース	383
8.10	DB2 モニタリソース	391
8.11	ダイナミック DNS モニタリソース	401
8.12	ディスクモニタリソース	408
8.13	フローティング IP モニタリソース	419
8.14	FTP モニタリソース	427
8.15	Google Cloud DNS モニタリソース	436
8.16	Google Cloud ロードバランスモニタリソース	443
8.17	Google Cloud 仮想 IP モニタリソース	450
8.18	カスタムモニタリソース	458
8.19	ハイブリッドディスクコネクトモニタリソース	468
8.20	ハイブリッドディスクモニタリソース	473
8.21	HTTP モニタリソース	478
8.22	IMAP4 モニタリソース	489
8.23	IP モニタリソース	498
8.24	JVM モニタリソース	507
8.25	LB プロープポートモニタリソース	535
8.26	ミラーディスクコネクトモニタリソース	543
8.27	ミラーディスクモニタリソース	548
8.28	NIC Link Up/Down モニタリソース	553
8.29	外部連携モニタリソース	561
8.30	マルチターゲットモニタリソース	567
8.31	MySQL モニタリソース	577
8.32	NFS モニタリソース	587
8.33	Oracle Cloud DNS モニタリソース	596
8.34	Oracle Cloud ロードバランスモニタリソース	604
8.35	Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソース	611
8.36	ODBC モニタリソース	619
8.37	Oracle モニタリソース	628
8.38	WebOTX モニタリソース	639
8.39	PID モニタリソース	647
8.40	POP3 モニタリソース	655
8.41	PostgreSQL モニタリソース	664
8.42	プロセスリソースモニタリソース	674
8.43	プロセス名モニタリソース	684
8.44	Samba モニタリソース	692
8.45	SMTP モニタリソース	701
8.46	SQL Server モニタリソース	710

8.47 システムモニタリソース	720
8.48 Tuxedo モニタリソース	735
8.49 ユーザ空間モニタリソース	743
8.50 仮想 IP モニタリソース	748
8.51 ボリュームマネージャモニタリソース	755
8.52 WebSphere モニタリソース	764
8.53 WebLogic モニタリソース	773
第 9 章 パスワードを暗号化した文字列を取得する	785
9.1 Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline を使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する	786
9.2 clpencrypt コマンドを使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する	787
第 10 章 注意・制限事項	789
第 11 章 免責・法的通知	791
11.1 免責事項	791
11.2 商標情報	792
第 12 章 改版履歴	793

第 1 章

はじめに

1.1 対象読者と目的

『CLUSTERPRO X クラスタ構築コマンドリファレンスガイド』は、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、クラスタ構成情報ファイル (clp.conf) をコマンドラインで生成する方法について記載しています。

1.2 本書の構成

- 「2. コマンドリファレンス」：クラスタ構成情報作成時に使用するコマンドの概要について説明します。
- 「3. クラスタを作成する」：クラスタの新規作成方法について説明します。
- 「4. クラスタプロパティを設定する」：クラスタプロパティの設定方法について説明します。
- 「5. サーバを設定する」：サーバの設定方法について説明します。
- 「6. グループを設定する」：グループの設定方法について説明します。
- 「7. グループリソースを設定する」：グループリソースの設定方法について説明します。
- 「8. モニタリソースを設定する」：モニタリソースの設定方法について説明します。
- 「9. パスワードを暗号化した文字列を取得する」：パスワード設定で必要な暗号化した文字列の取得方法について説明します。

1.3 CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 5 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』 (Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』 (Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタシステムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』 (Reference Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明およびトラブルシューティング情報等を記載します。『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』 (Maintenance Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO のメンテナンス関連情報を記載します。

『CLUSTERPRO X ハードウェア連携ガイド』 (Hardware Feature Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、特定ハードウェアと連携する機能について記載します。『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

1.4 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注釈: この表記は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: この表記は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

参考:

この表記は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	clpcfadm.py add mon <モニタリソース種別> <モニタリソース名>

1.5 最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下の Web サイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

第 2 章

コマンドリファレンス

2.1 clpcfadm.py コマンド

クラスタ構成情報ファイルの clp.conf を生成します。

コマンドライン

- clpcfadm.py {create} clustername charset [-e encode] [-s serveros]
- clpcfadm.py {add} srv servername priority
- clpcfadm.py {add} device servername type id info [extend]
- clpcfadm.py {add} forcestop env
- clpcfadm.py {add} hb lankhb deviceid priority
- clpcfadm.py {add} hb lanhb deviceid priority
- clpcfadm.py {add} hb diskhb deviceid priority
- clpcfadm.py {add} hb witnesshb deviceid priority host
- clpcfadm.py {add} np pingnp deviceid priority groupid listid ipaddress
- clpcfadm.py {add} np httpnp deviceid priority [--host host]
- clpcfadm.py {add} grp grouptype groupname
- clpcfadm.py {add} rsc groupname resourcetype resourcename
- clpcfadm.py {add} rscdep resourcetype resourcename dependresourcename
- clpcfadm.py {add} mon monitortype resourcename
- clpcfadm.py {del} srv servername

- `clpcfadm.py {del} device servername id`
- `clpcfadm.py {del} forcestop`
- `clpcfadm.py {del} hb lankhb deviceid`
- `clpcfadm.py {del} hb lanhb deviceid`
- `clpcfadm.py {del} hb diskhb deviceid`
- `clpcfadm.py {del} hb witnesshb deviceid`
- `clpcfadm.py {del} np pingnp deviceid`
- `clpcfadm.py {del} np httpnp deviceid`
- `clpcfadm.py {del} grp groupname`
- `clpcfadm.py {del} rsc groupname resourcetype resourcename`
- `clpcfadm.py {del} rscdep resourcetype resourcename`
- `clpcfadm.py {del} mon monitortype resourcename`
- `clpcfadm.py {mod} -t [tagname] [--set parameter] [--delete] [--nocheck]`

オプション

- **--backup** 本オプションは、すべてのコマンドラインで使用可能です。
カレントディレクトリにコマンド実行前の `clp.conf` のバックアップ
ファイル `clp.conf.bak` を作成します。
カレントディレクトリに既に `clp.conf.bak` ファイルが存在している
場合、ファイルを上書きします。

注釈: カレントディレクトリに `clp.conf.bak` ファイルが存在しない
場合、`--backup` オプション指定によらず `clp.conf.bak` ファイルを作
成します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

動作環境

ソフトウェア	Version	備考
Python	3.6.8 以上	

注意事項

- root 権限を持つユーザで実行してください。
- カレントディレクトリに clp.conf を配置した状態で実行してください。
- クラスタ構成情報ファイルのうち、clp.conf のみ作成します。

EXEC リソース、カスタムモニタリソースなどで使用するスクリプトファイルは手動で作成する必要があります。

例

フェイルオーバーグループ failover1 に所属する EXEC リソース exec1、および カスタムモニタリソース genw1 のスクリプトを配置する場合

```
scripts
├─ failover1
│   └─ exec1
│       start.sh
│       stop.sh
└─ monitor.s
    └─ genw1
        genw.sh
```

- Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline を使用してグループリソースを追加した場合、自動的に追加されるモニタリソースがありますが、本コマンドでは自動的に追加しません。以下の表を参照し「追加が必要なモニタリソース」を追加してください。

グループリソース	追加が必要なモニタリソース
AWS DNS リソース	AWS AZ モニタリソース
AWS Elastic IP リソース	AWS Elastic IP モニタリソース
AWS 仮想 IP リソース	AWS 仮想 IP モニタリソース
Azure DNS リソース	Azure DNS モニタリソース

次のページに続く

表 2.3 – 前のページからの続き

グループリソース	追加が必要なモニタリソース
Azure プロープポートリソース	Azure ロードバランスモニタリソース Azure プロープポートモニタリソース
ダイナミック DNS リソース	ダイナミック DNS モニタリソース
フローティング IP リソース	フローティング IP モニタリソース
Google Cloud 仮想 IP リソース	Google Cloud ロードバランスモニタリソース Google Cloud 仮想 IP モニタリソース
ハイブリッドディスクリソース	ハイブリッドディスクコネクトモニタリソース ハイブリッドディスクモニタリソース
LB プロープポートリソース	LB プロープポートモニタリソース
ミラーディスクリソース	ミラーディスクコネクトモニタリソース ミラーディスクモニタリソース
Oracle Cloud DNS リソース	Oracle Cloud DNS モニタリソース
Oracle Cloud 仮想 IP リソース	Oracle Cloud ロードバランスモニタリソース Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソース
仮想 IP リソース	仮想 IP モニタリソース
ボリュームマネージャリソース	ボリュームマネージャモニタリソース

- クラスタ構成情報ファイルを稼働しているクラスタへ反映するには `clpcfctrl` コマンドを実行してください。
- `clp.conf` を整形するには `xmllint` を利用してください。

```
xmllint --format --output <整形後 clp.conf のファイルパス> <整形前 clp.conf のファイルパス>
```


注釈: ご使用の環境に応じて xmllint をインストールしてください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
'%1' is not found.	ファイル %1 が見つかりません。
The specified object does not exist. '%1'	指定したオブジェクト %1 は存在しません。
The specified element '%1' does not exist in '%2'.	指定した要素 %1 は %2 に存在しません。
The specified path does not exist in a config file.	指定したパスはクラスタ構成情報に存在しません。
Invalid config file. Use the 'create' option.	本コマンドの create オプションを実行してください。
The config file already exists.	クラスタ構成情報は既に存在しています。
Non-configurable elements specified.	設定可能なタグ名ではありません。
Invalid value specified. Specify as follows: <resource type>@<resource name>	<グループリソース種別>@<グループリソース名>の形式で指定してください。
Invalid path specified.	無効なパスが指定されています。
Cannot register a '%1' any more.	%1 は登録上限に達しています。
The following arguments are required :%1	%1 を指定してください。
Argument %1: allowed only with argument '%2'	%1 は %2 の時のみ有効なオプションです。
Argument %1: invalid choice: '%2' (choose from %3)	%1 に指定した %2 は無効な値です。%3 の選択肢から指定してください。
Argument %1: invalid value: '%2' (The value must be in the range [%3, %4])	%1 に指定した %2 は無効な値です。%3 から %4 の範囲の数値を指定してください。
Argument %1: invalid value: '%2' (The length must be less than %3)	%1 に指定した %2 は文字列が長すぎます。%3 以下の長さにしてください。
Argument %1: '%2' already exists.	%1 に %2 は既に存在しています。
Argument %1: '%2' does not exist.	%1 に %2 が存在しません。
Argument %1: cannot specify a dependency to the same object.	%1 は同じオブジェクトへの依存関係を指定しています。異なるオブジェクトを指定してください。
Argument %1: does not appear to be an IPv4.	%1 は無効な値です。IPv4 形式で指定してください。
Invalid value: '%1' (The value must be greater than 0)	%1 は無効な値です。0 以上の数値を指定してください。

2.2 clpencrypt コマンド

文字列を暗号化します。

コマンドライン

```
clpencrypt <パスワード (平文)>
```

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドを使用できない認証パスワードがあります。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

実行例

- パスワード文字列を暗号化します。

実行: `clpencrypt <パスワード (平文)>`

出力: `<暗号化されたパスワード>`

実行例: `clpencrypt password`

出力例: `20220001111abaabdbb35c04`

注釈: パスワード文字列に特殊文字を含む場合はシングルクォートで囲ってください。(例:'password!')

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。

第 3 章

クラスタを作成する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[クラスタプロパティを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
クラスタ名
言語
サーバ設定 ^{*1}
インタコネクト設定 ^{*2}
モニタリソース (ユーザ空間モニタ) 設定 ^{*3}

クラスタの作成

```
clpcfadm.py create <クラスタ名> <言語>
```

サーバ追加

```
clpcfadm.py add srv <サーバ名> <優先度>
```

インタコネクト (カーネルモード) 追加

```
clpcfadm.py add hb lankhb <デバイス ID> <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> lan <デバイス ID> <IP アドレス>
```

モニタリソース (ユーザ空間モニタ: keepalive) 追加

```
clpcfadm.py add mon userw userw
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw/target --set "" *4
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw/relation/name --set LocalServer --nocheck
```

^{*1} 詳細は「[サーバを追加する](#)」を参照してください。

^{*2} 詳細は「[インタコネクト](#)」を参照してください。

^{*3} 詳細は「[ユーザ空間モニタリソースを追加する](#)」を参照してください。

^{*4} ユーザ空間モニタリソースでは、本パスに空 (設定値無し) を必ず設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw/relation/type --set cls --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

第 4 章

クラスタプロパティを設定する

4.1 基本情報

- クラスタ名 (31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/name --set <クラスタ名>
```

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

- 言語

言語	設定値
英語	ASCII
日本語	EUC-JP

```
clpcfadm.py mod -t all/charset --set <設定値>
```

4.2 インタコネクト

ハートビート I/F

追加する

重要: 1 つ以上の LAN ハートビート (カーネルモード、ユーザモード) 設定が必要です。

注釈:

ハートビート I/F が 1 つの場合は、優先度に 0 を指定してください。

ハートビート I/F が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

カーネルモード

```
clpcfadm.py add hb lankhb <デバイス ID> <優先度>
clpcfadm.py add device <サーバ名> lan <デバイス ID> <IP アドレス>
```

注釈:

LAN ハートビート (カーネルモード、ユーザモード) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

LAN ハートビート (カーネルモード、ユーザモード) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

ユーザモード

```
clpcfadm.py add hb lanhb <デバイス ID> <優先度>
clpcfadm.py add device <サーバ名> lan <デバイス ID> <IP アドレス>
```

注釈:

LAN ハートビート (カーネルモード、ユーザモード) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

LAN ハートビート (カーネルモード、ユーザモード) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

DISK

```
clpcfadm.py add hb diskhb <デバイス ID> <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> disk <デバイス ID> <デバイスパス>
```

注釈:

DISK が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

DISK が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈: デバイスパスは絶対パスで指定してください。

Witness

```
clpcfadm.py add hb witnesshb <Witness デバイス ID> <優先度> <IP アドレス: ポート番号>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> witness <デバイス ID> <使用可否> <IP アドレス: ポート番号>
```

注釈: 使用可否は、使用する場合に 1、使用しない場合に 0 を設定してください。

注釈:

Witness が 1 つの場合は、Witness デバイス ID に 0 を指定してください。

Witness が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- SSL を使用する

SSL を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t heartbeat/witnesshb@witnesshb1/ssl/use --set <設定値>
```

- Proxy を使用する

Proxy を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t heartbeat/witnesshb@witnesshb1/proxy/use --set <設定値>
```

- HTTP タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t heartbeat/witnesshb@witnesshb1/http_timeout --set <設定値>
```

MDC 設定

ミラー通信専用を含む MDC の設定する場合は以下を設定してください。

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> mdc <デバイス ID> <IP アドレス>
```

注釈:

MDC が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

MDC が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

削除する

カーネルモード

```
clpcfadm.py del hb lankhb <デバイス ID>
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

ユーザモード

```
clpcfadm.py del hb lanhb <デバイス ID>
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

DISK

```
clpcfadm.py del hb diskhb <デバイス ID>
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +300 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add hb diskhb 0 <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> disk 0 <デバイスパス>
```

削除

```
clpcfadm.py del hb diskhb 300
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> 300
```


Witness

```
clpcfadm.py del hb witnesshb <デバイス ID>
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +700 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add hb witnesshb 0 <優先度>
clpcfadm.py add device <サーバ名> witness 0 <使用可否> <ターゲット IP アドレス: ポート番号>
```

削除

```
clpcfadm.py del hb witnesshb 700
clpcfadm.py del device <サーバ名> 700
```

MDC 設定

ミラー通信専用を含む MDC の設定を削除する場合は以下を設定してください。

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +400 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> mdc 0 <IP アドレス>
```

削除

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> 400
```

サーバダウン通知

- サーバダウン通知

サーバダウン通知	設定値
通知する (既定値)	1
通知しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/downnotify --set <設定値>
```

詳細設定 (サーバダウン通知)

- サーバリセット通知

サーバリセット通知	設定値
通知する	1
通知しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dyingnotify/use --set <設定値>
```

注釈: 「サーバダウン通知」の設定が「通知する」の場合に設定してください。

* サーバ生存確認を実行する

サーバ生存確認を実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dyingnotify/precheck/use --set <設定値>
```

注釈: 「サーバリセット通知」の設定が「通知する」の場合に設定してください。

・ タイムアウト (秒)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dyingnotify/precheck/ping/timeout ↵
↵ --set <設定値>
```

注釈: 「サーバ生存確認を実行する」の設定が「実行する」の場合に設定してください。

調整

・ オープン/クローズタイミング

オープン/クローズタイミング	設定値
起動/停止時のみ (既定値)	1

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

オープン/クローズタイミング	設定値
ハートビートインターバルごと	0

```
clpcfadm.py mod -t diskhb/onceopen --set <設定値> --nocheck
```

4.3 フェンシング

4.3.1 NP 解決

追加する

注釈:

NP 解決が 1 つの場合は、優先度に 0 を指定してください。

NP 解決が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

Ping

```
clpcfset add np pingnp <デバイス ID> <優先度> <グループ ID> <リスト ID> <IP アドレス>  
clpcfadm.py add device <サーバ名> ping <デバイス ID> <使用可否>
```

注釈: 使用可否は、使用する場合に 1、使用しない場合に 0 を設定してください。

注釈:

NP 解決 (Ping) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

NP 解決 (Ping) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

グループが 1 つの場合は、グループ ID に 0 を指定してください。

グループが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

同一グループ内で IP アドレスが 1 つの場合は、リスト ID に 0 を指定してください。

同一グループ内で IP アドレスが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

詳細設定

注釈: ハートビートタイムアウトは以下の計算式を満たすように設定する必要があります。

ハートビートタイムアウト > Ping NP インターバル × Ping NP リトライ + Ping NP タイムアウト

- インターバル (秒)
既定値:5 (最小値:2, 最大値:999)
clpcfadm.py mod -t networkpartition/pingnp@<pingnp 名 (pingnp1)>/
↪ interval --set <設定値>
- タイムアウト (秒)
既定値:3 (最小値:1, 最大値:999)
clpcfadm.py mod -t networkpartition/pingnp@<pingnp 名 (pingnp1)>/timeout.
↪ --set <設定値>
- リトライ回数
既定値:3 (最小値:1, 最大値:999)
clpcfadm.py mod -t networkpartition/pingnp@<pingnp 名 (pingnp1)>/count.
↪ --set <設定値>

HTTP

```
clpcfadm.py add np httpnp <デバイス ID> <優先度> --host <IP アドレス: ポート番号>  
clpcfadm.py add device <サーバ名> http <デバイス ID> <使用可否>
```

注釈: 使用可否は、使用する場合に 1、使用しない場合に 0 を設定してください。

注釈:

NP 解決 (HTTP) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

NP 解決 (HTTP) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈: Witness HB リソースの設定を使用する場合は、以下を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/witnesshb/use.  
↪ --set 1
```

- ターゲットホスト (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/host.  
↪ --set <ターゲットホスト>
```

- リクエスト URI(1023 バイト以内)

既定値:/

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/
↳requesturi --set <リクエスト URI>
```

- サービスポート

既定値:80 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/port
↳--set <設定値>
```

- SSL を使用する

SSL を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/ssl/use
↳--set <設定値>
```

- Proxy を使用する

Proxy を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/proxy/use
↳--set <設定値>
```

- インターバル (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/interval
↳--set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:20 (最小値:1, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/timeout
↳--set <設定値>
```

- HTTP タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/http_  
→timeout --set <設定値>
```

削除する

Ping

```
clpcfadm.py del np pingnp <デバイス ID>  
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +10200 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add np pingnp 0 <優先度> <グループ ID> <リスト ID> <IP アドレス>  
clpcfadm.py add device <サーバ名> ping 0 <使用可否>
```

削除

```
clpcfadm.py del np pingnp 10200  
clpcfadm.py del device <サーバ名> 10200
```

HTTP

```
clpcfadm.py del np httpnp <デバイス ID>  
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +10700 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add np httpnp 0 <優先度>  
clpcfadm.py add device <サーバ名> http 0 <使用可否>
```

削除

```
clpcfadm.py del np httpnp 10700  
clpcfadm.py del device <サーバ名> 10700
```

調整

- NP 発生時動作

NP 発生時動作	設定値
クラスタサービス停止	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	2
クラスタサービス停止と OS 再起動	3
sysrq パニック	4
keepalive リセット	5
keepalive パニック	6
BMC リセット	7
BMC パワーオフ	8
BMC パワーサイクル	9
BMC NMI	10

```
clpcfadm.py mod -t cluster/networkpartition/npaction --set <設定値>
```

4.3.2 強制停止

注釈: 強制停止を設定する場合は、サーバを 2 台以上設定してください。

追加する

BMC

```
clpcfadm.py add forcestop bmc
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

強制停止

- 強制停止アクション

強制停止アクション	設定値
BMC パワーオフ (既定値)	poweroff
BMC パワーサイクル	powercycle
BMC リセット	reset
BMC NMI	nmi

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/exec/timeout --set <設定値>
```


- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「BMC パワーオフ」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「BMC パワーサイクル」「BMC リセット」「BMC NMI」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する (既定値)	1
抑制しない	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/suppression --set <設定値>
```

注釈: BMC については、「5. サーバを設定する」 - 「サーバのパラメータを設定する」 - 「BMC」を設定してください。

vCenter

```
clpcfadm.py add forcestop vcenter
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/ip --set <ホスト名> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/user --set <ユーザ名> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/password --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/method --set <強制停止実行方法>
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/parameters/vmname --set <仮想マシン名> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/parameters/datacenter_  
→--set <データセンタ名> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/parameters/commandpath_  
→--set "" --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

サーバー一覧

- 仮想マシン名 (80 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバー名>/parameters/  
→vmname --set <仮想マシン名> --nocheck
```

- データセンタ名 (80 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバー名>/parameters/  
→datacenter --set <データセンタ名> --nocheck
```

強制停止

- 強制停止アクション

強制停止アクション	設定値
パワーオフ (既定値)	poweroff
リセット	reset

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「パワーオフ」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:10 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「リセット」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する (既定値)	1
抑制しない	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/suppression --set <設定値>
```

vCenter

- 強制停止実行方法

強制停止実行方法	設定値
vSphere Automation API (既定値)	restapi
VMware vSphere CLI	vcli

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/method --set <設定値>
```

- VMware vSphere CLI インストールパス (1023 バイト以内)

VMware vSphere CLI インストールパス
/usr/lib/vmware-vcli

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サ ー バ 名>/parameters/  
commandpath --set <VMware vSphere CLI インストールパス> --nocheck
```

注釈: 「強制停止実行方法」の設定が「vSphere Automation API」の場合には、空 (設定値無し) を必ず設定してください。

注釈: 設定するサーバに全て同じパスを設定してください。

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

- ホスト名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/ip --set <ホスト名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/user --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/password --set <暗号化  
されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

AWS

```
clpcfadm.py add forcestop aws
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/server@<サーバ名>/parameters/id --set <インスタンス ID> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

サーバー一覧

- インスタンス ID(31 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/server@<サーバ名>/parameters/id --set <インスタンス ID> --nocheck`

強制停止

- 強制停止アクション

設定値

stop (既定値)

reboot

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)
 既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/exec/timeout --set <設定値>`
- 停止完了待ち時間 (秒)
 既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/wait/timeout --set <設定値>`

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「stop」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)
 既定値:120 (最小値:0, 最大値:999)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/wait/fodelay --set <設定値>`

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「reboot」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する (既定値)	1

次のページに続く

表 4.18 – 前のページからの続き

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制しない	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/suppression --set <設定値>
```

Azure

```
clpcfadm.py add forcestop azure
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/useruri --set <アプリケーション ID>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/tenantid --set <テナント ID>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/certfile --set <サービスプリンシパルのファイルパス> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/rscgrp --set <リソースグループ名>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/server@<サーバ名>/parameters/vmname --set <仮想マシン名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

サーバー一覧

- 仮想マシン名 (31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/server@<サーバ名>/parameters/vmname
↳--set <仮想マシン名> --nocheck
```

強制停止

- 強制停止アクション

設定値
stop and deallocate (既定値)
stop only
reboot

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:15 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「stop」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:120 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/wait/fodelay --set <設定値>`

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「reboot」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する (既定値)	1
抑制しない	0

`clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/suppression --set <設定値>`

Azure

- アプリケーション ID(2048 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/useruri --set <アプリケーション ID> --nocheck`

- テナント ID(36 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/tenantid --set <テナント ID> --nocheck`

- サービスプリンシパルのファイルパス (1024 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/certfile --set <サービスプリンシパルのファイルパス> --nocheck`

- リソースグループ名 (90 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/rscgrp --set <リソースグループ名> --nocheck`

OCI

`clpcfadm.py add forcestop oci`

`clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/server@<サーバ名>/parameters/id --set <インスタンス ID> --nocheck`

`clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck`

サーバー一覧

- インスタンス ID(31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/server@<サーバ名>/parameters/id --set
<インスタンス ID> --nocheck
```

強制停止

- 強制停止アクション

設定値
stop (既定値)
reboot

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:15 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「stop」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:120 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「reboot」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する (既定値)	1
抑制しない	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/suppression --set <設定値>
```

カスタム

```
clpcfadm.py add forcestop custom
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/path --set forcestop.sh
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/account --set "" --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

強制停止

- 強制停止タイムアウト (秒)
既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/exec/timeout --set <設定値>`
- 停止失敗時にグループのフェイルオーバを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバを抑制する	設定値
抑制する (既定値)	1
抑制しない	0

`clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/suppression --set <設定値>`

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

`clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/default --set <設定値>`

注釈: 本パラメータを変更する場合、「パス」を変更してください。

- パス (1023 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/path --set <ファイル>`

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **forcestop.sh** を指定してください。

`clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/path --set forcestop.sh`

削除する (使用しない)

`clpcfadm.py del forcestop`

4.4 タイムアウト

- サービス起動遅延時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/startupdelay --set <設定値>
```

- 同期待ち時間 (秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:5940)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/bootwait --set <設定値>
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

ハートビート

- インターバル (ミリ秒)

既定値:3000 (最小値:1000, 最大値:99000)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/interval --set <設定値>
```

注釈: ミリ秒 (1000 で割り切れる値) で設定してください。

- タイムアウト (ミリ秒)

既定値:90000 (最小値:2000, 最大値:999000)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/timeout --set <設定値>
```

注釈: ミリ秒 (1000 で割り切れる値) で設定してください。

- 内部通信タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/api/timeout --set <設定値>
```

4.5 ポート番号

TCP

- 内部通信ポート番号

既定値:29001 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/api/port --set <設定値>
```

- Information Base ポート番号

既定値:29008 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/api/ibport --set <設定値>
```

- データ転送ポート番号

既定値:29002 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trns/port --set <設定値>
```

- WebManager HTTP ポート番号

既定値:29003 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/http/port --set <設定値>
```

- API HTTP ポート番号

既定値:29009 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rstd/http/port --set <設定値>
```

- API 内部通信ポート番号

既定値:29010 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rstd/service/port --set <設定値>
```

UDP

- ハートビートポート番号

既定値:29002 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/port/recv --set <設定値>
```

- カーネルモードハートビートポート番号

既定値:29006 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/khbport/recv --set <設定値>
```

- アラート同期ポート番号

既定値:29003 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t webalert/daemon/udpport --set <設定値>
```

4.6 ポート番号 (ミラー)

TCP

- ミラーエージェントポート番号

既定値:29004 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/port --set <設定値> --nocheck
```

4.7 ポート番号 (ログ)

- ログの通信方法

ログの通信方法	設定値
UDP	1
UNIX ドメイン (既定値)	0
メッセージキュー	2

```
clpcfadm.py mod -t cluster/event/method --set <設定値>
```

- ポート番号

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/event/port --set <設定値>
```

注釈: 「ログの通信方法」の設定が「UDP」の場合に設定してください。

4.8 監視

シャットダウン監視

- シャットダウン監視

シャットダウン監視	設定値
常に実行する	1
グループ非活性処理に失敗した場合のみ実行する (既定値)	2
実行しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/halt --set <設定値>
```

注釈: 「シャットダウン監視」の設定が「常に実行する」「グループ非活性処理に失敗した場合のみ実行する」の場合に設定してください。

- 監視方法

設定値
softdog
ipmi
keepalive (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t halt/method --set <設定値> --nocheck
```

- タイムアウト発生時動作

設定値 (「監視方法」の設定が「keepalive」の場合)	設定値 (「監視方法」の設定が「ipmi」の場合)
RESET (既定値)	RESET
PANIC	NMI (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t halt/action --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「監視方法」の設定が「keepalive」「ipmi」の場合に設定してください。

- SIGTERM を有効にする

SIGTERM を有効にする	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t haltp/term --set <設定値> --nocheck
```

- タイムアウト

タイムアウト	設定値
ハートビートのタイムアウトを使用する (既定値)	1
タイムアウトを指定する	0

```
clpcfadm.py mod -t haltp/usehb --set <設定値> --nocheck
```

- タイムアウトを指定する (秒)

既定値:90 (最小値:2, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t haltp/timeout --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「タイムアウト」の設定で「タイムアウトを指定する」の場合に設定してください。

注釈: ハートビートタイムアウトとシャットダウン監視のタイムアウトは以下の計算式を満たすように設定する必要があります。

ハートビートタイムアウト \geq シャットダウン監視のタイムアウト

4.9 リカバリ

- クラスタサービスのプロセス異常時動作

クラスタサービスのプロセス異常時動作	設定値
OS シャットダウン (既定値)	2
OS 再起動	3
sysrq パニック	5
keepalive リセット	6
keepalive パニック	7
BMC リセット	8
BMC パワーオフ	9
BMC パワーサイクル	10
BMC NMI	11

```
clpcfadm.py mod -t pm/exec0/recover --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t pm/exec1/recover --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t pm/exec2/recover --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

HA プロセス異常時動作

- プロセス起動リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t rm/agent/retrynum --set <設定値>
```

- リトライオーバー時の動作

リトライオーバー時の動作	設定値
何もしない (既定値)	1
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

```
clpcfadm.py mod -t rm/agent/action --set <設定値>
```

- グループリソースの活性/非活性ストール発生時動作

グループリソースの活性/非活性ストール発生時動作	設定値
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	2
クラスタサービス停止と OS 再起動	3
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14
何もしない (活性/非活性異常として扱う)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rsctimeout/rsctoaction --set <設定値>
```

異常検出時の OS 停止を伴う最終動作を抑制する

- グループリソースの活性異常検出時

他のサーバが全て停止している時に OS 停止を伴う最終動作を行わない	設定値
最終動作を行う	1
最終動作を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/survive/rscact --set <設定値>
```

- グループリソースの非活性異常検出時

他のサーバが全て停止している時に OS 停止を伴う最終動作を行わない	設定値
最終動作を行う	1
最終動作を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/survive/rscdeact --set <設定値>
```

- モニタリソースの異常検出時

他のサーバが全て停止している時に OS 停止を伴う最終動作を行わない	設定値
最終動作を行う	1

次のページに続く

表 4.36 – 前のページからの続き

他のサーバが全て停止している時に OS 停止を伴う最終動作を行わない	設定値
最終動作を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/survive/monitor --set <設定値>
```

両系活性検出時のシャットダウンを抑制する

- 両系活性検出時にシャットダウンしないサーバグループ

両系活性検出時にシャットダウンしないサーバグループ	設定値
シャットダウンする (既定値)	0
シャットダウンしない	1

```
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名>/survive --set <設定値>
```

- 両系活性検出時にシャットダウンしないサーバ

両系活性検出時にシャットダウンしないサーバ	設定値
シャットダウンする (既定値)	0
シャットダウンしない	1

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/survive --set <設定値>
```

4.10 アラートサービス

- アラート通報先を変更する

アラート通報先を変更する	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/messages/use --set <設定値>
```

追加する

注釈: 「モジュールタイプ」「イベント ID」の詳細は『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の「エラーメッセージ一覧」の「syslog、アラート、メール通報、SNMP トラップメッセージ、Message Topic」を参照してください。

– 送信先

アラート通報	設定値
設定する	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t messages/types@<モジュールタイプ> --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/syslog --set
→<設定値 (送信先 (System Log))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/alert --set <設
定値 (送信先 (Alert Logs))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/mail --set <設
定値 (送信先 (Mail Report))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/trap --set <設
定値 (送信先 (SNMP Trap))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/pubsub --set
→<設定値 (送信先 (Message Topic))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/altexec --set
→<設定値 (送信先 (Alert Extension))> --nocheck
```

注釈: 一部の送信先を変更する場合でも上記の通り、全ての送信先に対して設定してくだ

さい。

– コマンド (511 バイト以内)

追加する

```
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/cmd@<コマンド ID>/cmdline --set <コマンド> --nocheck
```

注釈: 「送信先 (Alert Extension)」が「設定する」の場合に設定してください。

注釈:

コマンドが 1 つの場合は、コマンド ID に 0 を指定してください。

コマンドが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

削除する

```
clpcfset del clsparam messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/cmd@<コマンド ID>
```

削除する

```
clpcfset del clsparam messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>
clpcfadm.py mod -t messages/types@<モジュールタイプ> --delete
```

メール通報

- メールアドレス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/address --set <メールアドレス>
```

- 件名 (127 バイト以内)

既定値:CLUSTERPRO

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/subject --set <件名>
```

- メール送信方法

設定値
MAIL (既定値)
SMTP

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/sendtype --set <設定値>
```

SMTP 設定

- メール送信文書の文字コード (127 バイト以内)

メール送信文書の文字コード
ISO-2022-jp
US-ASCII
GB2312

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/charset --set <メール送信文書の文字コード> --nocheck
```

- 通信応答待ち時間 (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/timeout --set <設定値>
```

- 件名のエンコードをする

件名のエンコードをする	設定値
エンコードをする	1
エンコードをしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/subencode --set <設定値>
```

SMTP サーバ

追加する

注釈:

SMTP サーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

SMTP サーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 優先順位

既定値: なし (最小値:0, 最大値:SMTP サーバ数-1)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/priority --set <設定値> --nocheck
```

- SMTP サーバ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/srvname --set <SMTP
サーバ> --nocheck
```

- SSL を使用する

SSL を使用する	設定値
使用する	1
使用しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/ssl/use --set <設定値>
> --nocheck
```

- 接続方法

設定値
SMTPS
STARTTLS

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/ssl/method --set <設定値>
--nocheck
```

注釈: 「SSL を使用する」の設定が「使用する」の場合に設定してください。

- SMTP ポート番号

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/port --set <設定値>
↪ --nocheck
```

- 差出人メールアドレス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/senderaddress --set
↪ <差出人メールアドレス> --nocheck
```

- SMTP 認証を有効にする

SMTP 認証を有効にする	設定値
有効にする	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/auth --set <設定値>
↪ --nocheck
```

注釈: 「SMTP 認証を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

- 認証方式

設定値
CRAM-MD5
LOGIN
PLAIN

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/authmethod --set <設定値> --nocheck
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/username --set <ユーザ名> --nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/passwd --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID> --delete
```

SNMP トラップ

送信先設定

注釈:

SNMP トラップの送信先サーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

SNMP トラップの送信先サーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

追加する

```

clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/srvname --set <送信先サーバ>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/port --set <SNMP ポート番号>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpver --set <SNMP バージョン>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpcom --set <SNMP コミュニティ名>
> --nocheck

```

- 送信先サーバ (255 バイト以内)

```

clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/srvname --set <送信先サーバ>
--nocheck

```

- SNMP ポート番号

既定値:162 (最小値:1, 最大値:65535)

```

clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/port --set <設定値>
↪--nocheck

```

- SNMP バージョン

設定値
v1
v2c (既定値)

```

clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpver --set <設定値>
--nocheck

```

- SNMP コミュニティ名 (255 バイト以内)

SNMP コミュニティ名
public (既定値)
private

```

clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpcom --set <SNMP コミュニティ名>
--nocheck

```

削除する

```

clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID> --delete

```

- syslog にログレベルを出力する

syslog にログレベルを出力する	設定値
出力する (既定値)	1
出力しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/syslog/format/level --set <設定値>
```

- ネットワーク警告灯を使用する

ネットワーク警告灯を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dn1000s/use --set <設定値>
```

重要: サーバプロパティの「警告灯」を設定してください。

注釈: 「使用する」場合は、以下を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t alertservice/types@dn1000s --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1 --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1/priority --set 0 --nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1/device --set 200000 --nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1/kind --set nm --nocheck
```

注釈: 「ネットワーク警告灯を使用する」の設定を「使用する」から「使用しない」に変更する場合は、以下を設定してください。

```
clpcfset del clsparam alertservice
```

4.11 WebManager

- WebManager サービスを有効にする

WebManager サービスを有効にする	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/use --set <設定値>
```

注釈: 「WebManager サービスを有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

- 通信方式

通信方式	設定値
HTTP (既定値)	0
HTTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/method --set <設定値>
```

重要: 「通信方式」の設定が「HTTPS」の場合、「[暗号化](#)」を設定してください。

- 同時接続セッション数

既定値:64 (最小値:10, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/maxclient --set <設定値>
```

パスワードによって接続を制御する

- パスワード方式

パスワード方式	設定値
クラスタパスワード方式 (既定値)	0
OS 認証方式	1

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/use --set <設定値>
```

クラスタパスワード方式

注釈: 「パスワード方式」の設定が「クラスタパスワード方式」の場合に設定してください。

– 操作用パスワード

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/adminpwd --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

– 参照用パスワード

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/userpwd --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

OS 認証方式

注釈: 「パスワード方式」の設定が「OS 認証方式」の場合に設定してください。

– 権限を与えるグループ

追加する

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/grouplist/ope@<グループ名> --set "" --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/grouplist/ope@<グループ名> --delete
```

– ログインセッションの有効時間 (分)

既定値:1440 (最小値:0, 最大値:525600)

- ```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/duration --set <設定値>
```
- 自動ログアウト時間 (分)
 

```
既定値:60 (最小値:0, 最大値:99999)
```

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/autologout/time --set
```

```
→ <設定値>
```
  - ロックアウトのしきい値 (回)
 

```
既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)
```

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/failure/count --set <設定値>
```
  - ロックアウト期間 (分)
 

```
既定値:10 (最小値:1, 最大値:99999)
```

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/failure/duration --set
```

```
→ <設定値>
```

- クライアント IP アドレスによって接続を制御する

| クライアント IP アドレスによって接続を制御する | 設定値 |
|---------------------------|-----|
| 制御する                      | 1   |
| 制御しない (既定値)               | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/iprest --set <設定値>
```

**注釈:** 「クライアント IP アドレスによって接続を制御する」の設定が「制御する」の場合に設定してください。

### 追加する

- IP アドレス (操作権あり)
 

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ip@<IP アドレス> --set
```

```
→ "" --nocheck
```
- IP アドレス (操作権なし)
 

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ipro@<IP アドレス>
```

```
--set "" --nocheck
```

### 削除する

- IP アドレス (操作権あり)
 

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ip@<IP アドレス>
```

```
→ --delete
```
- IP アドレス (操作権なし)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ipro@<IP アドレス>
--delete
```

### Cluster WebUI 操作ログ

- Cluster WebUI の操作ログを出力する

| Cluster WebUI の操作ログを出力する | 設定値 |
|--------------------------|-----|
| 出力する (既定値)               | 1   |
| 出力しない                    | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logopeuser/use --set <設定値>
```

- ログ出力先 (省略時、既定のログディレクトリに出力します) (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logopeuser/path --set <ログ出力先>
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「Cluster WebUI の操作ログを出力する」の設定が「出力する」場合に設定してください。

---

- ファイルサイズ (MB)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logopeuser/size --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「Cluster WebUI の操作ログを出力する」の設定が「出力する」場合に設定してください。

---

## 統合 WebManager

### 接続用 IP アドレス

#### 追加する

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/device@<ID>/type --set public --nocheck
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/device@<ID>/info --set <IP アドレス>
--nocheck
```

---

**注釈:**

追加する IP アドレスが 1 つの場合は、ID に 100 を指定してください。

追加する IP アドレスが複数の場合は、100, 101, 102 … のように連続する数字を指定してください。(最大値:199)

---

**削除する**

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/device@<ID> --delete
```

**調整**

- クライアントセッションタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/timeout --set <設定値>
```

- 画面データ更新インターバル (秒)

既定値:90 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/client/pollinginterval --set <設定値>
```

- ミラーエージェントタイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/mdagenttimeout --set <設定値>
```

- ログファイルダウンロード有効期限 (秒)

既定値:600 (最小値:60, 最大値:43200)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logc/timeout/getfile --set <設定値>
```

- 時刻情報表示機能を使用する

| 時刻情報表示機能を使用する | 設定値 |
|---------------|-----|
| 使用する (既定値)    | 1   |
| 使用しない         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/timeinfo/use --set <設定値>
```

## 4.12 API

- API サービスを有効にする

| API サービスを有効にする | 設定値 |
|----------------|-----|
| 有効にする          | 1   |
| 有効にしない (既定値)   | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rstcd/use --set <設定値> --nocheck
```

**重要:** 「API サービスを有効にする」の設定が「有効にする」の場合、「暗号化」を設定してください。

**注釈:** 「API サービスを有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

### – 通信方式

| 通信方式        | 設定値 |
|-------------|-----|
| HTTP        | 0   |
| HTTPS (既定値) | 1   |

```
clpcfadm.py mod -t rstcd/server/encryption/method --set <設定値> --nocheck
```

### – グループ単位で権限を設定する

| グループ単位で権限を設定する | 設定値 |
|----------------|-----|
| 設定する           | 1   |
| 設定しない (既定値)    | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rstcd/security/loginuser/use --set <設定値> --nocheck
```

**注釈:** 「グループ単位で権限を設定する」の設定が「設定する」場合に設定してください。

### 追加する

\* 操作権あり

```
clpcfadm.py mod -t rstd/security/loginuser/grouplist/ope@<グループ名>
↳--set "" --nocheck
```

\* 操作権なし

```
clpcfadm.py mod -t rstd/security/loginuser/grouplist/ref@<グループ名>
↳--set "" --nocheck
```

#### 削除する

\* 操作権あり

```
clpcfset del clsparam rstd/security/loginuser/grouplist/ope@<グループ名>
>
```

\* 操作権なし

```
clpcfset del clsparam rstd/security/loginuser/grouplist/ref@<グループ名>
>
```

- クライアント IP アドレスによって接続を制御する

| クライアント IP アドレスによって接続を制御する | 設定値 |
|---------------------------|-----|
| 制御する                      | 1   |
| 制御しない (既定値)               | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rstd/security/clientlist/iprest --set <設定値>
↳--nocheck
```

#### 接続を許可するクライアント IP アドレス

---

**注釈:** 「クライアント IP アドレスによって接続を制御する」の設定が「制御する」の場合に設定してください。

---

#### 追加する

\* IP アドレス (操作権あり)

```
clpcfadm.py mod -t rstd/security/clientlist/ip@<IP アドレス>
↳--set "" --nocheck
```

\* IP アドレス (操作権なし)

```
clpcfadm.py mod -t rstd/security/clientlist/ipro@<IP アドレス>
--set "" --nocheck
```

#### 削除する



- \* IP アドレス (操作権あり)  
`clpcfset del clsparam rstd/security/clientlist/ip@<IP アドレス>`
  - \* IP アドレス (操作権なし)  
`clpcfset del clsparam rstd/security/clientlist/ipro@<IP アドレス>`
- API サービスの操作ログを出力する

| API サービスの操作ログを出力する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 出力する (既定値)         | 1   |
| 出力しない              | 0   |

- `clpcfadm.py mod -t rstd/server/logopeuser/use --set <設定値> --nocheck`
- ログ出力先 (255 バイト以内)
- `clpcfadm.py mod -t rstd/server/logopeuser/path --set <ログ出力先> --nocheck`

---

**注釈:** 「API サービスの操作ログを出力する」の設定が「出力する」の場合に設定してください。

---

- ファイルサイズ (MB)
- 既定値:1 (最小値:1, 最大値:10)
- `clpcfadm.py mod -t rstd/server/logopeuser/size --set <設定値> --nocheck`

---

**注釈:** 「API サービスの操作ログを出力する」の設定が「出力する」の場合に設定してください。

---

## 調整

- 認証ロックアウトのしきい値 (回)
- 既定値:3 (最小値:1, 最大値:5)
- `clpcfadm.py mod -t rstd/security/authretry --set <設定値> --nocheck`
- HTTP サーバ起動リトライ回数
- 既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)
- `clpcfadm.py mod -t rstd/communication/http/retry --set <設定値> --nocheck`
- HTTP サーバ起動インターバル (秒)
- 既定値:5 (最小値:1, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t rstd/communication/http/interval --set <設 定 値>↵
↵--nocheck
```

## 4.13 暗号化

- 証明書ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/crtfile --set <証明書ファイル>
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

- 秘密鍵ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/keyfile --set <秘密鍵ファイル>
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

- SSL ライブラリ (1023 バイト以内)

| SSL ライブラリ                               |
|-----------------------------------------|
| /usr/lib64/libssl.so.10                 |
| /lib64/libssl.so.1.0.0                  |
| /lib/x86_64-linux-gnu/libssl.so.1.0.0   |
| /usr/lib64/libssl.so.1.1                |
| /usr/lib/x86_64-linux-gnu/libssl.so.1.1 |
| /usr/lib64/libssl.so.3                  |
| /usr/lib/x86_64-linux-gnu/libssl.so.3   |

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/ssllib --set <SSL ライブラリ>
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

---

- Crypto ライブラリ (1023 バイト以内)

| Crypto ライブラリ |
|--------------|
|--------------|

|                            |
|----------------------------|
| /usr/lib64/libcrypto.so.10 |
|----------------------------|

|                           |
|---------------------------|
| /lib64/libcrypto.so.1.0.0 |
|---------------------------|

|                                          |
|------------------------------------------|
| /lib/x86_64-linux-gnu/libcrypto.so.1.0.0 |
|------------------------------------------|

|                             |
|-----------------------------|
| /usr/lib64/libcrypto.so.1.1 |
|-----------------------------|

|                                            |
|--------------------------------------------|
| /usr/lib/x86_64-linux-gnu/libcrypto.so.1.1 |
|--------------------------------------------|

|                           |
|---------------------------|
| /usr/lib64/libcrypto.so.3 |
|---------------------------|

|                                          |
|------------------------------------------|
| /usr/lib/x86_64-linux-gnu/libcrypto.so.3 |
|------------------------------------------|

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/cryptolib --set <Crypto ライブラリ>
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

---

## 4.14 アラートログ

- アラートサービスを有効にする

| アラートサービスを有効にする | 設定値 |
|----------------|-----|
| 有効にする (既定値)    | 1   |
| 有効にしない         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t webalert/use --set <設定値>
```

- 保存最大アラートレコード数

既定値:10000 (最小値:1, 最大値:99999)

```
clpcfadm.py mod -t webalert/main/alertlog/maxrecordcount --set <設定値>
```

- 調査用のログファイルダウンロード機能を有効にする

| 調査用のログファイルダウンロード機能を有効にする | 設定値 |
|--------------------------|-----|
| 有効にする (既定値)              | 1   |
| 有効にしない                   | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t telem/ecap/use --set <設定値> --nocheck
```

### アラート同期

- 方法

| 方法            | 設定値 |
|---------------|-----|
| unicast (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t webalert/daemon/method --set <設定値>
```

- 通信タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:300)

```
clpcfadm.py mod -t webalert/daemon/timeout --set <設定値>
```

## 4.15 遅延警告

- ハートビート遅延警告 (%)

既定値:80 (最小値:0, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/delaywarn/heartbeat --set <設定値>
```

- モニタ遅延警告 (%)

既定値:80 (最小値:0, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/delaywarn/monitor --set <設定値>
```

## 4.16 ミラーエージェント

- 自動ミラー復帰

| 自動ミラー復帰         | 設定値 |
|-----------------|-----|
| 自動ミラー復帰する (既定値) | 1   |
| 自動ミラー復帰しない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/autorecovery --set <設定値> --nocheck
```

- 受信タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/servertimeout --set <設定値> --nocheck
```

- 送信タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/timeout --set <設定値> --nocheck
```

- 復帰データサイズ (KB)

既定値:4096 (最小値:64, 最大値:32768)

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/maxtransize --set <設定値> --nocheck
```

- 起動同期待ち時間 (秒)

既定値:10 (最小値:10, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/starttimeout --set <設定値> --nocheck
```

- クラスタパーティション I/O タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:300)

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/diskhb/timeout --set <設定値> --nocheck
```

### 復帰回数制限

- 復帰回数

既定値: なし (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/iteration_times --set <設定値> --nocheck
```

---

注釈: 「復帰回数制限しない」に変更する場合は、0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/iteration_times --set 0 --nocheck
```

---



## 4.17 ミラードライバ

- リクエストキューの最大数

既定値:2048 (最小値:2048, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/reqlimit/value --set <設定値> --nocheck
```

- 差分ビットマップサイズ (MB)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/bmpsize --set <設定値> --nocheck
```

- 差分ビットマップ更新インターバル (秒)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/bpchkinterval --set <設定値> --nocheck
```

- ミラー復帰 I/O サイズ (KB)

| 設定値      |
|----------|
| 4        |
| 64 (既定値) |

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/mirroriosize/iosize --set <設定値> --nocheck
```

- 非同期モードでの履歴記録領域サイズ (MB)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:200)

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/cphistorysize --set <設定値> --nocheck
```

### I/O エラー検出時の動作

- クラスタパーティション

| 設定値         |
|-------------|
| RESET (既定値) |
| PANIC       |

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/ioerror/cp/action --set <設定値> --nocheck
```

- データパーティション

| 設定値         |
|-------------|
| RESET (既定値) |
| PANIC       |
| NONE        |

```
clpcfadm.py mod -t mddriver/ioerror/dp/action --set <設定値> --nocheck
```

## 4.18 JVM 監視

- Java インストールパス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t jra/path/java --set <Java インストールパス> --nocheck
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

- 最大 Java ヒープサイズ (MB)

既定値:16 (最小値:7, 最大値:4096)

```
clpcfadm.py mod -t jra/javaopt/xmx --set <設定値> --nocheck
```

- Java VM 追加オプション (1024 バイト以内)

```
clpcfset add clsparam jra/javaopt/javaoptex <Java VM 追加オプション>
```

---

**注釈:** Java VM 追加オプションの先頭文字には "-" (ハイフン) を指定してください。

---

### ログ出力設定

- ログレベル

| 設定値        |
|------------|
| DEBUG      |
| INFO (既定値) |
| WARN       |
| ERROR      |
| FATAL      |

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/level --set <設定値> --nocheck
```

- 保持する世代数 (世代)

既定値:10 (最小値:2, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/count --set <設定値> --nocheck
```

### ローテーション方式

- ローテーション方式

| ローテーション方式     | 設定値 |
|---------------|-----|
| ファイルサイズ (既定値) | 1   |
| 時間            | 2   |

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/rotation/common --set <設定値> --nocheck
```

- 最大サイズ (KB)

既定値:3072 (最小値:200, 最大値:2097151)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/maxsize --set <設定値> --nocheck
```

---

**注釈:** 「ローテーション方式」の設定が「ファイルサイズ」の場合に設定してください。

---

- 開始時刻

既定値:00:00 (00:00 ~ 23:59)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/timerotation/point --set <設定値> --nocheck
```

---

**注釈:** 「ローテーション方式」の設定が「時間」の場合に設定してください。

---

- インターバル (時間)

既定値:24 (最小値:1, 最大値:8784)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/timerotation/interval --set <設定値> --nocheck
```

---

**注釈:** 「ローテーション方式」の設定が「時間」の場合に設定してください。

---

## リソース計測設定

### 共通

- リトライ回数

既定値:10 (最小値:1, 最大値:1440)

```
clpcfadm.py mod -t jra/measure/retry --set <設定値> --nocheck
```

- 異常判定しきい値 (回)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t jra/change/count --set <設定値> --nocheck
```

#### インターバル

- メモリ使用量・動作スレッド数 (秒)

既定値:60 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/measure/interval/value --set <設定値> --nocheck
```

- Full GC 発生回数・実行時間 (秒)

既定値:120 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/measure/interval/gc --set <設定値> --nocheck
```

#### WebLogic

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/retry --set <設定値> --nocheck
```

- 異常判定しきい値 (回)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/change/count --set <設定値> --nocheck
```

#### インターバル

- リクエスト数 (秒)

既定値:60 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/measure/interval --set <設定値>
↪--nocheck
```

- 平均値 (秒)

既定値:300 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/average/interval --set <設定値>
↪--nocheck
```

---

**注釈:** 平均値計測のインターバルはリクエスト数の計測インターバルに対して整数倍の数値を入力してください。

---

#### 接続設定

- 管理ポート番号

既定値:25500 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t jra/admin/port --set <設定値> --nocheck
```

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t jra/connect/retry --set <設定値> --nocheck
```

- 再接続までの待ち時間 (秒)

既定値:60 (最小値:15, 最大値:60)

```
clpcfadm.py mod -t jra/connect/wait --set <設定値> --nocheck
```

- コマンドタイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:30, 最大値:300)

```
clpcfadm.py mod -t jra/action/wait --set <設定値> --nocheck
```

## 4.19 クラウド

### Amazon SNS

- Amazon SNS 連携機能を有効にする

| Amazon SNS 連携機能を有効にする | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 有効にする                 | 1   |
| 有効にしない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/sns/use --set <設定値>
```

#### メッセージ送信先

---

**注釈:** 「Amazon SNS 連携機能を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

---

- 追加する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/sns/topicarns@<ID>/topicarn --set
↳<TopicArn> --nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/sns/topicarns@<ID>/region --set <リ
ジョン> --nocheck
```

---

#### 注釈:

メッセージ送信先が 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

メッセージ送信先が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

---

- 削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/sns/topicarns@<ID> --delete
```

### Amazon CloudWatch

- Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする

| Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 有効にする                        | 1   |
| 有効にしない (既定値)                 | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/metrics/aws/cloudwatch/use --set <設定値>
```

- Namespace(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/metrics/aws/cloudwatch/namespace --set
↪<Namespace>
```

---

**注釈:** 「Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

---

- メトリクスの送信インターバル

既定値:60 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/metrics/interval --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

---

## コマンドラインオプション (AWS CLI)

### AWS CLI コマンドラインオプション

- aws cloudwatch(2047 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/cloudwatch --set <コマンドライン
オプション>
```

- aws ec2(2047 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/ec2 --set <コマンドラインオプシ
ョン>
```

- aws route53(2047 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/route53 --set <コマンドラインオ
プション>
```

- aws sns(2047 バイト以内)



```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/sns --set <コマンドラインオプション>
```

## 環境変数

### AWS 関連機能実行時の環境変数

- 追加する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/envs/env@<ID>/name --set <名前> 前>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/envs/env@<ID>/value --set <値>
↳--nocheck
```

---

#### 注釈:

環境変数が 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

環境変数が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

---

- 削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/envs/env@<ID> --delete
```

## 4.20 統計情報

### クラスタ統計情報

- ハートビート

| ハートビート      | 設定値 |
|-------------|-----|
| 有効にする (既定値) | 1   |
| 有効にしない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/heartbeat/use --set <設定値>
```

- ファイルサイズ (MB)

既定値:50 (最小値:1, 最大値:50)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/heartbeat/size --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「ハートビート」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

---

- グループ

| グループ        | 設定値 |
|-------------|-----|
| 有効にする (既定値) | 1   |
| 有効にしない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/group/use --set <設定値>
```

- ファイルサイズ (MB)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/group/size --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「グループ」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

---

- グループリソース

| グループリソース    | 設定値 |
|-------------|-----|
| 有効にする (既定値) | 1   |
| 有効にしない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/resource/use --set <設定値>
```

– ファイルサイズ (MB)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/resource/size --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「グループリソース」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

---

- モニタリソース

| モニタリソース     | 設定値 |
|-------------|-----|
| 有効にする (既定値) | 1   |
| 有効にしない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/monitor/use --set <設定値>
```

– ファイルサイズ (MB)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/monitor/size --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「モニタリソース」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

---

## ミラー統計情報

- 統計情報を採取する

| 統計情報を採取する  | 設定値 |
|------------|-----|
| 採取する (既定値) | 1   |

次のページに続く

表 4.80 – 前のページからの続き

| 統計情報を採取する | 設定値 |
|-----------|-----|
| 採取しない     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t mdagent/perf/enable --set <設定値> --nocheck
```

#### システムリソース統計情報

- 統計情報を採取する

| 統計情報を採取する  | 設定値 |
|------------|-----|
| 採取する (既定値) | 1   |
| 採取しない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/sysinfo/collect --set <設定値>
```

## 4.21 拡張

### 再起動制限

- 最大再起動回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t reg/rc/halt/count --set <設定値> --nocheck
clpcfadm.py mod -t reg/rm/halt/count --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「最大再起動回数」に0を設定した場合、再起動の繰り返しを制限しません。

注釈: 「最大再起動回数」に0を設定した場合、再起動回数はリセットされません。

- 最大再起動回数をリセットする時間 (分)

既定値:60 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t reg/rc/halt/reset --set <設定値> --nocheck
clpcfadm.py mod -t reg/rm/halt/reset --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- ダウン後自動起動する

| ダウン後自動起動する       | 設定値 |
|------------------|-----|
| ダウン後自動起動する (既定値) | 1   |
| ダウン後自動起動しない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/isolate --set <設定値>
```

- マウント、アンマウントコマンドを排他する

| マウント、アンマウントコマンドを排他する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 排他する (既定値)           | 1   |
| 排他しない                | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/exclusion/mount --set <設定値>
```

- サーバグループ間のフェイルオーバー時の猶予時間 (ミリ秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99999000)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/fodelay --set <設定値>
```

**注釈:** ミリ秒 (1000 で割り切れる値) で設定してください。

- OS 停止動作を OS 再起動動作に変更する

| OS 停止動作を OS 再起動動作に変更する | 設定値 |
|------------------------|-----|
| 変更する                   | 1   |
| 変更しない (既定値)            | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/override/finalaction --set <設定値>
```

クラスタ動作の無効化 (保守作業目的での使用を推奨)

- グループ自動起動

| グループ自動起動     | 設定値 |
|--------------|-----|
| 無効にする        | 1   |
| 無効にしない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rc/autostart/group/disable --set <設定値> --nocheck
```

- グループリソースの活性異常検出時の復旧動作

| グループリソースの活性異常検出時の復旧動作 | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 無効にする                 | 1   |
| 無効にしない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rc/errordetect/rscact/norecovery --set <設定値> --nocheck
```

- グループリソースの非活性異常検出時の復旧動作

| グループリソースの非活性異常検出時の復旧動作 | 設定値 |
|------------------------|-----|
| 無効にする                  | 1   |
| 無効にしない (既定値)           | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rc/errordetect/rscdeact/norecovery --set <設定値> --nocheck
```

- モニタリソースの異常検出時の回復動作

| モニタリソースの異常検出時の回復動作 | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 無効にする              | 1   |
| 無効にしない (既定値)       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rm/errordetect/norecovery --set <設定値>
```

- サーバダウン時のフェイルオーバー

| サーバダウン時のフェイルオーバー | 設定値 |
|------------------|-----|
| 無効にする            | 1   |
| 無効にしない (既定値)     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t rc/svdowndetect/nofailover --set <設定値> --nocheck
```

## ログ保存期間設定

- ログ保存期間設定機能を使用する

| ログ保存期間設定機能を使用する | 設定値 |
|-----------------|-----|
| 使用する            | 1   |
| 使用しない (既定値)     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「ログ保存期間設定機能を使用する」の設定が「使用する」の場合に設定してください。

---

- ログ保存期間 (日)

既定値:7 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/period --set <設定値>
```

- ログ保存先 (170 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/path --set <ログ保存先>
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

- ログ保存タイミング

既定値: なし (00:00 ~ 23:59)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/time --set <設定値>
```



## 第 5 章

# サーバを設定する

---

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはサーバ名に **srv1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

## 5.1 サーバを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[サーバのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| サーバ名      |
| 優先度       |

```
clpcfadm.py add srv srv1 <優先度>
```

---

**注釈:** クラスタプロパティの「インタコネクト」が設定されている必要があります。

---

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

## 5.2 サーバ共通のパラメータを設定する

### 起動可能なサーバの優先順位

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/priority --set <起動可能なサーバの優先順位>
```

---

#### 注釈:

マスタサーバは、起動可能なサーバの優先順位に 0 を指定してください。

マスタサーバ以外のサーバは、1, 2, 3 … のように連続する数字を指定してください。

---

### サーバグループ

#### 追加する

```
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名>/comment --set <コメント>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名>/policy@<サーバ名>/order --set <優先順位> --nocheck
```

---

注釈: コメントに空白を含む場合はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

#### 注釈:

サーバグループに所属するサーバが 1 つの場合は、優先順位に 0 を指定してください。

サーバグループに所属するサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

---

#### 削除する

```
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名> --delete
```

## 5.3 サーバのパラメータを設定する

### 5.3.1 基本情報

- サーバ名 (31 バイト以内)

サーバ追加時に設定しています。サーバ名を変更したい場合は、サーバを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/comment --set <コメント> --nocheck
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

### 5.3.2 警告灯

#### 追加 (編集)

- 警告灯の種類

| 警告灯の種類                                | 設定値      |
|---------------------------------------|----------|
| DN-1000S / DN-1000R / DN-1300GL (既定値) | dn1000s  |
| DN-1500GL                             | dn1500gl |
| NH-FB シリーズ / NH-FB1 シリーズ              | patlite  |
| NH-FV1 シリーズ                           | nhfv1    |
| NHB シリーズ                              | nhb      |

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/type --set <設定値> --nocheck
```

---

**重要:** 「警告灯の種類」を変更する場合は以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/normal/voice --set "" --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/normal/voicefile --set ""
↪--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/error/voice --set "" --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/error/voicefile --set ""
↪--nocheck
```

---

• IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/info --set <設定値> --nocheck
```

• 通信方式

| 設定値 |
|-----|
| ssh |
| rsh |

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/lampmethod --set <設定値>
↪--nocheck
```

注釈: 「警告灯の種類」の設定が「NHB シリーズ」の場合に設定してください。

• サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う

| サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 行う                  | 1   |
| 行わない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/normal/voice --set <設定値>
↪--nocheck
```

注釈: 「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」「NH-FV1 シリーズ」の場合に設定してください。

• 音声ファイル番号

「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」の場合 既  
定値:01 (最小値:01, 最大値:20)

「警告灯の種類」の設定が「NH-FV1 シリーズ」の場合 既  
定値:65 (最小値:01, 最大値:70)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/normal/voicefile --set <設定値>
--nocheck
```

---

**注釈:** 「サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う」の設定が「行う」の場合に設定してください。

---

- サーバ停止時に音声ファイルの再生を行う

| サーバ停止時に音声ファイルの再生を行う | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 行う                  | 1   |
| 行わない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/error/voice --set <設定値>
↩--nocheck
```

---

**注釈:** 「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」「NH-FV1 シリーズ」の場合に設定してください。

---

- 音声ファイル番号

「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」の場合 既  
 定値:02 (最小値:01, 最大値:20)

「警告灯の種類」の設定が「NH-FV1 シリーズ」の場合 既  
 定値:66 (最小値:01, 最大値:70)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000/error/voicefile --set <設定値>
--nocheck
```

---

**注釈:** 「サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う」の設定が「行う」の場合に設定してください。

---

## 削除

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@200000 --delete
```

### 5.3.3 BMC

- BMC スキーム

| BMC スキーム   | 設定値 |
|------------|-----|
| IPMI (既定値) | 0   |
| Redfish    | 1   |

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/bmc/scheme --set <設定値>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/bmc/ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/bmc/user --set <ユーザ名> --nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/bmc/password --set <暗号化されたパスワード>
↪--nocheck
```

---

#### 注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

---

### 5.3.4 Proxy

- Proxy スキーム

| Proxy スキーム | 設定値 |
|------------|-----|
| なし (既定値)   | 0   |
| HTTP       | 1   |

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/proxy/scheme --set <設定値>
```

- Proxy サーバ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/proxy/server --set <Proxy サーバ>
```

---

**注釈:** 「Proxy スキーム」の設定が「HTTP」の場合に設定してください。

---

- Proxy ポート

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/proxy/port --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「Proxy スキーム」の設定が「HTTP」の場合に設定してください。

---



## 5.4 サーバを削除する

サーバ名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del srv srv1
```



## 第 6 章

# グループを設定する

---

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループ名に **failover1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

## 6.1 グループを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[グループのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

|           |
|-----------|
| 設定項目 (必須) |
|-----------|

|       |
|-------|
| グループ名 |
|-------|

| グループ種別       | 設定値             |
|--------------|-----------------|
| フェイルオーバーグループ | failover        |
| 管理グループ       | ManagementGroup |

```
clpcfadm.py add grp <グループ種別> <グループ名>
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

## 6.2 グループ共通のパラメータを設定する

### 6.2.1 排除

#### 追加する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名> --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/comment --set <コメント> --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/type --set <排除属性> --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/group@<排除対象のグループ> --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/order --set 0 --nocheck
```

- 排除名 (31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名> --set "" --nocheck
```

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/comment --set <コメント> --nocheck
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

- 排除属性

| 排除属性       | 設定値    |
|------------|--------|
| 通常排除 (既定値) | normal |
| 完全排除       | high   |

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/type --set <設定値> --nocheck
```

- 排除対象のグループ

#### 追加する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/group@<排除対象のグループ> --set ""
↪ --nocheck
```

#### 削除する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名>/group@<排除対象のグループ> --delete
```

#### 削除する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排除名> --delete
```

## 6.3 グループのパラメータを設定する

### 6.3.1 基本情報

- サーバグループ設定を使用する

#### 設定する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/svgpolicy@<ID>/order --set <サーバグループの優先順位> --nocheck
clpcfadm.py mod -t group@failover1/svgpolicy@<ID>/svgname --set <サーバグループ名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名>/order --set <優先度> --nocheck
```

#### 削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/svgpolicy@<ID> --delete
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy --delete
```

- グループ名 (31 バイト以内)

グループ追加時に設定しています。グループ名を変更したい場合は、グループを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

### 6.3.2 起動サーバ

- 全てのサーバでフェイルオーバー可能 (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名> --delete
```

---

**注釈:** 設定済みの全てのサーバを削除してください。

---

- 個別に設定する

#### 追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名>/order --set <起動順位>
↳ --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名> --delete
```

### 6.3.3 属性

- グループ起動属性

| グループ起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/start --set <設定値>
```

- 両系活性チェックを行う

| 両系活性チェックを行う     | 設定値 |
|-----------------|-----|
| チェックを行う         | 1   |
| チェックを行わない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/checksvv/use --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/checksvv/preactping/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「両系活性チェックを行う」の設定が「チェックを行う」の場合に設定してください。

---

### フェイルオーバー属性

- フェイルオーバー属性

#### 自動フェイルオーバー

- 起動可能なサーバ設定に従う

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 1
```

- ダイナミックフェイルオーバーを行う

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 100
```

\* サーバグループ内のフェイルオーバーポリシーを優先する

| サーバグループ内のフェイルオーバーポリシーを優先する | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 優先する                       | 1   |
| 優先しない (既定値)                | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/srvgrp/use_
```

```
↪ --set <設定値>
```

\* スマートフェイルオーバーを行う

| スマートフェイルオーバーを行う         | 設定値 |
|-------------------------|-----|
| スマートフェイルオーバーを行う         | 1   |
| スマートフェイルオーバーを行わない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/sra/use_
```

```
↪ --set <設定値>
```

- サーバグループ内のフェイルオーバーポリシーを優先する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 200
```

\* サーバグループ間では手動フェイルオーバーのみを有効とする

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 201
```

- 手動フェイルオーバー

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 0
```

## フェイルオーバー属性 (拡張)

- 指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する

| 指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する | 設定値 |
|------------------------------------------|-----|
| 除外する                                     | 1   |
| 除外しない (既定値)                              | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/blacklist/use --set <設定値>
```

## モニタの編集



**注釈:** 「指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する」の設定が「除外する」の場合に設定してください。

- モニタリソースタイプ

追加する

| モニタリソースタイプ              | 設定値      |
|-------------------------|----------|
| AWS AZ モニタ              | awsazw   |
| AWS DNS モニタ             | awsdns   |
| AWS Elastic IP モニタ      | awseipw  |
| AWS セカンダリ IP モニタ        | awssipw  |
| AWS 仮想 IP モニタ           | awsvipw  |
| Azure DNS モニタ           | azuredns |
| Azure ロードバランスマニタ        | azurelbw |
| Azure プローブポートモニタ        | azureppw |
| DB2 モニタ                 | db2w     |
| ダイナミック DNS モニタ          | ddns     |
| ディスクモニタ                 | diskw    |
| フローティング IP モニタ          | fipw     |
| FTP モニタ                 | ftpw     |
| Google Cloud DNS モニタ    | gcdns    |
| Google Cloud ロードバランスマニタ | gclbw    |
| Google Cloud 仮想 IP モニタ  | gcvipw   |
| カスタムモニタ                 | genw     |
| ハイブリッドディスクコネクタモニタ       | hdnw     |
| ハイブリッドディスクモニタ           | hdw      |
| HTTP モニタ                | httpw    |
| IMAP4 モニタ               | imap4w   |
| JVM モニタ                 | jraw     |
| LB プローブポートモニタ           | lbppw    |
| ミラーディスクモニタ              | mdw      |
| 外部連携モニタ                 | mrw      |
| マルチターゲットモニタ             | mtw      |
| MySQL モニタ               | mysqlw   |
| NFS モニタ                 | nfs      |
| Oracle Cloud DNS モニタ    | ocdns    |

次のページに続く

表 6.9 – 前のページからの続き

| モニタリソースタイプ              | 設定値        |
|-------------------------|------------|
| Oracle Cloud ロードバランスモニタ | oclbw      |
| Oracle Cloud 仮想 IP モニタ  | ocvipw     |
| ODBC モニタ                | odbcw      |
| Oracle モニタ              | oraclew    |
| WebOTX モニタ              | otxw       |
| PID モニタ                 | pidw       |
| POP3 モニタ                | pop3w      |
| PostgreSQL モニタ          | psqlw      |
| プロセスリソースモニタ             | psrw       |
| プロセス名モニタ                | psw        |
| Samba モニタ               | sambaw     |
| SMTP モニタ                | smtpw      |
| SQL Server モニタ          | sqlserverw |
| システムモニタ                 | sraw       |
| Tuxedo モニタ              | tuxw       |
| ボリュームマネージャモニタ           | volmgrw    |
| WebSphere モニタ           | wasw       |
| WebLogic モニタ            | wls        |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/blacklist/target_
→--set <設定値>
```

**注釈:** 複数のモニタリソースタイプを設定する場合には カンマ (,) 区切りで設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/blacklist/target_
→--set ipw,miw
```

#### 削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/blacklist/target_
→--delete
```

**重要:** 設定済みの全てのモニタリソースタイプを削除します。

- モニタリソースグループ

#### 追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/blacklist/
→targetgrp@0/rsc@<モニタリソース名> --set "" --nocheck
```

#### 削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/blacklist/
→targetgrp@0/rsc@<モニタリソース名> --delete
```

- 全てのサーバで異常を検出している場合、異常を無視してフェイルオーバーを行う

| 全てのサーバで異常を検出している場合、異常を無視してフェイルオーバーを行う | 設定値 |
|---------------------------------------|-----|
| フェイルオーバーを行う                           | 1   |
| フェイルオーバーを行わない (既定値)                   | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/forcefo/use --set <設定値>
```

**注釈:** 「指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する」の設定が「除外する」の場合に設定してください。

## フェイルバック属性

- フェイルバック属性

| フェイルバック属性       | 設定値 |
|-----------------|-----|
| 自動フェイルバック       | 1   |
| 手動フェイルバック (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failback --set <設定値>
```

### 6.3.4 起動待ち合わせ

- 対象グループ

#### 追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/depend@<グループ名> --set ""
→--nocheck
```

#### 削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/depend@<グループ名> --delete
```

## プロパティ

- 同じサーバで起動する場合のみ待ち合わせを行う

| 同じサーバで起動する場合のみ待ち合わせを行う | 設定値 |
|------------------------|-----|
| 待ち合わせを行う               | 1   |
| 待ち合わせを行わない (既定値)       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/depend@<サーバ名>/sameserver
↪--set <設定値> --nocheck
```

- 対象グループの起動待ち時間 (秒)

既定値:1800 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/timeout --set <設定値>
```

## 6.3.5 停止待ち合わせ

- 対象グループ

## 追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/depend@<グループ名> --set ""
↪--nocheck
```

## 削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/depend@<グループ名> --delete
```

- 対象グループの起動待ち時間 (秒)

既定値:1800 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/timeout --set <設定値>
```

- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる

| クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる | 設定値 |
|--------------------------|-----|
| 停止を待ち合わせる (既定値)          | 1   |
| 停止を待ち合わせない               | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/cluster/use --set <設定値>
```

- サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる

| サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる | 設定値 |
|-------------------------|-----|
| 停止を待ち合わせる               | 1   |
| 停止を待ち合わせない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/server/use --set <設定値>
```

- グループ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる

| グループ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる | 設定値 |
|--------------------------|-----|
| 停止を待ち合わせる                | 1   |
| 停止を待ち合わせない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/other/use --set <設定値>
```

- 対象グループの停止失敗時に停止待ち時間まで待機する

| 対象グループの停止失敗時に停止待ち時間まで待機する | 設定値 |
|---------------------------|-----|
| 待機する (既定値)                | 1   |
| 待機しない                     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/failedbutwait --set <設定値>
```

---

#### 注釈:

以下のいずれかの設定が「停止を待ち合わせる」の場合に設定してください。

- 「クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる」
  - 「サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる」
  - 「グループ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる」
-

## 6.4 グループを削除する

グループ名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del grp failover1
```

## 第 7 章

# グループリソースを設定する

### 7.1 AWS DNS リソース

---

#### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awsdns1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

#### 7.1.1 AWS DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
|-----------|

|           |
|-----------|
| グループリソース名 |
|-----------|

|           |
|-----------|
| ホストゾーン ID |
|-----------|

|              |
|--------------|
| リソースレコードセット名 |
|--------------|

|         |
|---------|
| IP アドレス |
|---------|

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awsdns awsdns1
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/hostedzoneid --set <ホストゾーン ID>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/recordset --set <リソースレコードセット名>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/ip --set <IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/server@<サーバ名>/parameters/ip --set <IP アドレス (個別)> --nocheck
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

## 7.1.2 AWS DNS リソースのパラメータを設定する

### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

### 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awsdns awsdns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awsdns awsdns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awsdns awsdns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/depend@<依存するリソース名> --delete
```



## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動         | 5   |
| sysrq パニック                 | 8   |
| keepalive リセット             | 9   |
| keepalive パニック             | 10  |
| BMC リセット                   | 11  |
| BMC パワーオフ                  | 12  |
| BMC パワーサイクル                | 13  |
| BMC NMI                    | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

### - ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

### - ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/path --set
↳ <ファイル> --nocheck
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---



---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/path --set_
↳ preaction.sh
```

---

### - タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/timeout_
↳ --set <設定値>
```

## 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/path --set
↪ <ファイル> --nocheck
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/path --set
↪ predeactaction.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/timeout
↪ --set <設定値>
```

## 詳細

### 共通

- ホストゾーン ID(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/hostedzoneid --set <ホ
ストゾーン ID>
```

- リソースレコードセット名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/recordset --set <リ
ソースレコードセット名>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

- TTL(秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:2147483647)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/ttl --set <設定値>
```

- 非活性時にリソースレコードセットを削除する

| 非活性時にリソースレコードセットを削除する | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 削除する                  | 1   |
| 削除しない (既定値)           | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/delete --set <設定値>
```

## 調整

### AWS CLI

- タイムアウト (秒)  
既定値:100 (最小値:1, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/awsclictimeout_`  
→ `--set <設定値>`

## 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/server@<サ ー バ 名>/parameters/ip_
→ --set <IP アドレス> --nocheck
```

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/start --set <設定値>
```

## 活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

| リソース非活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

| リソース非活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```

clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/default --set <設定値>

```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```

clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/path --set <ファイル>

```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---



---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```

clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/path --set
↪ rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/path --set

```

↪rscentent.sh

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.1.3 AWS DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awsdns awsdns1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---



## 7.2 AWS Elastic IP リソース

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awseip1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

### 7.2.1 AWS Elastic IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS Elastic IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須)         |
|-------------------|
| グループリソース名         |
| EIP ALLOCATION ID |
| ENI ID            |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awseip awseip1
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/allocid --set <EIP ALLOCATION ID>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/eniid --set <ENI ID(共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/server@<サーバ名>/parameters/eniid --set <ENI ID(個別)> --nocheck
```

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

### 7.2.2 AWS Elastic IP リソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awseip awseip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awseip awseip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awseip awseip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |

次のページに続く

表 7.16 – 前のページからの続き

| 最終動作                   | 設定値 |
|------------------------|-----|
| クラスタサービス停止             | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動     | 5   |
| sysrq パニック             | 8   |
| keepalive リセット         | 9   |
| keepalive パニック         | 10  |
| BMC リセット               | 11  |
| BMC パワーオフ              | 12  |
| BMC パワーサイクル            | 13  |
| BMC NMI                | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---



---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/path --set
↳ preactaction.sh
```

---

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/timeout
↳ --set <設定値>
```

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/path --set
↪ <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/path --set
↳ predeactaction.sh
```

---

#### – タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/timeout
↳ --set <設定値>
```

## 詳細

## 共通

- EIP ALLOCATION ID(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/allocid --set <EIP
↳ ALLOCATION ID>
```

- ENI ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/eniid --set <ENI ID>
```

## 調整

### AWS CLI

- タイムアウト (秒)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/awsclitimeout
↳ --set <設定値>
```

## 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- ENI ID

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/server@<サーバ名>/parameters/eniid
↳ --set <ENI ID> --nocheck
```

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

| リソース非活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

| リソース非活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/use --set <設定値>
```

#### スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---



---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/path --set_
↪ rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/path --set_
↪ rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/timeout --set <設定値>
>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.2.3 AWS Elastic IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awseip awseip1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.3 AWS セカンダリ IP リソース

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awssip1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

### 7.3.1 AWS セカンダリ IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS セカンダリ IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| IP アドレス   |
| ENI ID    |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awssip awssip1
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/eniid --set <ENI ID(共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/server@<サーバ名>/parameters/eniid --set
→<ENI ID(個別)> --nocheck
```

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

### 7.3.2 AWS セカンダリ IP リソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/comment --set <コメント>
```

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awssip awssip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awssip awssip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awssip awssip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |

次のページに続く

表 7.29 – 前のページからの続き

| 最終動作               | 設定値 |
|--------------------|-----|
| クラスタサービス停止と OS 再起動 | 5   |
| sysrq パニック         | 8   |
| keepalive リセット     | 9   |
| keepalive パニック     | 10  |
| BMC リセット           | 11  |
| BMC パワーオフ          | 12  |
| BMC パワーサイクル        | 13  |
| BMC NMI            | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

### – ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/preaction/path --set
↳ preactaction.sh
```

#### – タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/act/preaction/timeout
↳ --set <設定値>
```

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/deact/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/deact/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/deact/preaction/path --set_
↳ predeactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/deact/preaction/timeout_
↳ --set <設定値>
```

## 詳細

## 共通

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

- ENI ID(48 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/eniid --set <ENI ID>
```

## 調整

- 起動タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/timeout/start_
↳ --set <設定値>
```

- 停止タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/timeout/stop --set
↳ <設定値>
```

## 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- ENI ID(48 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/server@<サーバ名>/parameters/eniid_
↳ --set <ENI ID> --nocheck
```

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

| リソース非活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/use --set <設定値>
```



- リソース非活性後にスクリプトを実行する

| リソース非活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/use --set <設定値>
```

#### スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/path --set
↪ rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/path --set
↪ rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/timeout --set <設 定
値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/timeout --set <設 定 値
>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/timeout --set <設 定
値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.3.3 AWS セカンダリ IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awssip awssip1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.4 AWS 仮想 IP リソース

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awsvip1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

### 7.4.1 AWS 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS 仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| IP アドレス   |
| VPC ID    |
| ENI ID    |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awsvip awsvip1
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/vpcid --set <VPC ID(共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サーバ名>/parameters/vpcid --set
→<VPC ID(個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/eniid --set <ENI ID(共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サーバ名>/parameters/eniid --set
→<ENI ID(個別)> --nocheck
```

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

## 7.4.2 AWS 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

---

### 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awsvip awsvip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awsvip awsvip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awsvip awsvip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

### 復旧動作

#### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動         | 5   |
| sysrq パニック                 | 8   |
| keepalive リセット             | 9   |
| keepalive パニック             | 10  |
| BMC リセット                   | 11  |
| BMC パワーオフ                  | 12  |
| BMC パワーサイクル                | 13  |
| BMC NMI                    | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

次のページに続く

表 7.44 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別

設定値

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/path --set_
↳ preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/timeout_
↳ --set <設定値>
```

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                  | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)  | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない) | 1   |

次のページに続く

表 7.45 – 前のページからの続き

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/path --set
↪ <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/path --set
↪ predeactaction.sh
```

---

#### – タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/timeout
↪ --set <設定値>
```

## 詳細

### 共通

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

- VPC ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/vpcid --set <VPC ID>
```

- ENI ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/eniid --set <ENI ID>
```

### 調整

- 起動タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/timeout/start
↪ --set <設定値>
```

- 停止タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:9999)



```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/timeout/stop --set
 ↳<設定値>
```

### 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- VPC ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サーバ名>/parameters/vpcid
 ↳--set <VPC ID> --nocheck
```

- ENI ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サーバ名>/parameters/eniid
 ↳--set <ENI ID> --nocheck
```

### 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/start --set <設定値>
```

### 活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

| リソース非活性化前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

| リソース非活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/default --set <設定値>
```

---

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/path --set <ファイル>
>
```

---

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/path --set_
↪ rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/path --set_
↪ rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/timeout --set <設定値>
>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

値>

---

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.4.3 AWS 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awsvip awsvip1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.5 Azure DNS リソース

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **azuredns1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

### 7.5.1 Azure DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須)         |
|-------------------|
| グループリソース名         |
| レコードセット名          |
| ゾーン名              |
| IP アドレス           |
| リソースグループ名         |
| アプリケーション ID       |
| テナント ID           |
| サービスプリンシパルのファイルパス |
| Azure CLI ファイルパス  |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> azuredns azuredns1
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/recordset --set <レコードセ
ット名>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/zone --set <ゾーン名>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/ip --set <IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/server@<サーバ名>/parameters/ip --set
→<IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/resourcegroup --set <リソ
ースグループ名>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/uri --set <アプリケーション
ID>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/tenantid --set <テナント ID>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/certfile --set <サービスプリ
ンシパルのファイルパス>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/azurecli --set <Azure CLI_
→ ファイルパス>
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

## 7.5.2 Azure DNS リソースのパラメータを設定する

### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

### 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep azuredns azuredns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep azuredns azuredns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep azuredns azuredns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動         | 5   |
| sysrq パニック                 | 8   |
| keepalive リセット             | 9   |
| keepalive パニック             | 10  |
| BMC リセット                   | 11  |
| BMC パワーオフ                  | 12  |
| BMC パワーサイクル                | 13  |
| BMC NMI                    | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

### - ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

---

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

### - ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/path_
↳ --set <ファイル>
```

---

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---



---

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/path_
↳ --set preaction.sh
```

---

### - タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/timeout_
↳ --set <設定値>
```

## 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/retry --set <設定値>
```



- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/preaction/
default --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/preaction/path_
↪--set <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/preaction/path_
↪--set predeactaction.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

## 詳細

### 共通

- レコードセット名 (253 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/recordset --set <レ
コードセット名>
```

- ゾーン名 (253 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/zone --set <ゾーン名
>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/ip --set <IP アドレス
>
```

- TTL(秒)

既定値:3600 (最小値:0, 最大値:2147483647)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/ttl --set <設定値>
```

- リソースグループ名 (180 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/resourcegroup
↳--set <リソースグループ名>
```

- アプリケーション ID (2083 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/uri --set <ア プ リ
ケーション ID>
```

- テナント ID (36 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/tenantid --set <テ
ナント ID>
```

- サービスプリンシパルのファイルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/certfile --set
↳<サービスプリンシパルのファイルパス>
```

- サービスプリンシパルの thumbprint (256 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/thumbprint --set
↳<サービスプリンシパルの thumbprint>
```

- Azure CLI ファイルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/azurecli --set
↳<Azure CLI ファイルパス>
```

- 非活性時にリソースレコードセットを削除する

| 非活性時にリソースレコードセットを削除する | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 削除する (既定値)            | 1   |
| 削除しない                 | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/delete --set <設定値
>
```

## 調整

### Azure CLI

- タイムアウト (秒)  
既定値:100 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/
↪ azureclitimeout --set <設定値>
```

### 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/server@<サーバ名>/parameters/
↪ ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

### 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/start --set <設定値>
```

### 活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |

次のページに続く

表 7.64 – 前のページからの続き

| リソース活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

| リソース非活性化前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

| リソース非活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/default --set
↪ <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/default --set
↪ <設定値>
```

---

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/path --set
↳<ファイル>
```

---

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---



---

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/path --set
↳rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/path --set
↳rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/path --set
↳rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/path --set
↳rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/timeout --set
```

↪ <設定値>

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/timeout --set
```

↪ <設定値>

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.5.3 Azure DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> azuredns azuredns1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.6 Azure プローブポートリソース

---

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **azurepp1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

### 7.6.1 Azure プローブポートリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure プローブポートリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| プローブポート   |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> azurepp azurepp1
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/parameters/probeport --set <プローブポート>
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

### 7.6.2 Azure プローブポートリソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---



## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep azurepp azurepp1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep azurepp azurepp1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep azurepp azurepp1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動         | 5   |
| sysrq パニック                 | 8   |
| keepalive リセット             | 9   |
| keepalive パニック             | 10  |

次のページに続く

表 7.69 – 前のページからの続き

| 最終動作        | 設定値 |
|-------------|-----|
| BMC リセット    | 11  |
| BMC パワーオフ   | 12  |
| BMC パワーサイクル | 13  |
| BMC NMI     | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/path --set
↪ <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を

設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/path --set
↳preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/timeout
↳--set <設定値>
```

## 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

### スクリプト設定

#### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

#### – ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/path_
↪ --set predeactaction.sh
```

#### – タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/timeout
↪ --set <設定値>
```

## 詳細

- プローブポート

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/parameters/probeport --set <設定値>
```

## 調整

- プローブ待ち受けのタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/parameters/probetimeout --set
↪ <設定値>
```

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性化後にスクリプトを実行する

| リソース活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

| リソース非活性化前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

| リソース非活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/default --set <設定値>
```

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/default --set <設定値>
```

---

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/path --set_
```

```
↪rscentent.sh
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/path --set_
```

```
↪rscentent.sh
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/path --set_
```

```
↪rscentent.sh
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/path --set_
```

```
↪rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.6.3 Azure プローブポートリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> azurepp azurepp1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---



## 7.7 ダイナミック DNS リソース

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **ddns1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

### 7.7.1 ダイナミック DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ダイナミック DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| 仮想ホスト名    |
| IP アドレス   |
| DDNS サーバ  |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> ddns ddns1
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ddnsname --set <仮想ホスト名>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ip --set <IP アドレス>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/name --set <DDNS サーバ>
```

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

### 7.7.2 ダイナミック DNS リソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

---

## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep ddns ddns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep ddns ddns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep ddns ddns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |

次のページに続く

表 7.82 – 前のページからの続き

| 最終動作               | 設定値 |
|--------------------|-----|
| クラスタサービス停止と OS 再起動 | 5   |
| sysrq パニック         | 8   |
| keepalive リセット     | 9   |
| keepalive パニック     | 10  |
| BMC リセット           | 11  |
| BMC パワーオフ          | 12  |
| BMC パワーサイクル        | 13  |
| BMC NMI            | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

### – ファイル (1023 バイト以内)

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preactaction.sh** を設定してください。

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/path --set ↵
↵preactaction.sh
```

---

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/timeout --set <設定値>
```

#### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/action --set <設定値>
```

---

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/default --set
↪<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/path --set
↪<ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/path --set
↪predeactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/timeout --set
```

↪ <設定値>

#### 詳細

#### 共通

- 仮想ホスト名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ddnsname --set <仮想ホスト名>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ip --set <IP アドレス>
```

- DDNS サーバ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/name --set <DDNSサーバ>
```

- ポート番号

既定値:53 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/port --set <設定値>
```

- 認証キー名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/keyname --set <認証キー名>
```

- 認証キー値 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/keyvalue --set
↪ <認証キー値>
```

#### 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/server@<サーバ名>/parameters/host/ip
↪ --set <IP アドレス> --nocheck
```

---

**注釈:** 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/server@<サーバ名> --delete
```

---

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

| リソース非活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

| リソース非活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/default --set <設定値>
```

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/path --set <ファイル>
```



---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.7.3 ダイナミック DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> ddns ddns1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.8 ディスクリソース

---

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **disk1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

### 7.8.1 ディスクリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ディスクリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| ファイルシステム  |
| デバイス名     |
| マウントポイント  |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> disk disk1
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fs --set <ファイルシステム>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/device --set <デバイス名>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/mount/point --set <マウントポイント>
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

### 7.8.2 ディスクリソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep disk disk1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep disk disk1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep disk disk1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |

次のページに続く

表 7.95 – 前のページからの続き

| 最終動作               | 設定値 |
|--------------------|-----|
| クラスタサービス停止と OS 再起動 | 5   |
| sysrq パニック         | 8   |
| keepalive リセット     | 9   |
| keepalive パニック     | 10  |
| BMC リセット           | 11  |
| BMC パワーオフ          | 12  |
| BMC パワーサイクル        | 13  |
| BMC NMI            | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/preaction/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

### – ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/preaction/path --set ↵
↵preactaction.sh
```

#### – タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/act/preaction/timeout --set <設定値>
```

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/deact/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/deact/preaction/path --set
↳<ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/deact/preaction/path --set
↳predeactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)  
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/deact/preaction/timeout --set  
↪ <設定値>

詳細  
共通

- ディスクタイプ

| 設定値        |
|------------|
| disk (既定値) |
| raw        |
| lvm        |

clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/disktype --set <設定値>

- ファイルシステム (15 バイト以内)

| ファイルシステム |
|----------|
| ext3     |
| ext4     |
| xfs      |
| reiserfs |
| vxfs     |
| zfs      |

clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fs --set <ファイルシステム>

注釈: 「ディスクタイプ」の設定が「disk」「lvm」の場合に設定してください。

- デバイス名 (1023 バイト以内)

clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/device --set <デバイス名>

注釈: 絶対パスで指定してください。

- RAW デバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/rawdevice --set <RAW デバイス名>
```

---

注釈: 「ディスクタイプ」の設定が「raw」の場合に設定してください。

---

- マウントポイント (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/mount/point --set <マウントポイント>
```

---

注釈: 絶対パスで指定してください。

---

---

注釈: 「ディスクタイプ」の設定が「disk」「lvm」の場合に設定してください。

---

## 調整

「ディスクタイプ」の設定が「disk」「lvm」の場合

### マウント

- マウントオプション (1023 バイト以内)

既定値:rw

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/mount/option --set
↳<マウントオプション>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/mount/timeout --set
↳<設定値>
```

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/mount/retry --set
↳<設定値>
```

### アンマウント

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/umount/timeout
↳--set <設定値>
```

- リトライ回数



既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/umount/retry --set
```

↪ <設定値>

- リトライインターバル

既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/umount/interval
```

↪ --set <設定値>

- 異常検出時の強制動作

| 異常検出時の強制動作 | 設定値  |
|------------|------|
| 強制終了 (既定値) | kill |
| 何もしない      | none |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/umount/action --set
```

↪ <設定値>

## fsck

注釈: 「ファイルシステム」の設定が「xfs 以外」の場合に設定してください。

- fsck オプション (1023 バイト以内)

既定値:-y

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fsck/option --set
```

↪ <fsck オプション>

- fsck タイムアウト

既定値:7200 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fsck/timeout --set
```

↪ <設定値>

## Mount 実行前の fsck アクション

- Mount 実行前の fsck アクション

| Mount 実行前の fsck アクション | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 必ず実行する                | 1   |
| 指定回数に達したら実行する (既定値)   | 2   |
| 実行しない                 | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fsck/timing --set
```

↪ <設定値>

## - 回数

既定値:10 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fsck/interval_``→--set <設定値>`

---

**注釈:** 「Mount 実行前の fsck アクション」の設定が「指定回数に達したら実行する」の場合に設定してください。

---

**Mount 失敗時の fsck アクション**

- Mount 失敗時の fsck アクション

| Mount 失敗時の fsck アクション | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 実行する (既定値)            | 1   |
| 実行しない                 | 0   |

`clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/mount/action_``→--set <設定値>`**reiserfs の再構築**

- reiserfs の再構築

| reiserfs の再構築 | 設定値 |
|---------------|-----|
| 実行する          | 1   |
| 実行しない (既定値)   | 0   |

`clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fsck/fixopt --set``→<設定値>`**xfs\_repair**

---

**注釈:** 「ファイルシステム」の設定が「xfs」の場合に設定してください。

---

- xfs\_repair オプション (1023 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fsck/xfsoption_``→--set <xfs_repair オプション>`

- xfs\_repair タイムアウト (秒)

既定値:7200 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/fsck/xfstimeout_
↪--set <設定値>
```

#### Mount 失敗時の xfs\_repair アクション

- Mount 失敗時の xfs\_repair アクション

| Mount 失敗時の xfs_repair アクション | 設定値 |
|-----------------------------|-----|
| 実行する                        | 1   |
| 実行しない (既定値)                 | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/mount/xfsaction_
↪--set <設定値>
```

#### 「ディスクタイプ」の設定が「raw」の場合

- アンバインドを実行する

| アンバインドを実行する | 設定値 |
|-------------|-----|
| 実行する        | 1   |
| 実行しない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/unbind/execute --set
↪<設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/unbind/timeout --set
↪<設定値>
```

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/parameters/unbind/retry --set <設定値>
```

#### 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- ファイルシステム

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/server@<サーバ名>/parameters/fs --set
↪<設定値> --nocheck
```

- デバイス名

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/server@<サーバ名>/parameters/device
↳--set <デバイス名> --nocheck
```

- RAW デバイス名

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/server@<サーバ名>/parameters/rawdevice
↳--set <RAW デバイス名> --nocheck
```

- マウントポイント

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/server@<サーバ名>/parameters/mount/
↳point --set <マウントポイント> --nocheck
```

---

**注釈:** 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/server@<サーバ名> --delete
```

---

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性化後にスクリプトを実行する

| リソース活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

| リソース非活性化前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

| リソース非活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/disk@disk1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.8.3 ディスクリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> disk disk1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.9 EXEC リソース

---

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **exec1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

### 7.9.1 EXEC リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[EXEC リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須)      |
|----------------|
| グループリソース名      |
| (開始スクリプト) ファイル |
| (終了スクリプト) ファイル |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> exec exec1
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/act/path --set <(開始スクリプト) ファイル> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/deact/path --set <(終了スクリプト) ファイル> --nocheck
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

### 7.9.2 EXEC リソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/comment --set <コメント>
```



注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep exec exec1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep exec exec1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep exec exec1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |

次のページに続く

表 7.116 – 前のページからの続き

| 最終動作               | 設定値 |
|--------------------|-----|
| クラスタサービス停止と OS 再起動 | 5   |
| sysrq パニック         | 8   |
| keepalive リセット     | 9   |
| keepalive パニック     | 10  |
| BMC リセット           | 11  |
| BMC パワーオフ          | 12  |
| BMC パワーサイクル        | 13  |
| BMC NMI            | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/preaction/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

### – ファイル (1023 バイト以内)

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preactaction.sh** を設定してください。

---

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/preaction/path --set ↵
↵preactaction.sh
```

---

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/act/preaction/timeout --set <設定値>
```

## 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/deact/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/deact/preaction/path --set
↳<ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/deact/preaction/path --set
↳predeactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)  
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/deact/preaction/timeout --set  
↪ <設定値>

## 詳細

- (開始スクリプト) ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/act/path --set <(開始スクリプト)
ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **start.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/act/path --set start.sh
```

---

- (終了スクリプト) ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/deact/path --set <(終了スクリプ
ト) ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **stop.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/deact/path --set stop.sh
```

---

## 調整

### パラメータ

#### 開始スクリプト

- 開始スクリプト

| 開始スクリプト  | 設定値 |
|----------|-----|
| 同期 (既定値) | 1   |
| 非同期      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/act/sync --set <設定値>
```

– タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/timeout/start_
→--set <設定値>
```

**注釈:** 「開始スクリプト」の設定が「同期」の場合に設定してください。

- 待機系サーバで実行する

| 待機系サーバで実行する | 設定値 |
|-------------|-----|
| 実行する        | 1   |
| 実行しない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/act/postrunothers_
→--set <設定値>
```

– タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/timeout/
→startothers --set <設定値>
```

**注釈:** 「待機系サーバで実行する」の設定が「実行する」の場合に設定してください。

## 終了スクリプト

- 終了スクリプト

| 終了スクリプト  | 設定値 |
|----------|-----|
| 同期 (既定値) | 1   |
| 非同期      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/deact/sync --set <設定値>
```

---

– タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/timeout/stop_
→--set <設定値>
```

---

**注釈:** 「終了スクリプト」の設定が「同期」の場合に設定してください。

---

• 待機系サーバで実行する

| 待機系サーバで実行する | 設定値 |
|-------------|-----|
| 実行する        | 1   |
| 実行しない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/deact/prerunothers_
→--set <設定値>
```

– タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/timeout/
→stopothers --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「待機系サーバで実行する」の設定が「実行する」の場合に設定してください。

---

## メンテナンス

• ログ出力先 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/userlog --set <ログ出力先>
```

---

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

---

• ローテートする

| ローテートする     | 設定値 |
|-------------|-----|
| 設定する        | 1   |
| 設定しない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/logrotate/use --set <設定値>
```

- ローテートサイズ (バイト)

既定値:1000000 (最小値:1, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/parameters/logrotate/size --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「ローテートする」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

---

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |

次のページに続く



表 7.129 – 前のページからの続き

| リソース活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

| リソース非活性化前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

| リソース非活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postdeact/default --set <設定値>
```

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/exec@exec1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.9.3 EXEC リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> exec exec1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.10 フローティング IP リソース

---

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **fip1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

### 7.10.1 フローティング IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[フローティング IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| IP アドレス   |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> fip fip1
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

### 7.10.2 フローティング IP リソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep fip fip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep fip fip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep fip fip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動         | 5   |
| sysrq パニック                 | 8   |
| keepalive リセット             | 9   |
| keepalive パニック             | 10  |

次のページに続く

表 7.134 – 前のページからの続き

| 最終動作        | 設定値 |
|-------------|-----|
| BMC リセット    | 11  |
| BMC パワーオフ   | 12  |
| BMC パワーサイクル | 13  |
| BMC NMI     | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を

設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/timeout --set <設 定
値>
```

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### - ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

### - ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/path --set <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/path --set ↵
↵predeactaction.sh
```

### - タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/timeout --set <設定値>
```



詳細

共通

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

調整

パラメータ

**ifconfig**

- タイムアウト (秒)  
既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ifconfig/timeout`  
→ `--set <設定値>`

**ping**

- インターバル (秒)  
既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ping/interval --set`  
→ `<設定値>`
- タイムアウト (秒)  
既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ping/timeout --set <設定値>`
- リトライ回数  
既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ping/retry --set <設定値>`
- FIP 強制活性

| FIP 強制活性          | 設定値 |
|-------------------|-----|
| FIP 強制活性する        | 1   |
| FIP 強制活性しない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ping/force --set <設定値>
```

- ARP 送信回数  
既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/arp/retry --set <設定値>
```

- NIC Link Down を異常と判定する

| NIC Link Down を異常と判定する | 設定値 |
|------------------------|-----|
| 判定する                   | 1   |
| 判定しない (既定値)            | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/monmii --set <設定値>
```

- 送信元変更機能を使用する

| 送信元変更機能を使用する | 設定値 |
|--------------|-----|
| 使用する         | 1   |
| 使用しない (既定値)  | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/srcip/use --set <設定値>
```

#### 非活性確認

- I/F の削除確認を行う

| I/F の削除確認を行う | 設定値 |
|--------------|-----|
| 設定する (既定値)   | 1   |
| 設定しない        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/check/ifconfig/execute_
→--set <設定値>
```

- 異常検出時のステータス

| リソース起動属性     | 設定値 |
|--------------|-----|
| 異常にする        | 1   |
| 異常にしない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/check/ifconfig/error_
→--set <設定値>
```

---

**注釈:** 「I/F の削除確認を行う」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

---

- I/F の応答確認を行う

| I/F の応答確認を行う | 設定値 |
|--------------|-----|
| 設定する (既定値)   | 1   |
| 設定しない        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/check/ping/execute_
```

→ --set <設定値>

- 異常検出時のステータス

| 異常検出時のステータス  | 設定値 |
|--------------|-----|
| 異常にする        | 1   |
| 異常にしない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/check/ping/error --set
```

→ <設定値>

---

**注釈:** 「I/F の応答確認を行う」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

---

## 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/server@<サーバ名>/parameters/ip --set <IP
アドレス> --nocheck
```

---

**注釈:** 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/server@<サーバ名> --delete
```

---

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |

次のページに続く

表 7.147 – 前のページからの続き

| リソース起動属性 | 設定値 |
|----------|-----|
| 手動起動     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

| リソース非活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

| リソース非活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---



---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---



---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してくだ

---

さい。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.10.3 フローティング IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> fip fip1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.11 Google Cloud DNS リソース

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **gcdns1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

### 7.11.1 Google Cloud DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| ゾーン名      |
| DNS 名     |
| IP アドレス   |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> gcdns gcdns1
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/zone_name --set <ゾーン名>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/dns_name --set <DNS 名>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/record_ip --set <IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/server@<サーバー名>/parameters/record_ip
→--set <IP アドレス (個別)> --nocheck
```

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

### 7.11.2 Google Cloud DNS リソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep gcdns gcdns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep gcdns gcdns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep gcdns gcdns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |

次のページに続く



表 7.154 – 前のページからの続き

| 最終動作                   | 設定値 |
|------------------------|-----|
| グループ停止                 | 2   |
| クラスタサービス停止             | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動     | 5   |
| sysrq パニック             | 8   |
| keepalive リセット         | 9   |
| keepalive パニック         | 10  |
| BMC リセット               | 11  |
| BMC パワーオフ              | 12  |
| BMC パワーサイクル            | 13  |
| BMC NMI                | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/default --set
↪ <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/path --set
```

↪ <ファイル>

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/path --set
```

↪ preactaction.sh

---

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/timeout --set
```

↪ <設定値>

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |

次のページに続く

表 7.157 – 前のページからの続き

| 最終動作        | 設定値 |
|-------------|-----|
| BMC パワーオフ   | 12  |
| BMC パワーサイクル | 13  |
| BMC NMI     | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

### – ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/path --set
↪ <ファイル>
```

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/path --set ↵
↵predeactaction.sh
```

---

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/timeout ↵
↵--set <設定値>
```

## 詳細

### 共通

- ゾーン名 (63 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/zone_name --set <ゾーン名>
```

- DNS 名 (253 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/dns_name --set <DNS 名>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/record_ip --set <IP アドレ
ス>
```

- TTL(秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:2147483647)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/record_ttl --set <設定値>
```

- 非活性時にレコードを削除する

| 非活性時にレコードを削除する | 設定値 |
|----------------|-----|
| 削除する (既定値)     | 1   |
| 削除しない          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/delete --set <設定値>
```

### 個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/server@<サーバ名>/parameters/record_
ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

| リソース非活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

| リソース非活性後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/default --set <設定値>
```

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/path --set rscentent.
↪ sh
```

---

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/timeout --set <設定値>
>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.11.3 Google Cloud DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> gcdns gcdns1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---

## 7.12 Google Cloud 仮想 IP リソース

---

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **gcvip1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

---

### 7.12.1 Google Cloud 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須) |
|-----------|
| グループリソース名 |
| ポート番号     |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> gcvip gcvip1
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/parameters/probeport --set <ポート番号>
```

---

**注釈:** 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

---

### 7.12.2 Google Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

#### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---



## 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep gcvip gcvip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep gcvip gcvip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep gcvip gcvip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

## 復旧動作

### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動         | 5   |
| sysrq パニック                 | 8   |
| keepalive リセット             | 9   |
| keepalive パニック             | 10  |

次のページに続く

表 7.168 – 前のページからの続き

| 最終動作        | 設定値 |
|-------------|-----|
| BMC リセット    | 11  |
| BMC パワーオフ   | 12  |
| BMC パワーサイクル | 13  |
| BMC NMI     | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

---

**注釈:** 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/default --set
↪ <設定値>
```

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/path --set
↪ <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を

---

設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/path --set
↳preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/timeout --set
↳<設定値>
```

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |
| keepalive リセット               | 9   |
| keepalive パニック               | 10  |
| BMC リセット                     | 11  |
| BMC パワーオフ                    | 12  |
| BMC パワーサイクル                  | 13  |
| BMC NMI                      | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### - ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/default
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

### - ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/path --set
↳ predeactaction.sh
```

### - タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/timeout
↳ --set <設定値>
```

## 詳細

- ポート番号

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/parameters/probeport --set <設定値>
```

## 調整

- ヘルスチェックのタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/parameters/probetimeout --set <設定値>
```

## 拡張

- リソース起動属性

| リソース起動属性   | 設定値 |
|------------|-----|
| 自動起動 (既定値) | 1   |
| 手動起動       | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

---

**注釈:** スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

---

- リソース活性前にスクリプトを実行する

| リソース活性前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|--------------------|-----|
| 実行する               | 1   |
| 実行しない (既定値)        | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

| リソース活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|---------------------|-----|
| 実行する                | 1   |
| 実行しない (既定値)         | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

| リソース非活性化前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

| リソース非活性化後にスクリプトを実行する | 設定値 |
|----------------------|-----|
| 実行する                 | 1   |
| 実行しない (既定値)          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/use --set <設定値>
```

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/default --set <設定値>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

---

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/path --set rscentent.
↪ sh
```

- 
- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/timeout --set <設定値>
>
```

---

**注釈:** <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

---

### 7.12.3 Google Cloud 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> gcvip gcvip1
```

---

**重要:** 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

---



## 7.13 ハイブリッドディスクリソース

### 注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **hd1** を使用しています。  
ご使用の環境に合わせて変更してください。

### 7.13.1 ハイブリッドディスクリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ハイブリッドディスクリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

| 設定項目 (必須)        |
|------------------|
| グループリソース名        |
| マウントポイント         |
| データパーティションデバイス名  |
| クラスタパーティションデバイス名 |
| ミラーディスクコネク       |

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> hd hd1
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mount/point --set <マウントポイント>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/diskdev/dppath --set <データパーティションデバイス名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/diskdev/cppath --set <クラスタパーティションデバイス名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/device --set <ミラーディスクコネク (デバイス ID)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/mdcname --set <ミラーディスクコネク (名前)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/priority --set <ミラーディスクコネク (優先度)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

## 7.13.2 ハイブリッドディスクリソースのパラメータを設定する

### 基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/comment --set <コメント>
```

---

**注釈:** 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

---

### 依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep hd hd1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep hd hd1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep hd hd1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

### 復旧動作

#### 活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                       | 設定値 |
|----------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを活性する)        | 0   |
| 何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値) | 1   |
| グループ停止                     | 2   |
| クラスタサービス停止                 | 3   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン     | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動         | 5   |
| sysrq パニック                 | 8   |
| keepalive リセット             | 9   |
| keepalive パニック             | 10  |
| BMC リセット                   | 11  |
| BMC パワーオフ                  | 12  |
| BMC パワーサイクル                | 13  |
| BMC NMI                    | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

- ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

次のページに続く

表 7.183 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別

設定値

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/preaction/default --set <設定値>
```

**注釈:** 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/act/preaction/timeout --set <設定値>
```

### 非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

| 最終動作                         | 設定値 |
|------------------------------|-----|
| 何もしない (次のリソースを非活性する)         | 0   |
| 何もしない (次のリソースを非活性しない)        | 1   |
| クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値) | 4   |
| クラスタサービス停止と OS 再起動           | 5   |
| sysrq パニック                   | 8   |

次のページに続く

表 7.184 – 前のページからの続き

| 最終動作           | 設定値 |
|----------------|-----|
| keepalive リセット | 9   |
| keepalive パニック | 10  |
| BMC リセット       | 11  |
| BMC パワーオフ      | 12  |
| BMC パワーサイクル    | 13  |
| BMC NMI        | 14  |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

| 最終動作前にスクリプトを実行する | 設定値 |
|------------------|-----|
| 実行する             | 1   |
| 実行しない (既定値)      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

## スクリプト設定

### – ファイル種別

| スクリプトファイル種別          | 設定値 |
|----------------------|-----|
| この製品で作成したスクリプト (既定値) | 1   |
| ユーザアプリケーション          | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

### – ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/preaction/path --set <ファイル>
```

---

**注釈:** 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

---

---

**注釈:** 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/preaction/path --set ↵
↵predeactaction.sh
```

---

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/preaction/timeout --set <設定値>
```

## 詳細

## 共通

- ミラーパーティションデバイス名

| 設定値             |
|-----------------|
| /dev/NMP1 (既定値) |
| /dev/NMP2       |
| /dev/NMP3       |
| /dev/NMP4       |
| /dev/NMP5       |
| /dev/NMP6       |
| /dev/NMP7       |
| /dev/NMP8       |
| /dev/NMP9       |
| /dev/NMP10      |
| /dev/NMP11      |
| /dev/NMP12      |
| /dev/NMP13      |
| /dev/NMP14      |
| /dev/NMP15      |
| /dev/NMP16      |
| /dev/NMP17      |

次のページに続く

表 7.187 – 前のページからの続き

| 設定値        |
|------------|
| /dev/NMP18 |
| /dev/NMP19 |
| /dev/NMP20 |
| /dev/NMP21 |
| /dev/NMP22 |
| /dev/NMP23 |
| /dev/NMP24 |
| /dev/NMP25 |
| /dev/NMP26 |
| /dev/NMP27 |
| /dev/NMP28 |
| /dev/NMP29 |
| /dev/NMP30 |
| /dev/NMP31 |
| /dev/NMP32 |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/nmppath --set <設定値>
```

- マウントポイント (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mount/point --set <マウントポイント>
```

- データパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/diskdev/dppath --set <データパーティションデバイス名> --nocheck
```

- クラスタパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/diskdev/cppath --set <クラスタパーティションデバイス名> --nocheck
```

- ファイルシステム (15 バイト以内)

| ファイルシステム   |
|------------|
| ext2       |
| ext3 (既定値) |
| ext4       |
| xf         |

次のページに続く

表 7.188 – 前のページからの続き

| ファイルシステム |
|----------|
| jfs      |
| reiserfs |
| none     |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fs --set <ファイルシステム>
```

- ミラーディスクコネクト

| 設定値 (ミラーディスクコネクト (名前)) | 設定値 (ミラーディスクコネクト (デバイス ID)) |
|------------------------|-----------------------------|
| mdc1                   | 400                         |
| mdc2                   | 401                         |
| mdc3                   | 402                         |
| mdc4                   | 403                         |
| mdc5                   | 404                         |
| mdc6                   | 405                         |
| mdc7                   | 406                         |
| mdc8                   | 407                         |
| mdc9                   | 408                         |
| mdc10                  | 409                         |
| mdc11                  | 410                         |
| mdc12                  | 411                         |
| mdc13                  | 412                         |
| mdc14                  | 413                         |
| mdc15                  | 414                         |
| mdc16                  | 415                         |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/device --set <設定値
(ミラーディスクコネクト (デバイス ID))> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/mdcname --set <設 定
値 (ミラーディスクコネクト (名前))> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/priority --set <ミ
ラーディスクコネクト (優先度)> --nocheck
```

#### 注釈:

ミラーディスクコネクトが1つの場合は、ID に 0 を指定してください。

ミラーディスクコネクトが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。



---

**注釈:**

ミラーディスクコネク트가 1 つの場合は、優先度に 0 を指定してください。

ミラーディスクコネク트가 複数の場合は、優先度が高い順に 0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

---

**調整**

**マウント**

- マウントオプション (1023 バイト以内)  
既定値:rw  
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mount/option --set <マウントオプション>`
- タイムアウト (秒)  
既定値:120 (最小値:1, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mount/timeout --set <設定値>`
- リトライ回数  
既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mount/retry --set <設定値>`

**アンマウント**

- タイムアウト (秒)  
既定値:300 (最小値:1, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/umount/timeout --set <設定値>`
- リトライ回数  
既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/umount/retry --set <設定値>`
- リトライインターバル (秒)  
既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)  
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/umount/interval --set <設定値>`
- 異常検出時の強制動作

| 異常検出時の強制動作 | 設定値  |
|------------|------|
| 強制終了 (既定値) | kill |
| 何もしない      | none |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/umount/action --set <設定値>
```

## fsck

注釈: 「ファイルシステム」の設定が「xfs 以外」の場合に設定してください。

- fsck オプション (1023 バイト以内)

既定値:-y

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fsck/option --set <fsck オプション>
```

- fsck タイムアウト (秒)

既定値:7200 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fsck/timeout --set <設定値>
```

## Mount 実行前の fsck アクション

- Mount 実行前の fsck アクション

| Mount 実行前の fsck アクション | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 必ず実行する                | 1   |
| 指定回数に達したら実行する (既定値)   | 2   |
| 実行しない                 | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fsck/timing --set <設定値>
```

## - 回数

既定値:10 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fsck/interval --set <設定値>
```

注釈: 「Mount 実行前の fsck アクション」の設定が「指定回数に達したら実行する」の場合に設定してください。

**Mount 失敗時の fsck アクション**

- Mount 失敗時の fsck アクション

| Mount 失敗時の fsck アクション | 設定値 |
|-----------------------|-----|
| 実行する (既定値)            | 1   |
| 実行しない                 | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mount/action --set <設定値>
```

**reiserfs の再構築**

- reiserfs の再構築

| reiserfs の再構築 | 設定値 |
|---------------|-----|
| 実行する          | 1   |
| 実行しない (既定値)   | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fsck/fixopt --set <設定値>
```

**xfs\_repair**


---

**注釈:** 「ファイルシステム」の設定が「xfs」の場合に設定してください。

---

- xfs\_repair オプション (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fsck/xfsoption --set <xfs_
→repair オプション>
```

- xfs\_repair タイムアウト (秒)

既定値:7200 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fsck/xfstimeout --set <設定値>
```

**Mount 失敗時の xfs\_repair アクション**

- Mount 失敗時の xfs\_repair アクション

| Mount 失敗時の xfs_repair アクション | 設定値 |
|-----------------------------|-----|
| 実行する                        | 1   |

次のページに続く

表 7.194 – 前のページからの続き

| Mount 失敗時の xfs_repair アクション | 設定値 |
|-----------------------------|-----|
| 実行しない (既定値)                 | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mount/xfsaction --set
➡ <設定値>
```

## ミラー

- 初期ミラー構築を行う

| 初期ミラー構築を行う       | 設定値 |
|------------------|-----|
| 初期ミラー構築を行う (既定値) | 1   |
| 初期ミラー構築を行わない     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/fullcopy --set <設定値>
```

- データを同期する

| データを同期する   | 設定値 |
|------------|-----|
| 同期する (既定値) | 1   |
| 同期しない      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/sync --set <設定値>
```

## モード

- モード

| モード      | 設定値 |
|----------|-----|
| 同期 (既定値) | 1   |
| 非同期      | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/syncmode --set
➡ <設定値>
```

**注釈:** 「モード」の設定が「非同期」の場合に設定してください。

- キューの数  
既定値:2048 (最小値:1, 最大値:999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/sendqueuesize_
↳ --set <設定値>
```

**注釈:** 「無制限」の場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/sendqueuesize_
↳ --set 0
```

- 通信帯域を制限する

| 通信帯域を制限する   | 設定値 |
|-------------|-----|
| 制限する        | 1   |
| 制限しない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/bandlimit/mode_
↳ --set <設定値>
```

- 帯域上限 (KB/秒)

既定値:0 (最小値:1, 最大値:999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/bandlimit/
↳ limit --set <設定値>
```

- 履歴ファイル格納ディレクトリ (999 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/historydir_
↳ --set <履歴ファイル格納ディレクトリ>
```

**注釈:** 絶対パスで指定してください。

- 履歴ファイルサイズを制限する

- サイズ上限 (MB)

既定値:0 (最小値:1, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/historymax_
↳ --set <設定値>
```

**注釈:** 「履歴ファイルサイズを制限しない」場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/historymax_
↳ --set 0
```

- データを圧縮する

| データを圧縮する        | 設定値 |
|-----------------|-----|
| 通常時データを圧縮する     | 1   |
| 復帰時データを圧縮する     | 2   |
| 通常時、復帰時データを圧縮する | 3   |
| 圧縮しない (既定値)     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/compress --set
```

↪ <設定値>

**重要:** 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

### 復帰方法

- 復帰時データを圧縮する

| 復帰時データを圧縮する     | 設定値 |
|-----------------|-----|
| 通常時データを圧縮する     | 1   |
| 復帰時データを圧縮する     | 2   |
| 通常時、復帰時データを圧縮する | 3   |
| 圧縮しない (既定値)     | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/compress --set
```

↪ <設定値>

**重要:** 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

### ミラー通信暗号化

- ミラー通信を暗号化する

| ミラー通信を暗号化する  | 設定値 |
|--------------|-----|
| 暗号化する        | 1   |
| 暗号化しない (既定値) | 0   |

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/crypto/use_
```

↪ --set <設定値>

- 鍵ファイルフルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/crypto/keyfile_
↪ --set <鍵ファイルフルパス>
```

---

**注釈:** 「ミラー通信を暗号化する」の設定が「暗号化する」の場合に設定してください。

---

## ミラードライバ

- ミラーデータポート番号

既定値:29051 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/port --set <設 定
値>
```

- ハートビートポート番号

既定値:29031 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/hbport --set <設
定値>
```

- ACK2 ポート番号

既定値:29071 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/ack2port --set
↪ <設定値>
```

- 送信タイムアウト

既定値:30 (最小値:10, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/sendtimeout_
↪ --set <設定値>
```

- 接続タイムアウト

既定値:10 (最小値:5, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/connecttimeout_
↪ --set <設定値>
```

- Ack タイムアウト

既定値:100 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/acktimeout --set
↪ <設定値>
```

- 受信タイムアウト

既定値:100 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/
↪ recvnormaltimeout --set <設定値>
```

## ミラーディスクコネク

- ハートビートインターバル

既定値:10 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/hbinterval_
```

- ```
↪ --set <設定値>
```
- ICMP Echo Reply 受信タイムアウト
既定値:2 (最小値:1, 最大値:100)
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/pingtimeout↪`

```
↪ --set <設定値>
```
 - ICMP Echo Request リトライ回数
既定値:8 (最小値:1, 最大値:50)
`clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/mddriver/pingretry↪`

```
↪ --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- マウントポイント (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/server@<サーバ名>/parameters/mount/point↪
↪ --set <マウントポイント> --nocheck
```

- データパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/server@<サーバ名>/parameters/diskdev/
↪ dppath --set <データパーティションデバイス名> --nocheck
```

- クラスタパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/server@<サーバ名>/parameters/diskdev/
↪ cppath --set <クラスタパーティションデバイス名> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/server@<サーバ名> --delete
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/start --set <設定値>
```


活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/timeout --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.13.3 ハイブリッドディスクリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> hd hd1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.14 LB プローブポートリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **lbpp1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.14.1 LB プローブポートリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[LB プローブポートリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
ポート番号

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> lbpp lbpp1  
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/parameters/port --set <ポート番号>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.14.2 LB プローブポートリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep lbpp lbpp1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep lbpp lbpp1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep lbpp lbpp1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10

次のページに続く

表 7.209 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を

設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/act/preaction/timeout --set <設定値>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/deact/preaction/default --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/deact/preaction/path --set  
↪ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/deact/preaction/path --set  
↪ predeactaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/deact/preaction/timeout --set  
↪ <設定値>
```


詳細

- ポート番号

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/parameters/port --set <設定値>
```

調整

- ヘルスチェックのタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/parameters/timeout --set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

リソース非活性化前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/lbpp@lbpp1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.14.3 LB プローブポートリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> lbpp lbpp1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.15 ミラーディスクリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **md1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.15.1 ミラーディスクリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「ミラーディスクリソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
マウントポイント
データパーティションデバイス名
クラスタパーティションデバイス名
ミラーディスクコネク

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> md md1
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mount/point --set <マウントポイント>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/diskdev/dppath --set <データパーティションデバイス名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/diskdev/cppath --set <クラスタパーティションデバイス名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/device --set <ミラーディスクコネク (デバイス ID)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/mdcname --set <ミラーディスクコネク (名前)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/priority --set <ミラーディスクコネク (優先度)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.15.2 ミラーディスクリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep md md1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep md md1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep md md1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

次のページに続く

表 7.224 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別

設定値

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/act/preaction/timeout --set <設定値>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8

次のページに続く

表 7.225 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/deact/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/deact/preaction/path --set <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/deact/preaction/path --set ↵  
↵predeactaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/deact/preaction/timeout --set <設定  
値>
```

詳細

共通

- ミラーパーティションデバイス名

設定値
/dev/NMP1 (既定値)
/dev/NMP2
/dev/NMP3
/dev/NMP4
/dev/NMP5
/dev/NMP6
/dev/NMP7
/dev/NMP8
/dev/NMP9
/dev/NMP10
/dev/NMP11
/dev/NMP12
/dev/NMP13
/dev/NMP14
/dev/NMP15
/dev/NMP16
/dev/NMP17

次のページに続く

表 7.228 – 前のページからの続き

設定値
/dev/NMP18
/dev/NMP19
/dev/NMP20
/dev/NMP21
/dev/NMP22
/dev/NMP23
/dev/NMP24
/dev/NMP25
/dev/NMP26
/dev/NMP27
/dev/NMP28
/dev/NMP29
/dev/NMP30
/dev/NMP31
/dev/NMP32

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/nmppath --set <設定値> --nocheck
```

- マウントポイント (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mount/point --set <マウントポイント>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- データパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/diskdev/dppath --set <データパーティションデバイス名> --nocheck
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- クラスタパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/diskdev/cppath --set <クラスタパーティションデバイス名> --nocheck
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- ファイルシステム (15 バイト以内)

ファイルシステム
ext2
ext3 (既定値)
ext4
xfs
jfs
reiserfs
none

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fs --set <ファイルシステム>
```

- ミラーディスクコネク

設定値 (ミラーディスクコネク (名前))	設定値 (ミラーディスクコネク (デバイス ID))
mdc1	400
mdc2	401
mdc3	402
mdc4	403
mdc5	404
mdc6	405
mdc7	406
mdc8	407
mdc9	408
mdc10	409
mdc11	410
mdc12	411
mdc13	412
mdc14	413
mdc15	414
mdc16	415

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/device --set <設定値  
(ミラーディスクコネク (デバイス ID))> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/mdcname --set <設定値 (ミラーディスクコネクト (名前))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/priority --set <ミラーディスクコネクト (優先度)> --nocheck
```

注釈:

ミラーディスクコネクトが1つの場合は、ID に 0 を指定してください。

ミラーディスクコネクトが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

ミラーディスクコネクトが1つの場合は、優先度に 0 を指定してください。

ミラーディスクコネクトが複数の場合は、優先度が高い順に 0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

調整**マウント**

- マウントオプション (1023 バイト以内)

既定値:rw

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mount/option --set <マウントオプション>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mount/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mount/retry --set <設定値>
```

アンマウント

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/umount/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/umount/retry --set <設定値>
```

- リトライインターバル (秒)

既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/umount/interval --set <設定値>
```

- 異常検出時の強制動作

異常検出時の強制動作	設定値
強制終了 (既定値)	kill
何もしない	none

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/umount/action --set <設定値>
```

fsck

注釈: 「ファイルシステム」の設定が「xfs 以外」の場合に設定してください。

- fsck オプション (1023 バイト以内)

既定値:-y

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fsck/option --set <fsck オプション>
```

- fsck タイムアウト (秒)

既定値:7200 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fsck/timeout --set <設定値>
```

Mount 実行前の fsck アクション

- Mount 実行前の fsck アクション

Mount 実行前の fsck アクション	設定値
必ず実行する	1
指定回数に達したら実行する (既定値)	2
実行しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fsck/timing --set <設定値>
```

– 回数

既定値:10 (最小値:0, 最大値:999)
`clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fsck/interval --set`
 ↪ <設定値>

注釈: 「Mount 実行前の fsck アクション」の設定が「指定回数に達したら実行する」の場合に設定してください。

Mount 失敗時の fsck アクション

- Mount 失敗時の fsck アクション

Mount 失敗時の fsck アクション	設定値
実行する (既定値)	1
実行しない	0

`clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mount/action --set` <設定値>

reiserfs の再構築

- reiserfs の再構築

reiserfs の再構築	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fsck/fixopt --set` <設定値>

xfs_repair

注釈: 「ファイルシステム」の設定が「xfs」の場合に設定してください。

- xfs_repair オプション (1023 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fsck/xfsoption --set` <xfs_repair オプション>
- xfs_repair タイムアウト (秒)
 既定値:7200 (最小値:1, 最大値:9999)
`clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fsck/xfstimeout --set` <設定値>

Mount 失敗時の xfs_repair アクション

- Mount 失敗時の xfs_repair アクション

Mount 失敗時の xfs_repair アクション	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mount/xfsaction --set
<設定値>
```

ミラー

- 初期ミラー構築を行う

初期ミラー構築を行う	設定値
初期ミラー構築を行う (既定値)	1
初期ミラー構築を行わない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/fullcopy --set <設定値>
```

- 初期 mkfs を行う

初期 mkfs を行う	設定値
初期 mkfs を行う	1
初期 mkfs を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mkfs --set <設定値>
```

- データを同期する

同期する	設定値
同期する (既定値)	1
同期しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/sync --set <設定値>
```

モード

- モード

モード	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/mddriver/syncmode --set
➡ <設定値>
```

注釈: 「モード」の設定が「非同期」の場合に設定してください。

- キューの数

既定値:2048 (最小値:1, 最大値:999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/mddriver/sendqueuesize_
➡ --set <設定値>
```

注釈: 「無制限」の場合は0を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/mddriver/sendqueuesize_
➡ --set 0
```

- 通信帯域を制限する

通信帯域を制限する	設定値
制限する	1
制限しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/mddriver/bandlimit/mode_
➡ --set <設定値>
```

- 帯域上限 (KB/秒)

既定値:0 (最小値:1, 最大値:999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/mddriver/bandlimit/
➡ limit --set <設定値>
```

- 履歴ファイル格納ディレクトリ (999 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/mddriver/historydir_
➡ --set <履歴ファイル格納ディレクトリ>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- 履歴ファイルサイズを制限する

- サイズ上限 (MB)

既定値:0 (最小値:1, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/historymax
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「履歴ファイルサイズを制限しない」場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/historymax
↪ --set 0
```

- データを圧縮する

データを圧縮する	設定値
通常時データを圧縮する	1
復帰時データを圧縮する	2
通常時、復帰時データを圧縮する	3
圧縮しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/compress --set
↪ <設定値>
```

重要: 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

復帰方法

- 復帰時データを圧縮する

復帰時データを圧縮する	設定値
通常時データを圧縮する	1
復帰時データを圧縮する	2
通常時、復帰時データを圧縮する	3
圧縮しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/compress --set
↪ <設定値>
```

重要: 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

ミラー通信暗号化

- ミラー通信を暗号化する

ミラー通信を暗号化する	設定値
暗号化する	1
暗号化しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/crypto/use_
↪--set <設定値>
```

- 鍵ファイルフルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/crypto/keyfile_
↪--set <鍵ファイルフルパス>
```

注釈: 「ミラー通信を暗号化する」の設定が「暗号化する」の場合に設定してください。

ミラードライバ

- ミラーデータポート番号

既定値:29051 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/port --set <設 定
値>
```

- ハートビートポート番号

既定値:29031 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/hbport --set <設
定値>
```

- ACK2 ポート番号

既定値:29071 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/ack2port --set
↪<設定値>
```

- 送信タイムアウト

既定値:30 (最小値:10, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/sendtimeout_
↪--set <設定値>
```

- 接続タイムアウト

既定値:10 (最小値:5, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/connecttimeout_
↪--set <設定値>
```

- Ack タイムアウト

既定値:100 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/acktimeout --set  
↪ <設定値>
```

- 受信タイムアウト

既定値:100 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/  
↪ recvnormaltimeout --set <設定値>
```

ミラーディスクコネク

- ハートビートインターバル

既定値:10 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/hbinterval  
↪ --set <設定値>
```

- ICMP Echo Reply 受信タイムアウト

既定値:2 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/pingtimeout  
↪ --set <設定値>
```

- ICMP Echo Request リトライ回数

既定値:8 (最小値:1, 最大値:50)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/mddriver/pingretry  
↪ --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- マウントポイント (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/server@<サーバ名>/parameters/mount/point  
↪ --set <マウントポイント> --nocheck
```

- データパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/server@<サーバ名>/parameters/diskdev/  
↪ dppath --set <データパーティションデバイス名> --nocheck
```

- クラスタパーティションデバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/server@<サーバ名>/parameters/diskdev/  
↪ cppath --set <クラスタパーティションデバイス名> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/server@<サーバ名> --delete
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.15.3 ミラーディスクリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> md md1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.16 Oracle Cloud DNS リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **ocdns1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.16.1 Oracle Cloud DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Oracle Cloud DNS リソースのパラメータを設定する*」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
リージョン
ドメイン (FQDN)
ゾーン OCID
IP アドレス

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> ocdns ocdns1
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/region --set <リージョン (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/domain --set <ドメイン (FQDN)>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/zoneid --set <ゾーン OCID(共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/ip --set <IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/server@<サ ー バ 名>/parameters/region --set
→<リージョン (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/server@<サ ー バ 名>/parameters/zoneid --set
→<ゾーン OCID(個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/server@<サ ー バ 名>/parameters/ip --set <IP ア
ドレス (個別)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.16.2 Oracle Cloud DNS リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep ocdns ocdns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep ocdns ocdns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep ocdns ocdns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

次のページに続く

表 7.253 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別	設定値
-------------	-----

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/preaction/path --set
↳<ファイル>

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/preaction/path --set
↳preactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)
既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/act/preaction/timeout --set
↳<設定値>

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値
既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/deact/retry --set <設定値>
- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1

次のページに続く

表 7.254 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/deact/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/deact/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/deact/preaction/path --set
↳ predeactaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/deact/preaction/timeout
↳ --set <設定値>
```

詳細

共通

- リージョン (48 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/region --set <リージョン>
```

- ドメイン (FQDN)(254 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/domain --set <ドメイン
↳ (FQDN)>
```

- ゾーン OCID(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/zoneid --set <ゾーン OCID>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

- TTL(秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:604800)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/ttl --set <設定値>
```

- 非活性時にリソースレコードセットを削除する

非活性時にリソースレコードセットを削除する	設定値
削除する	1
削除しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/delete --set <設定値>
```

- Proxy を使用する

Proxy を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/proxy/use --set <設定値>
```

- マルチリージョンでのリソースレコードの操作範囲

マルチリージョンでのリソースレコードの操作範囲	設定値
現用系サーバが所属するリージョンのみ	0
クラスタサーバが所属する全てのリージョン (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/operationscope --set <設定値>
```

調整

OCI CLI

- タイムアウト (秒)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/parameters/ociclitimeout --set  
↪ <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- リージョン (48 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/server@<サーバ名>/parameters/region  
↪ --set <リージョン> --nocheck
```

- ゾーン OCID(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/server@<サーバ名>/parameters/zoneid_
↳--set <ゾーン OCID> --nocheck
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/server@<サーバ名>/parameters/ip_
↳--set <IP アドレス> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/predeact/path --set rscentent.
↳ sh
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postdeact/path --set rscentent.
↳ sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocdns@ocdns1/postdeact/timeout --set <設定値>
>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.16.3 Oracle Cloud DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> ocdns ocdns1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.17 Oracle Cloud 仮想 IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **ocvip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.17.1 Oracle Cloud 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Oracle Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)

グループリソース名

ポート番号

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> ocvip ocvip1  
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/parameters/probeport --set <ポート番号>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.17.2 Oracle Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep ocvip ocvip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep ocvip ocvip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep ocvip ocvip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10

次のページに続く

表 7.267 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/default --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/path --set  
↪ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を

設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/path --set
↳preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/timeout --set
↳<設定値>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/default ↵
↵ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/path --set
↵ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/path --set ↵
↵ predeactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/timeout ↵
↵ --set <設定値>
```

詳細

- ポート番号

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/parameters/probeport --set <設定値>
```

調整

- ヘルスチェックのタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/parameters/probetimeout --set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

リソース非活性化前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/path --set rscentent.
↪ sh
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/path --set rscentent.
↪ sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/timeout --set <設定値>
>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.17.3 Oracle Cloud 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> ocvip ocvip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.18 仮想 IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **vip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.18.1 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
IP アドレス
NIC エイリアス名
宛先 IP アドレス
送信元 IP アドレス
ルーティングプロトコル

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> vip vip1
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ip --set <IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/ip --set <IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/iface --set <NIC エイリアス名 (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/iface --set <NIC エイリアス名 (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/dstaddr --set <宛先 IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/multicast/dstaddr --set <宛先 IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/srcaddr --set <送信元 IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/multicast/srcaddr --set <送信元 IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocol --set <ルーティングプロトコル (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/protocol --set <ルー
```

ティングプロトコル (個別)> --nocheck

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.18.2 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep vip vip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep vip vip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep vip vip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/path --set <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/timeout --set <設定値>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/path --set <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/path --set ↵  
↵predeactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/timeout --set <設定値>
```

詳細

共通

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

- NIC エイリアス名 (15 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/iface --set <NIC エイリアス名>
```

- 宛先 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/dstaddr --set <宛先  
IP アドレス>
```

- 送信元 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/srcaddr --set <送信  
元 IP アドレス>
```

- 送出間隔 (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:30)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/interval --set <設定値>
```

- ルーティングプロトコル

設定値
RIPngver1
RIPngver2
RIPngver3
RIPver1
RIPver2

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocol --set <設定値>
```

注釈: 複数のルーティングプロトコルを使用する場合はカンマ (,) で区切って指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocol --set "RIPngver3,  
↳RIPver2"
```

調整

パラメータ

ifconfig

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ifconfig/timeout  
↳--set <設定値>
```

ping

- インターバル (秒)

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ping/interval --set  
↳<設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ping/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ping/retry --set <設定値>
```

- VIP 強制活性

VIP 強制活性	設定値
VIP 強制活性する	1
VIP 強制活性しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ping/force --set <設定値>
```

- ARP 送信回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/arp/retry --set <設定値>
```

- NIC Link Down を異常と判定する

NIC Link Down を異常と判定する	設定値
判定する	1
判定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/monmii --set <設定値>
```

非活性確認

- I/F の削除確認を行う

I/F の削除確認を行う	設定値
設定する (既定値)	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/check/ifconfig/execute_
→--set <設定値>
```

- 異常検出時のステータス

リソース起動属性	設定値
異常にする	1

次のページに続く

表 7.290 – 前のページからの続き

リソース起動属性	設定値
異常にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/check/ifconfig/error_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「I/F の削除確認を行う」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

- I/F の応答確認を行う

I/F の応答確認を行う	設定値
設定する (既定値)	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/check/ping/execute_
↪--set <設定値>
```

- 異常検出時のステータス

異常検出時のステータス	設定値
異常にする	1
異常にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/check/ping/error --set
↪<設定値>
```

注釈: 「I/F の応答確認を行う」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

RIP

- メトリック

既定値:1 (最小値:1, 最大値:15)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/rip/metric_
↪--set <設定値>
```

ポート

- ポート

既定値:520 (最小値:1, 最大値:65535)

追加する

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/rip/port_
↪--set <設定値>
```

注釈: 複数のポートを設定する場合はカンマ (,) で区切って指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/rip/port_
↪--set "12345,520"
```

削除する (既定値に戻す)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/rip/port_
↪--set 520
```

RIPng

• メトリック

既定値:1 (最小値:1, 最大値:15)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/ripng/metric_
↪--set <設定値>
```

- ポート

既定値:521 (最小値:1, 最大値:65535)

追加する

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/ripng/
↪port --set <設定値>
```

注釈: 複数のポートを設定する場合はカンマ (,) で区切って指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/ripng/
↪port --set "12345,521"
```

削除する (既定値に戻す)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/ripng/
↪port --set 521
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

• IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/ip --set <IP
アドレス> --nocheck
```

• NIC エイリアス名 (15 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/iface_
↳--set <NIC エイリアス名> --nocheck
```

- 宛先 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/multicast/
↳dstaddr --set <宛先 IP アドレス> --nocheck
```

- 送信元 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/multicast/
↳srcaddr --set <送信元 IP アドレス> --nocheck
```

- 送出間隔 (秒)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/multicast/
↳interval --set <送出間隔> --nocheck
```

- ルーティングプロトコル

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/protocol_
↳--set <ルーティングプロトコル> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/path --set rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/path --set rscentent.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.18.3 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> vip vip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.19 ボリュームマネージャリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **volmgr1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.19.1 ボリュームマネージャリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ボリュームマネージャリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
ボリュームマネージャ
ターゲット名

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> volmgr volmgr1
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/type --set <ボリュームマネージャ>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/devname --set <ターゲット名>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.19.2 ボリュームマネージャリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep volmgr volmgr1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep volmgr volmgr1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep volmgr volmgr1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/fo --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4

次のページに続く

表 7.300 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/preaction/path --set
↳ preaction.sh
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/act/preaction/timeout
↳ --set <設定値>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/deact/preaction/default
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/deact/preaction/path --set
↳ <ファイル>
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/deact/preaction/path --set
↳ predeactaction.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/deact/preaction/timeout
```

```
↪ --set <設定値>
```

詳細

- ボリュームマネージャ

設定値
lvm
zfspool

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/type --set <設定値>
```

- ターゲット名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/devname --set <ターゲット名>
```

調整

インポート

「ボリュームマネージャ」の設定が「lvm」の場合

- インポートタイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/import/timeout
```

```
↪ --set <設定値>
```

- ボリューム起動タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/import/timeout2
```

```
↪ --set <設定値>
```

- ボリュームステータス確認タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/import/vgsto
```

```
↪ --set <設定値>
```

「ボリュームマネージャ」の設定が「zfspool」の場合

- インポートタイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/import/timeout
```

```
↪ --set <設定値>
```

- 強制インポート

強制インポート	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/import/force_
```

```
→--set <設定値>
```

- ping チェック行う

ping チェック行う	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/zpool/pingchk_
```

```
→--set <設定値>
```

エクスポート

「ボリュームマネージャ」の設定が「lvm」の場合

- ボリューム停止タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/export/timeout3_
```

```
→--set <設定値>
```

- エクスポートタイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/export/timeout_
```

```
→--set <設定値>
```

- ボリュームステータス確認タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/export/vgsto_
```

```
→--set <設定値>
```

「ボリュームマネージャ」の設定が「zfs」の場合

- エクスポートタイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/export/timeout_
```

```
→--set <設定値>
```

- 強制エクスポート

強制エクスポート	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/parameters/export/force_
↪--set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/preact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/predeact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postact/default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postdeact/path --set <ファイル>
>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/preact/path --set rscentent.
↳ sh
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/predeact/path --set_
↳ rscentent.sh
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postact/path --set rscentent.
↳ sh
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postdeact/path --set_
↳ rscentent.sh
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postact/timeout --set <設定値>
>
clpcfadm.py mod -t resource/volmgr@volmgr1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.19.3 ボリュームマネージャリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> volmgr volmgr1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

第 8 章

モニタリソースを設定する

8.1 ARP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **arpw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.1.1 ARP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ARP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon arpw arpw1
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.1.2 ARP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「仮想 IP リソース」「フローティング IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.4 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/parameters/object --set <対象リソース>
```

注釈: 「仮想 IP リソース」「フローティング IP リソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/action --set 1
```


重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.7 – 前のページからの続き

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*5}	16
グループ停止 ^{*6}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 8.9 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/preaction/path --set <ファイル>
> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*5 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*6 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/arpw@arpw1/emergency/preaction/timeout --set <設 定  
値>
```

8.1.3 ARP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon arpw arpw1
```

8.2 AWS AZ モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awsazw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.2.1 AWS AZ モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS AZ モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
アベイラビリティゾーン
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awsazw awsazw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/parameters/availabilityzone --set <アベイラ  
ビリティゾーン>
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/type --set <回復対象種別> ↪  
↪ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.2.2 AWS AZ モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
→use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

共通

- アベイラビリティゾーン (45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/parameters/availabilityzone --set  
↪ <アベイラビリティゾーン>
```

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/parameters/mode --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- アベイラビリティゾーン (45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/server@<サーバ名>/parameters/  
↪ availabilityzone --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/server@<サーバ名> --delete
```


回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/userrestart --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/usefailover --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*7}	16
グループ停止 ^{*8}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*7} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*8} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/path --set
↳<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/path --set
↳preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/timeout --set
↳<設定値>
```

8.2.3 AWS AZ モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awsazw awsazw1
```

8.3 AWS DNS モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awsdns1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.3.1 AWS DNS モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS DNS モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awsdns1 awsdns1
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns1@awsdns1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns1@awsdns1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns1@awsdns1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.3.2 AWS DNS モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/timeout/notreconfirmation/
→use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS DNS リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/parameters/mode --set <設定値>
```

- 名前解決確認をする

名前解決確認をする	設定値
名前解決確認をする (既定値)	1
名前解決確認をしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/parameters/dnscheck --set <設定値>
```


回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/userrestart --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/usefailover  
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*9}	16
グループ停止 ^{*10}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*9} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*10} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/path --set
↪<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/path --set_
↪preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

8.3.3 AWS DNS モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awsdns awsdns1
```

8.4 AWS Elastic IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awseipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.4.1 AWS Elastic IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS Elastic IP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awseipw awseipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.4.2 AWS Elastic IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
→use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS Elastic IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/name --set <回復対象>
```

```
→--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/type --set <回復対象種別>
```

```
→--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/userrestart --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*11}	16
グループ停止 ^{*12}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/path --set
↪ <ファイル> --nocheck
```

^{*11} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*12} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/timeout ↵  
↵--set <設定値>
```

8.4.3 AWS Elastic IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awseipw awseipw1
```

8.5 AWS セカンダリ IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awssipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.5.1 AWS セカンダリ IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS セカンダリ IP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awssipw awssipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.5.2 AWS セカンダリ IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)
リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
↪use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS セカンダリ IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/action --set 1
```


重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/action --set 1
```

• 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

• 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/userrestart --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

• 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

• フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/usefailover
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*13}	16
グループ停止 ^{*14}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4

次のページに続く

表 8.57 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/path --set
↳ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*13 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*14 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/timeout ↵  
↵--set <設定値>
```

8.5.3 AWS セカンダリ IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awssipw awssipw1
```

8.6 AWS 仮想 IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awsvipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.6.1 AWS 仮想 IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS 仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awsvipw awsvipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.6.2 AWS 仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
→use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/name --set <回復対象>
```

```
→--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
```

```
→--nocheck
```


重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/userrestart --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*15}	16
グループ停止 ^{*16}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/default
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/path --set
↪ <ファイル> --nocheck
```

^{*15} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*16} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/timeout ↵  
↵--set <設定値>
```

8.6.3 AWS 仮想 IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awsvipw awsvipw1
```

8.7 Azure DNS モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **azurednsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.7.1 Azure DNS モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure DNS モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon azurednsw azurednsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/name --set <回復対象>
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/type --set <回復対象種別>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.7.2 Azure DNS モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/azuredns@azuredns1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:60 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/azuredns@azuredns1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/azuredns@azuredns1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「Azure DNS リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/azuredns@azuredns1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/azuredns@azuredns1/polling/servers@<ID>/name --set
→<サーバ名> --nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 名前解決確認をする

名前解決確認をする	設定値
名前解決確認をする (既定値)	1
名前解決確認をしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/parameters/dnscheck --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```



```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/action --set 1
```

-
- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

-
- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/restart.
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/usefailover.
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*17}	16
グループ停止 ^{*18}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/default_
--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/path_
--set <ファイル> --nocheck
```

^{*17} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*18} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/path_
↳--set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/timeout_
↳--set <設定値>
```

8.7.3 Azure DNS モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon azurednsw azurednsw1
```

8.8 Azure ロードバランスモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **azurelbw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.8.1 Azure ロードバランスモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure ロードバランスモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon azurelbw azurelbw1
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.8.2 Azure ロードバランスモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/timeout/notrecovery/use
↳--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/parameters/object --set <対象リソース>
```

注釈: 「Azure プローブポートリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/script --set
↪<設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/restart --set
↪<設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/fo --set <設 定
値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/use --set <設 定
値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止* ¹⁹	16
グループ停止* ²⁰	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8

次のページに続く

表 8.90 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/default.
↳--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/path --set
↳<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*19 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*20 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/path --set   
↳ preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/timeout   
↳ --set <設定値>
```

8.8.3 Azure ロードバランスモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon azurelbw azurelbw1
```

8.9 Azure プロブポートモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **azureppw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.9.1 Azure プロブポートモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure プロブポートモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon azureppw azureppw1
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/name --set <回復対象>
→--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.9.2 Azure プロブポートモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/timeout/notrecovery/use
↳--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Azure プローブポートリソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- プローブポート待ち受けタイムアウト時動作

プローブポート待ち受けタイムアウト時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/script --set
↪<設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/restart --set
↪ <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/usefailover
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*21}	16
グループ停止 ^{*22}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/default
--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/path --set
<ファイル> --nocheck
```

^{*21} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*22} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/timeout ↵  
↵--set <設定値>
```

8.9.3 Azure プローブポートモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon azureppw azureppw1
```

8.10 DB2 モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **db2w1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.10.1 DB2 モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[DB2 モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)

モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
データベース名
暗号化されたパスワード
文字コード
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon db2w db2w1
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/database --set <デ ー タ ベ ー ス 名>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/characterst --set <文 字 コ ー ド>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.10.2 DB2 モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0

次のページに続く

表 8.105 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0
レベル 3(毎回 create/drop も行う)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/docreatedrop --set <設定値>
```

- データベース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/database --set <データベース名>
↪--nocheck
```

- インスタンス名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/instance --set <インスタンス名>
```


- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:db2watch

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/table --set <監視テーブル名>
```

- 文字コード

設定値

en_US.iso88591

ja_JP.eucJP

ja_JP.sjis

ja_JP.utf8

zh_TW.big5

zh_CN.eucCN

zh_CN.gbk

zh_CN.utf8

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/charset --set <設定値> --nocheck
```

- ライブラリパス (1023 バイト以内)

ライブラリパス

/opt/ibm/db2/V10.5/lib64/libdb2.so

次のページに続く

表 8.110 – 前のページからの続き

ライブラリパス

/opt/ibm/db2/V11.1/lib64/libdb2.so (既定値)

/opt/ibm/db2/V11.5/lib64/libdb2.so

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/parameters/libraryfullpath --set <ライブラリパス>
```

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*23}	16
グループ停止 ^{*24}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

^{*23} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*24} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.10.3 DB2 モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon db2w db2w1
```

8.11 ダイナミック DNS モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ddnsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.11.1 ダイナミック DNS モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ダイナミック DNS モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ddnsw ddnsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.11.2 ダイナミック DNS モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「ダイナミック DNS リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/parameters/object --set <対象リソース>
```

注釈: 「ダイナミック DNS リソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>`

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/use --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*25}	16
グループ停止 ^{*26}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 8.123 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*25 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*26 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/timeout --set <設  
定値>
```

8.11.3 ダイナミック DNS モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ddnsw ddnsw1
```

8.12 ディスクモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **diskw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.12.1 ディスクモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ディスクモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
監視先
I/O サイズ
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon diskw diskw1
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/object --set <監視先>
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/size --set <I/O サイズ>
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.12.2 ディスクモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
➡ <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字("")を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/target --set ""
```


- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>  
→ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

共通

- 監視方法

設定値
TUR
TUR(generic)
TUR(legacy)
READ
READ(RAW)
READ(O_DIRECT)
WRITE(FILE)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/method --set <設定値>
```

注釈: 括弧をエスケープするため文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"TUR(generic)")

注釈: 「監視方法」の設定が「READ(RAW)」の場合「監視対象 RAW デバイス名」を設定してください。

重要: 「監視方法」の設定を「READ(RAW)」から変更する場合は、以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/rawdevice --delete
```

- 監視先 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/object --set <監視先>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- 監視対象 RAW デバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/rawdevice --set <監視対象 RAW デバイス名>
```

注釈: 「監視方法」の設定が「READ(RAW)」の場合に設定可能です。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- I/O サイズ (バイト)

既定値:2000000 (最小値:1, 最大値:99999999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/size --set <設定値>
```

重要: 「監視方法」の設定が「TUR」「TUR(generic)」「TUR(legacy)」の場合、I/O サイズに 0 を設定してください。

重要: 「監視方法」の設定が「READ(RAW)」「READ(O_DIRECT)」の場合、I/O サイズに 512 を設定してください。

- ディスクフル検出時動作

ディスクフル検出時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	1
回復動作を実行しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/diskfullerr --set <設定値>
```

注釈: 「監視方法」の設定が「WRITE(FILE)」の場合に設定可能です。

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- 監視方法

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/server@<サーバ名>/parameters/method_
↳--set <設定値> --nocheck
```

- 監視先 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/server@<サーバ名>/parameters/object_
↳--set <監視先> --nocheck
```

- 監視対象 RAW デバイス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/server@<サーバ名>/parameters/
↳rawdevice --set <監視対象 RAW デバイス名> --nocheck
```

- I/O サイズ (バイト)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/server@<サーバ名>/parameters/size
↳--set <設定値> --nocheck
```

- ディスクフル検出時動作

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/server@<サーバ名>/parameters/
↳diskfullerr --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*27}	16
グループ停止 ^{*28}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 8.137 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*27 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*28 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/path --set   
↪preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/timeout --set <設  
定値>
```

8.12.3 ディスクモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon diskw diskw1
```


8.13 フローティング IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **fipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.13.1 フローティング IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[フローティング IP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon fipw fipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.13.2 フローティング IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1

次のページに続く

表 8.142 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> ↵`
`↵--nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

共通

- NIC Link Up/Down を監視する

NIC Link Up/Down を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/parameters/monmii --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- NIC Link Up/Down を監視する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/server@<サーバ名>/parameters/monmii
↪--set <設定値> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*29}	16
グループ停止 ^{*30}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

^{*29} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*30} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/path --set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.13.3 フローティング IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon fipw fipw1
```


8.14 FTP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ftpw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.14.1 FTP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[FTP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ftpw ftpw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.14.2 FTP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.154 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:21 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- プロトコル

プロトコル	設定値
FTP (既定値)	0
FTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/parameters/protocol --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*31}	16
グループ停止 ^{*32}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1

次のページに続く

^{*31} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*32} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

表 8.163 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別	設定値
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.14.3 FTP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ftpw ftpw1
```

8.15 Google Cloud DNS モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **gcdnsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.15.1 Google Cloud DNS モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud DNS モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon gcdnsw gcdnsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.15.2 Google Cloud DNS モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/timeout/notreconfirmation/  
↪use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/timeout/notrecovery/use_  
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Google Cloud DNS リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/perf/metrics/use --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/emergency/preaction/userrestart --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/emergency/preaction/usefailover --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*33}	16
グループ停止 ^{*34}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*33} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*34} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/preaction/default --set
➡<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/preaction/path --set
➡<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/preaction/path --set
➡preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/preaction/timeout --set
➡<設定値>
```

8.15.3 Google Cloud DNS モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon gcdns gcdns1
```


8.16 Google Cloud ロードバランスモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **gclbw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.16.1 Google Cloud ロードバランスモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Google Cloud* ロードバランスモニタリソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon gclbw gclbw1
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.16.2 Google Cloud ロードバランスモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
↪<設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>  
→ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/parameters/object --set <対象リソース>
```

注釈: 「Google Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*35}	16
グループ停止 ^{*36}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*35} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*36} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.16.3 Google Cloud ロードバランスモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon gclbw gclbw1
```

8.17 Google Cloud 仮想 IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **gcvipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.17.1 Google Cloud 仮想 IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Google Cloud 仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する*」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon gcvipw gcvipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.17.2 Google Cloud 仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)


```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/timeout/notreconfirmation/  
↪use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/timeout/notrecovery/use_  
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Google Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ヘルスチェックのタイムアウト時動作

ヘルスチェックのタイムアウト時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/userrestart --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/usefailover --set  
↔ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

• 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

• 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

• 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*37}	16
グループ停止 ^{*38}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10

次のページに続く

表 8.193 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/path --set
↳<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

*37 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*38 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/path --set  
↳preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/timeout --set  
↳<設定値>
```

8.17.3 Google Cloud 仮想 IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon gcvipw gcvipw1
```

8.18 カスタムモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **genw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.18.1 カスタムモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[カスタムモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
スクリプトファイル
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon genw genw1
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/path --set <スクリプトファイル>
→--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.18.2 カスタムモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)


```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください

さい。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字("")を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- スクリプトファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「スクリプトファイル」も変更してください。

- スクリプトファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/path --set <スクリプトファイル>
↪--nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **genw.sh** を指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/path --set genw.sh --nocheck
```

- 監視タイプ

監視タイプ	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/sync --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/way/start --set <同期の場合: 0, 非同期の場合: 1>
```

- アプリケーション/スクリプトの監視開始を一定時間待ち合わせる (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/waitmonstart --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイプ」の設定が「非同期」の場合に設定可能です。

- ログ出力先 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/userlog --set <ログ出力先>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- ローテートする

ローテートする	設定値
設定する	1

次のページに続く

表 8.202 – 前のページからの続き

ローテートする	設定値
設定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/logrotate/use --set <設定値>
```

- ローテートサイズ (バイト)

既定値:1000000 (最小値:1, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/logrotate/size --set <設定値>
```

注釈: 「ローテートする」の設定が「設定する」場合に設定可能です。

- 正常な戻り値

既定値:0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/normalval --set <設定値>
```

- 警告戻り値

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/warningval --set <設定値>
```

- クラスタ停止時に活性時監視の停止を待ち合わせる

クラスタ停止時に活性時監視の停止を待ち合わせる	設定値
停止を待ち合わせる	1
停止を待ち合わせない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/waitstop --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp

次のページに続く

表 8.204 – 前のページからの続き

	回復対象	回復対象種別
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*39}	16
グループ停止 ^{*40}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

^{*39} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*40} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.18.3 カスタムモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon genw genw1
```

8.19 ハイブリッドディスクコネクトモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **hdnw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.19.1 ハイブリッドディスクコネクトモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ハイブリッドディスクコネクトモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ハイブリッドディスクリソース
回復対象 (LocalServer)
回復対象種別 (cls)

```
clpcfadm.py add mon hdnw hdnw1
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリ  
ソース> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/relation/name --set LocalServer --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/relation/type --set cls --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.19.2 ハイブリッドディスクコネクトモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0

次のページに続く

表 8.213 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ハイブリッドディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリソース> --nocheck
```

注釈: 「ハイブリッドディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/preaction/path --set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdnw@hdnw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.19.3 ハイブリッドディスクコネクトモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon hdnw hdnw1
```

8.20 ハイブリッドディスクモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **hdw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.20.1 ハイブリッドディスクモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ハイブリッドディスクモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ハイブリッドディスクリソース
回復対象 (LocalServer)
回復対象種別 (cls)

```
clpcfadm.py add mon hdw hdw1
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリソース> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/relation/name --set LocalServer --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/relation/type --set cls --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.20.2 ハイブリッドディスクモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0

次のページに続く

表 8.220 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/firstmonwait --set <設定値>`

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/perf/metrics/use --set <設定値>`

監視 (固有)

- ハイブリッドディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリソース> --nocheck
```

注釈: 「ハイブリッドディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/path --set <ファイル>↵
↵--nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する

場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/path --set preaction.  
↪sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.20.3 ハイブリッドディスクモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon hdw hdw1
```

8.21 HTTP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **httpw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.21.1 HTTP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[HTTP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon httpw httpw1
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.21.2 HTTP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/interval --set <設定値>`

- タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/timeout --set <設定値>`

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>`

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

`clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>`

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.227 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>  
→ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 接続先 (255 バイト以内)

既定値:localhost

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/servername --set <接続先>
```

- ポート番号

既定値:80 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/port --set <設定値>
```

- Request URI(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/requesturi --set <Request URI>
```

↔

- プロトコル

プロトコル	設定値
HTTP (既定値)	0
HTTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/https --set <設定値>
```

注釈: 必要に応じて「ポート番号」も変更してください。

- リクエスト種別

リクエスト種別	設定値
HEAD (既定値)	0
GET	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/requesttype --set <設定値>
```

- 認証方式

認証方式	設定値
認証なし (既定値)	0
Basic 認証	1
Digest 認証	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/authmethod --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

注釈: 「認証方式」の設定が「Basic 認証」「Digest 認証」の場合に設定してください。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈: 「認証方式」の設定が「Basic 認証」「Digest 認証」の場合に設定してください。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- クライアント認証

クライアント認証	設定値
設定する	1
設定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/clientauth --set <設定値>
```

注釈: 「プロトコル」の設定が「HTTPS」の場合に設定可能です。

- 秘密鍵 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/privatekey --set <秘密鍵>
```

注釈: 「クライアント認証」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- クライアント証明書 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/parameters/clientcert --set <クライアント証明書>
```

注釈: 「クライアント認証」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>`

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/use --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*41}	16
グループ停止 ^{*42}	2

次のページに続く

表 8.238 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

*41 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*42 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.21.3 HTTP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon httpw httpw1
```

8.22 IMAP4 モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **imap4w1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.22.1 IMAP4 モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[IMAP4 モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon imap4w imap4w1
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.22.2 IMAP4 モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/timeout/notreconfirmation/
↪use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:143 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (189 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/parameters/password --set <暗号化された  
パスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 認証方式

認証方式	設定値
AUTHENTICATE LOGIN (既定値)	0
LOGIN	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/parameters/certificate --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/userrestart --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/usefailover --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*43}	16
グループ停止 ^{*44}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*43} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*44} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/path --set
↳<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/path --set
↳preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/timeout --set
↳<設定値>
```

8.22.3 IMAP4 モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon imap4w imap4w1
```

8.23 IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.23.1 IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[IP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
IP アドレス
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ipw ipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/parameters/list@<ID>/ip --set <IP アドレス>
→--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.23.2 IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/comment --set <コメント>
```


注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/interval --set <設定値>`

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/timeout --set <設定値>`

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>`

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

`clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>`

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.256 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字("")を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/servers@<ID>/name --set <サ ー バ 名>
--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

共通

- IP アドレス

追加する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/parameters/list@<ID>/ip --set <IP アド
レス> --nocheck
```

注釈:

監視対象の IP アドレスが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象の IP アドレスが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。(最大値:7)

削除する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/parameters/list@<ID> --delete
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/server@<サーバ名>/parameters/list@<ID>/ip_
--set <IP アドレス> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*45}	16
グループ停止 ^{*46}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 8.263 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/path --set <ファイル>↵
↵--nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*45 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*46 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/path --set preaction.  
↪ sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.23.3 IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ipw ipw1
```


8.24 JVM モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **jraw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.24.1 JVM モニタリソースを追加する

注釈: JVM モニタリソースを作成する前にクラスタプロパティの JVM 監視にて Java インストールパスを設定してください。

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[JVM モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
JVM 種別
識別名
接続ポート番号
監視対象
回復対象
回復対象種別
JVM モニタリソース数

```
clpcfadm.py add mon jraw jraw1
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvmtype --set <JVM 種別>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/name --set <識別名>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/port --set <接続ポート番号>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/servertype --set <監視対象>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/targetnum --set <JVM モニタリソース数>
```

注釈:

JVM モニタが 1 つの場合は、JVM モニタ数に 0 を指定してください。

JVM モニタが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。(最大値:24)

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.24.2 JVM モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字("")を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

監視 (固有)

- 監視対象

監視対象	設定値 (targettypeid)	設定値 (servertype)
WebLogic Server (既定値)	0	weblogic
WebOTX ドメインエージェント	1	webotx
WebOTX プロセスグループ	2	sun
JBoss	3	sun
JBoss ドメインモード	4	local
Tomcat	5	sun
WebOTX ESB	6	sun
WebSAM SVF	7	sun
iPlanet Web Server	8	sun
Java アプリケーション	9	sun

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/targettypeid --set <設定値
(targettypeid)>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/servertype --set <設定値
(servertype)>
```

- JVM 種別

設定値
Oracle Java (既定値)
Oracle Java(usage monitoring)
Oracle JRockit
OpenJDK

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvmtype --set <設定値>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Oracle Java")

- 識別名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/name --set <識別名>
```

- 接続ポート番号

既定値: なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/port --set <設定値>
```

- プロセス名 (1024 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/processname --set <プロセス名>
```

注釈: 「監視対象」の設定が「JBoss ドメインモード」の場合に設定してください。

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/user/id --set <ユーザ名>
```

注釈: 「監視対象」の設定が「WebOTX ドメインエージェント」の場合に設定してください。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/user/passwd --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈: 「監視対象」の設定が「WebOTX ドメインエージェント」の場合に設定してください。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/action/down/runcommand_
→--set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括り、絶対パスで指定してください。(例: "/home/cmd")

調整

メモリ

「JVM 種別」の設定が「Oracle Java」「OpenJDK」の場合

- ヒープ使用率を監視する

ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heapgroup/check_
→--set <設定値>
```

– 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heap/check_
→--set <設定値>
```

* 領域全体 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heap/
→threshold --set <設定値>
```

- Eden Space

Eden Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/eden/check_
→--set <設定値>
```

* Eden Space(%)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/eden/
→threshold --set <設定値>
```

- Survivor Space

Survivor Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/survivor/
→check --set <設定値>
```

* Survivor Space(%)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/survivor/
→threshold --set <設定値>
```

- Tenured Gen

Tenured Gen	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/tenured/
→check --set <設定値>
```

* Tenured Gen(%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/tenured/
→threshold --set <設定値>
```

– コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heapgroup/
→action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- 非ヒープ使用率を監視する

非ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheapgroup/
→check --set <設定値>
```

– 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheap/
→check --set <設定値>
```

* 領域全体 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheap/
→threshold --set <設定値>
```

– Code Cache

Code Cache	設定値
監視する	1

次のページに続く

表 8.277 – 前のページからの続き

Code Cache	設定値
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/codecash/
→check --set <設定値>
```

* Code Cache(%)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/codecash/
→threshold --set <設定値>
```

– Perm Gen

Perm Gen	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/perm/check_
→--set <設定値>
```

* Perm Gen(%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/perm/
→threshold --set <設定値>
```

– Perm Gen[shared-ro]

Perm Gen[shared-ro]	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/perm/ro/
→check --set <設定値>
```

* Perm Gen[shared-ro](%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/perm/ro/
→threshold --set <設定値>
```

– Perm Gen[shared-rw]

Perm Gen[shared-rw]	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/perm/rw/
→check --set <設定値>
```

* Perm Gen[shared-rw](%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/perm/rw/
→threshold --set <設定値>
```

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
→nonheapgroup/action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

「JVM 種別」の設定が「Oracle Java(usage monitoring)」の場合

- ヒープ使用率を監視する

ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heapgroup/
→maxcheck --set <設定値>
```

- 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heap/check_
→--set <設定値>
```

* 領域全体 (MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heap/``↪maxsize --set <設定値>`

- Eden Space

Eden Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/eden/check_``↪--set <設定値>`

* Eden Space(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/eden/``↪maxsize --set <設定値>`

- Survivor Space

Survivor Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/survivor/``↪check --set <設定値>`

* Survivor Space(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/survivor/``↪maxsize --set <設定値>`

- Tenured Gen(Old Gen)

Tenured Gen(Old Gen)	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/tenured/``↪check --set <設定値>`

* Tenured Gen(Old Gen)(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/tenured/
↪maxsize --set <設定値>
```

– コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heapgroup/
↪action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- 非ヒープ使用率を監視する

非ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheapgroup/
↪maxcheck --set <設定値>
```

– 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheap/
↪check --set <設定値>
```

* 領域全体 (MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheap/
↪maxsize --set <設定値>
```

– Code Cache

Code Cache	設定値
監視する	1

次のページに続く

表 8.288 – 前のページからの続き

Code Cache	設定値
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/codecash/
```

```
→check --set <設定値>
```

* Code Cache(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/codecash/
```

```
→maxsize --set <設定値>
```

– CodeHeap non-nmethods

CodeHeap non-nmethods	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonnmethods/
```

```
→check --set <設定値>
```

* CodeHeap non-nmethods(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
```

```
→nonnmethods/maxsize --set <設定値>
```

注釈: 「Code Cache」の設定が「監視しない」の場合に設定してください。

– CodeHeap profiled

CodeHeap profiled	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
```

```
→profilednmethods/check --set <設定値>
```

* CodeHeap profiled(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
```

```
→profilednmethods/maxsize --set <設定値>
```

注釈: 「Code Cache」の設定が「監視しない」の場合に設定してください。

– CodeHeap non-profiled

CodeHeap non-profiled	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonprofiledmethods/check --set <設定値>
```

* CodeHeap non-profiled(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonprofiledmethods/maxsize --set <設定値>
```

注釈: 「Code Cache」の設定が「監視しない」の場合に設定してください。

– Compressed Class Space

Compressed Class Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/ccs/check
↳--set <設定値>
```

* Compressed Class Space(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/ccs/
↳maxsize --set <設定値>
```

– Metaspace

Metaspace	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/metaspace/
↳check --set <設定値>
```

* Metaspace(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/

→metaspace/maxsize --set <設定値>

- コマンド (255 バイト以内)

clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/

→nonheapgroup/action/down/runcommand --set <コマンド>

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

「JVM 種別」の設定が「Oracle JRockit」の場合

- ヒープ使用率を監視する

ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heapgroup/check_

→--set <設定値>

- 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heap/check_

→--set <設定値>

* 領域全体 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heap/

→threshold --set <設定値>

- Nursery Space

Nursery Space	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jrockit/memory/
↪nursery/check --set <設定値>
```

* Nursery Space(%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jrockit/memory/
↪nursery/threshold --set <設定値>
```

– Old Space

Old Space	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jrockit/memory/
↪oldspace/check --set <設定値>
```

* Old Space(%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jrockit/memory/
↪oldspace/threshold --set <設定値>
```

– コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/heapgroup/
↪action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- 非ヒープ使用率を監視する

非ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0


```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheapgroup/
↪check --set <設定値>
```

– 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheap/
↪check --set <設定値>
```

* 領域全体 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/nonheap/
↪threshold --set <設定値>
```

– Class Memory

Class Memory	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jrockit/memory/
↪classmemory/check --set <設定値>
```

* Class Memory(%)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jrockit/memory/
↪classmemory/threshold --set <設定値>
```

– コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↪nonheapgroup/action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

スレッド

- 動作中のスレッド数を監視する

動作中のスレッド数を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/thread/count/check
```

```
↪ --set <設定値>
```

- (スレッド)

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/thread/count/
```

```
↪ threshold --set <設定値>
```

注釈: 「動作中のスレッド数を監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/thread/action/down/
```

```
↪ runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

注釈: 「動作中のスレッド数を監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

GC

- Full GC 実行時間を監視する

Full GC 実行時間を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/time/check --set <設定値>`

- (ミリ秒)

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/time/threshold`
`↪ --set <設定値>`

注釈: 「Full GC 実行時間を監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- Full GC 発生回数を監視する

Full GC 発生回数を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/cont/check --set <設定値>`

- (回)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:65535)

`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/cont/threshold`
`↪ --set <設定値>`

注釈: 「Full GC 発生回数を監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/action/down/
↳runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

注釈:

「Full GC 実行時間を監視する」の設定が「監視する」の場合または、
「Full GC 発生回数を監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

WebLogic

注釈: 「監視対象」の設定が「WebLogic Server」の場合に設定してください。

- ワークマネージャのリクエストを監視する

ワークマネージャのリクエストを監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/check --set <設定値>
```

- 監視対象ワークマネージャ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/work/manager --set <監視対象ワークマネージャ>
```

注釈: 「ワークマネージャのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

待機リクエスト

注釈: 「ワークマネージャのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- リクエスト数

リクエスト数	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/requests/
↳chkthreshold --set <設定値>
```

- リクエスト数

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/
↳requests/threshold --set <設定値>
```

- 平均値

平均値	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/requests/
↳avg/chkthreshold --set <設定値>
```

- 平均値

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/
↳requests/avg/threshold --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率

前回計測値からの増加率	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/requests/
↳chkincrement --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率 (%)
既定値:80 (最小値:1, 最大値:1024)
`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/
→requests/increment --set <設定値>`

- スレッドプールのリクエストを監視する

スレッドプールのリクエストを監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/check --set <設定値>
```

待機リクエスト

注釈: 「スレッドプールのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- リクエスト数

リクエスト数	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/requests/  
→chkthreshold --set <設定値>
```

- リクエスト数
既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)
`clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/
→requests/threshold --set <設定値>`

- 平均値

平均値	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/requests/
↪avg/chkthreshold --set <設定値>
```

– 平均値

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/
↪requests/avg/threshold --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率

前回計測値からの増加率	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/requests/
↪chkincrement --set <設定値>
```

– 前回計測値からの増加率 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:1024)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/
↪requests/increment --set <設定値>
```

実行リクエスト

注釈: 「スレッドプールのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- リクエスト数

リクエスト数	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/throughput/
↪chkthreshold --set <設定値>
```

– リクエスト数

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/throughput/
↪threshold --set <設定値>
```

- 平均値

平均値	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/throughput/avg/
↳chkthreshold --set <設定値>
```

- 平均値

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/throughput/
↳avg/threshold --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率

前回計測値からの増加率	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/throughput/
↳chkincrement --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:1024)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/throughput/
↳increment --set <設定値>
```

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/action/down/
↳runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

注釈:

「ワークマネージャのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合または、
「スレッドプールのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*47}	16
グループ停止 ^{*48}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*47} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*48} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.24.3 JVM モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon jraw jraw1
```

8.25 LB プローブポートモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **lbppw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.25.1 LB プローブポートモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[LB プローブポートモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon lbppw lbppw1
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.25.2 LB プローブポートモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
↪<設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

• リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

• 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/firstmonwait --set <設定値>`

• (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「LB プローブポートリソース」のみ設定可能です。

• nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/proctrl/priority --set <設定値>`

• 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`→ --nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

• 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/perf/metrics/use --set <設定値>`

監視 (固有)

- ヘルスチェックのタイムアウト時動作

ヘルスチェックのタイムアウト時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*49}	16
グループ停止 ^{*50}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/lbppw@lbppw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

*49 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*50 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

8.25.3 LB プローブポートモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon lbppw lbppw1
```

8.26 ミラーディスクコネクトモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mdnw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.26.1 ミラーディスクコネクトモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「ミラーディスクコネクトモニタリソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ミラーディスクリソース
回復対象 (LocalServer)
回復対象種別 (cls)

```
clpcfadm.py add mon mdnw mdnw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/parameters/object --set <ミラーディスクリソース>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/relation/name --set LocalServer --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/relation/type --set cls --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.26.2 ミラーディスクコネクトモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0

次のページに続く

表 8.335 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/firstmonwait --set <設定値>`

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/perf/metrics/use --set <設定値>`

監視 (固有)

- ミラーディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/parameters/object --set <ミラーディスクリソース> --nocheck
```

注釈: 「ミラーディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdnw@mdnw1/emergency/preaction/timeout --set <設 定  
値>
```

8.26.3 ミラーディスクコネクトモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mdnw mdnw1
```

8.27 ミラーディスクモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mdw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.27.1 ミラーディスクモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ミラーディスクモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ミラーディスクリソース
回復対象 (LocalServer)
回復対象種別 (cls)

```
clpcfadm.py add mon mdw mdw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/parameters/object --set <ミラーディスクリソース>
→--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/relation/name --set LocalServer --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/relation/type --set cls --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.27.2 ミラーディスクモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0

次のページに続く

表 8.342 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ミラーディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/parameters/object --set <ミラーディスクリソース> --nocheck
```

注釈: 「ミラーディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/path --set <ファイル>↵  
↵--nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する

場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/path --set preaction.  
↳sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.27.3 ミラーディスクモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mdw mdw1
```

8.28 NIC Link Up/Down モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **miiw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.28.1 NIC Link Up/Down モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[NIC Link Up/Down モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
監視対象
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon miiw miiw1
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/parameters/object --set <監視対象>
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.28.2 NIC Link Up/Down モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1

次のページに続く

表 8.349 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

共通

- 監視対象 (15 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/parameters/object --set <監視対象>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- 監視対象 (15 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/server@<サーバ名>/parameters/object
--set <監視対象> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*51}	16
グループ停止 ^{*52}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*51} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*52} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/path --set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.28.3 NIC Link Up/Down モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon miiw miiw1
```

8.29 外部連携モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mrw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.29.1 外部連携モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[外部連携モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon mrw mrw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.29.2 外部連携モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字("")を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:19 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/polling/servers@<ID>/name --set <サ ー バ 名>
--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

監視 (固有)

共通

- カテゴリ (32 バイト以内)

カテゴリ
NIC (既定値)
FC
HA/SS
HA/AM
HA/RS
SPS

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/parameters/object --set <カテゴリ>
```

- キーワード (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/parameters/target --set <キ ー ワ ー ド>
↪--nocheck
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- キーワード (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/server@<サーバ名>/parameters/target --set
<キーワード> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/action --set 1
```

- サーバグループ外にフェイルオーバーする

サーバグループ外にフェイルオーバーする	設定値
サーバグループ外にフェイルオーバーする	1
サーバグループ外にフェイルオーバーしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/site --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止	16
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/action --set <設定値>
```

- 回復動作前にスクリプトを実行する

回復動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/userestart --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1

次のページに続く

表 8.365 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別	設定値
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> ↵  
↵--nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/path --set preaction.  
↵sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.29.3 外部連携モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mrw mrw1
```

8.30 マルチターゲットモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mtw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.30.1 マルチターゲットモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[マルチターゲットモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象モニタリソース名
対象モニタリソースタイプ
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon mtw mtw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/member --set <対象モニタリ
ソース名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/type --set <対象モニタリソー
スタイプ> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソースタイプ>@<モニタリソース名>/multi --set 1
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.30.2 マルチターゲットモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- モニタリソース

追加する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/member --set <モニタリソース名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/type --set <モニタリソースタイプ> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソースタイプ>@<モニタリソース名>/multi --set 1
```

注釈:

監視対象のモニタリソースが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のモニタリソースが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈: 「モニタリソースタイプ」は以下を設定してください。

モニタリソースタイプ	設定値
AWS AZ モニタリソース	awsazw
AWS DNS モニタリソース	awsdns
AWS Elastic IP モニタリソース	awseipw
AWS セカンダリ IP モニタリソース	awssipw
AWS 仮想 IP モニタリソース	awsvipw
Azure DNS モニタリソース	azuredns
Azure ロードバランスモニタリソース	azurelbw
Azure プローブポートモニタリソース	azureppw
ディスクモニタリソース	diskw
フローティング IP モニタリソース	fipw
Google Cloud DNS モニタリソース	gcdns
Google Cloud ロードバランスモニタリソース	gclbw
Google Cloud 仮想 IP モニタリソース	gcvipw
カスタムモニタリソース	genw
IP モニタリソース	ipw

[次のページに続く](#)

表 8.370 – 前のページからの続き

モニタリソースタイプ	設定値
JVM モニタリソース	jraw
LB プローブポートモニタリソース	lbppw
NIC Link Up/Down モニタリソース	miw
Oracle Cloud DNS モニタリソース	ocdnsw
Oracle Cloud ロードバランスマニタリソース	oclbw
Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソース	ocvipw
PID モニタリソース	pidw
プロセスリソースモニタリソース	psrw
プロセス名モニタリソース	psw
システムモニタリソース	sraw

削除する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID> --delete
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソースタイプ>@<モニタリソース名>/multi --set 0
```

調整

- 異常しきい値

異常しきい値	設定値
メンバ数に合わせる (既定値)	0
数を指定する	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/seterr --set <設定値>
```

- 数を指定する

既定値:64 (最小値:1, 最大値:64)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/errnum --set <設定値>
```

- 警告しきい値 (数を指定する)

既定値: なし (最小値:1, 最大値:63)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/caunum --set <設定値>
```

注釈: 「異常しきい値」で「数を指定する」を選択している場合、「警告しきい値」は「異常しきい値」より小さい値を入力してください。

注釈: 「警告しきい値」を設定しない場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/caunum --set 0
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*53}	16
グループ停止 ^{*54}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/action --set <設定値>
```

^{*53} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*54} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> ↵  
↵ --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/path --set preaction.  
↵ sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.30.3 マルチターゲットモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mtw mtw1
```

8.31 MySQL モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mysqlw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.31.1 MySQL モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[MySQL モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データベース名
ユーザ名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon mysqlw mysqlw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/database --set <データベース名>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/username --set <ユーザ名>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.31.2 MySQL モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw1/mysqlw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
↪ use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw1/mysqlw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw1/mysqlw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw1/mysqlw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw1/mysqlw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0
レベル 3(毎回 create/drop も行う)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/docreatedrop --set <設定値>
```

- データベース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/database --set <データベース名> --nocheck
```

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:3306 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/username --set <ユ ー ザ 名>
--nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/password --set <暗号化された
パスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:mysqlwatch

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/table --set <監視テーブル名>
```

- ストレージエンジン

設定値
InnoDB (既定値)
MyISAM

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/engine --set <設定値>
```

- ライブラリパス (1023 バイト以内)

ライブラリパス
/usr/lib64/libmysqlclient.so.18

次のページに続く

表 8.385 – 前のページからの続き

ライブラリパス
/usr/lib64/libmysqlclient.so
/usr/lib64/mysql/libmysqlclient.so.20 (既定値)
/usr/lib64/mysql/libmysqlclient.so.21
/usr/lib64/mysql/libmysqlclient.so

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/parameters/libraryfullpath --set <ライブラリパス>
```

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/preaction/userrestart --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/preaction/usefailover --set
➡ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*55}	16
グループ停止 ^{*56}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 8.390 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/preaction/default --set  
↪<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/preaction/path --set  
↪<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*55 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*56 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mysqlw@mysqlw1/emergency/preaction/timeout --set  
↵<設定値>
```

8.31.3 MySQL モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mysqlw mysqlw1
```


8.32 NFS モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **nfsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.32.1 NFS モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[NFS モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
共有ディレクトリ
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon nfsw nfsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/parameters/sharedir --set <共有 ディレクトリ>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.32.2 NFS モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/firstmonwait --set <設定値>`

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

`clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/polling/timing --set 0`

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字 ("")を設定してください。

`clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/target --set ""`

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 共有ディレクトリ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/parameters/sharedir --set <共有ディレクトリ> --nocheck
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- NFS サーバ

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/parameters/ipaddress --set <NFS サーバ>
```

- NFS バージョン

NFS バージョン	設定値
v2	2
v3	3
v4 (既定値)	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/parameters/nfsversion --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck  
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/action --set 1
```

-
- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*57}	16
グループ停止 ^{*58}	2

次のページに続く

表 8.403 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

*57 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*58 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/nfsw@nfsw1/emergency/preaction/timeout --set <設 定  
値>
```

8.32.3 NFS モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon nfsw nfsw1
```

8.33 Oracle Cloud DNS モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ocdnsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.33.1 Oracle Cloud DNS モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Oracle Cloud DNS モニタリソースのパラメータを設定する*」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ocdns ocdns1
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdns@ocdns1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdns@ocdns1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdns@ocdns1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.33.2 Oracle Cloud DNS モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/timeout/notreconfirmation/  
↪use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/timeout/notrecovery/use_  
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Oracle Cloud DNS リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 名前解決確認をする

名前解決確認をする	設定値
名前解決確認をする (既定値)	1
名前解決確認をしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/parameters/dnscheck --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/preaction/userrestart --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/preaction/usefailover --set  
↔ <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

• 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

• 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

• 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*59}	16
グループ停止 ^{*60}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10

次のページに続く

表 8.414 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/preaction/default --set
➡<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/preaction/path --set
➡<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

*59 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*60 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。


```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/preaction/path --set  
↳preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocdnsw@ocdnsw1/emergency/preaction/timeout --set  
↳<設定値>
```

8.33.3 Oracle Cloud DNS モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ocdnsw ocdnsw1
```

8.34 Oracle Cloud ロードバランスモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **oclbw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.34.1 Oracle Cloud ロードバランスモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Oracle Cloud* ロードバランスモニタリソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon oclbw oclbw1
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.34.2 Oracle Cloud ロードバランスモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/interval --set <設定値>

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/timeout --set <設定値>

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
↵ <設定値>

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/parameters/object --set <対象リソース>
```

注釈: 「Oracle Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*61}	16
グループ停止 ^{*62}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*61} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*62} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.34.3 Oracle Cloud ロードバランスモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon oclbw oclbw1
```


8.35 Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ocvipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.35.1 Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する*」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ocvipw ocvipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.35.2 Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)
リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
↪use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Oracle Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ヘルスチェックのタイムアウト時動作

ヘルスチェックのタイムアウト時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/userrestart --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/usefailover --set
↔ <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*63}	16
グループ停止 ^{*64}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10

次のページに続く

表 8.435 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/path --set
↳<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

*63 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*64 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/path --set  
↳preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/timeout --set  
↳<設定値>
```

8.35.3 Oracle Cloud 仮想 IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ocvipw ocvipw1
```


8.36 ODBC モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **odbcw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.36.1 ODBC モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ODBC モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon odbcw odbcw1
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/datasource --set <データソース名>
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.36.2 ODBC モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
➡ <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
➡ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0
レベル 3(毎回 create/drop も行う)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/monitorlevel --set <設定値>
```

- データソース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/datasource --set <データソース名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:odbcwatch

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/table --set <監視テーブル名>
```

- メッセージ文字コード

設定値
UTF-8 (既定値)
UTF-16LE
ISO-8859-1
EUC-JP
SHIFT_JIS
GB2312
GBK
GB18030
BIG5

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/parameters/charset --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*65}	16
グループ停止 ^{*66}	2

次のページに続く

表 8.448 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

*65 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*66 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.36.3 ODBC モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon odbcw odbcw1
```

8.37 Oracle モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **oraclew1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.37.1 Oracle モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Oracle モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
接続文字列
文字コード
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon oraclew oraclew1
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/database --set <接 続 文 字 列>↵  
↪--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/characteraset --set <文字コード  
> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/type --set <回 復 対 象 種 別>↵  
↪--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.37.2 Oracle モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/comment --set <コメント>`

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/interval --set <設定値>`
- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/timeout --set <設定値>`
- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

- `clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>`
- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/timeout/notreconfirmation/
↪ use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視方式

監視方式	設定値
リスナーとインスタンスを監視 (既定値)	0
リスナーのみ監視	1
インスタンスのみ監視	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/monmethod --set <設定値>
```

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 0(データベースステータス)	2
レベル 1(select での監視)	3

次のページに続く

表 8.456 – 前のページからの続き

監視レベル	設定値
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0
レベル 3(毎回 create/drop も行う)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/docreatedrop --set <設定値>
```

- 接続文字列 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/database --set <接続文字列>
--nocheck
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:sys

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 認証方式

設定値
SYSDBA (既定値)
DEFAULT

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/authority --set <設定値>
```

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:orawatch

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/table --set <監視テーブル名>
```

- ORACLE_HOME(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/oraclehome --set <ORACLE_
→HOME>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- 文字コード

設定値
JAPANESE_JAPAN.JA16EUC
JAPANESE_JAPAN.JA16EUCTILDE
JAPANESE_JAPAN.JA16SJIS
JAPANESE_JAPAN.JA16SJISTILDE
SIMPLIFIED CHINESE_CHINA.ZHS16CGB231280
SIMPLIFIED CHINESE_CHINA.ZHS16GBK
TRADITIONAL CHINESE_HONG KONG.ZHT16BIG5
AMERICAN_AMERICA.US7ASCII
AMERICAN_AMERICA.UTF8

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/characteraset --set <設定値>
--nocheck
```

- ライブラリパス (1023 バイト以内)

ライブラリパス
/u01/app/oracle/product/12.1.0/dbhome_1/lib/libclntsh.so.12.1
/u01/app/oracle/product/12.2.0/dbhome_1/lib/libclntsh.so.12.1 (既定値)
/u01/app/oracle/product/18.0.0/dbhome_1/lib/libclntsh.so.18.1
/u01/app/oracle/product/19.0.0/dbhome_1/lib/libclntsh.so.19.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/libraryfullpath --set <ラ
イブラリパス>
```

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

- 障害発生時にアプリケーションの詳細情報を採取する

障害発生時にアプリケーションの詳細情報を採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/infocollect/use --set <設定値>
```

- 採取タイムアウト (秒)

既定値:600 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/infocollect/timeout --set  
→<設定値>
```

注釈: 「障害発生時にアプリケーションの詳細情報を採取する」の設定が「採取する」場合に設定してください。

- Oracle の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする

Oracle の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする	設定値
エラーにする	1
エラーにしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/parameters/ignoreuse --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc


```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/userrestart --set
→ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/usefailover
→ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*67}	16
グループ停止 ^{*68}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*67} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*68} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/default
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/path --set
↪<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/path --set
↪preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/timeout
↪--set <設定値>
```

8.37.3 Oracle モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon oraclew oraclew1
```

8.38 WebOTX モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **otxw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.38.1 WebOTX モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[WebOTX モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
ユーザ名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon otxw otxw1
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/username --set <ユーザ名>
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.38.2 WebOTX モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`↪ --nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 接続先 (255 バイト以内)

既定値:localhost

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/servername --set <接続先>
```

- ポート番号

既定値:6212 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- インストールパス (1023 バイト以内)

既定値:/opt/WebOTX

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/installpath --set <インストールパス>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*69}	16
グループ停止 ^{*70}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*69} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*70} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/path --set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.38.3 WebOTX モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon otxw otxw1
```

8.39 PID モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **pidw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.39.1 PID モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[PID モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon pidw pidw1
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.39.2 PID モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1

次のページに続く

表 8.482 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:3 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは非同期の「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`↪--nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*71}	16
グループ停止 ^{*72}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/action --set <設定値>
```

^{*71} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*72} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/preaction/path --set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pidw@pidw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.39.3 PID モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon pidw pidw1
```

8.40 POP3 モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **pop3w1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.40.1 POP3 モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[POP3 モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon pop3w pop3w1
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.40.2 POP3 モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.493 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
➡ <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/perf/metrics/use --set <設定値>
```


監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:110 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 認証方式

認証方式	設定値
APOP (既定値)	0
USER/PASS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/parameters/certificate --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/type --set <回復対象種別>
→ --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*73}	16
グループ停止 ^{*74}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*73} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*74} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/path --set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.40.3 POP3 モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon pop3w pop3w1
```

8.41 PostgreSQL モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **psqlw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.41.1 PostgreSQL モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[PostgreSQL モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データベース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon psqlw psqlw1
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/database --set <データベース名>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.41.2 PostgreSQL モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
➡ <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
➡ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0
レベル 3(毎回 create/drop も行う)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/docreatedrop --set <設定値>
```

- データベース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/database --set <データベース名>
--nocheck
```

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:5432 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:postgres

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:psqlwatch

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/table --set <監視テーブル名>
```

- ライブラリパス (1023 バイト以内)

ライブラリパス
/opt/PostgreSQL/9.3/lib/libpq.so.5.6
/opt/PostgreSQL/9.3/lib/libpq.so
/opt/PostgreSQL/9.4/lib/libpq.so.5.7
/opt/PostgreSQL/9.4/lib/libpq.so
/opt/PostgreSQL/9.5/lib/libpq.so.5.8
/opt/PostgreSQL/9.5/lib/libpq.so
/opt/PostgreSQL/9.6/lib/libpq.so.5.9
/opt/PostgreSQL/9.6/lib/libpq.so
/opt/PostgreSQL/10/lib/libpq.so.5.10 (既定値)
/opt/PostgreSQL/10/lib/libpq.so
/usr/pgsql-11/lib/libpq.so.5.11
/usr/pgsql-11/lib/libpq.so.5
/usr/pgsql-12/lib/libpq.so.5.12
/usr/pgsql-12/lib/libpq.so.5

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/libraryfullpath --set <ライブラリパス>
```

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

- PostgreSQL の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする

PostgreSQL の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする	設定値
エラーにする (既定値)	1
エラーにしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/parameters/ignoreerrorflg --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*75}	16
グループ停止 ^{*76}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13

次のページに続く

表 8.515 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck
```

*75 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*76 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.41.3 PostgreSQL モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon psqlw psqlw1
```

8.42 プロセスリソースモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **psrw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.42.1 プロセスリソースモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[プロセスリソースモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon psrw psrw1
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.42.2 プロセスリソースモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/comment --set <コメント>
```


注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/interval --set <設定値>`

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/timeout --set <設定値>`

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>`

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/firstmonwait --set <設定値>`

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`↪ --nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

監視 (固有)

- プロセス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/name --set <プロセス名>
```

- CPU 使用率の監視

CPU 使用率の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/cpu/docheck --set <設定値>
```

- 使用率 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/cpu/rate --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 継続時間 (分)

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:129600)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/cpu/count --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- メモリ使用量の監視

メモリ使用量の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/memory/docheck --set <設定値>`

- 初回監視時からの増加率 (%)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:1000)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/memory/rate_`
`↪--set <設定値>`

注釈: 「メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 最大更新回数

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:129600)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/memory/count_`
`↪--set <設定値>`

注釈: 「メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- オープンファイル数の監視 (最大値)

オープンファイル数の監視 (最大値)	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/fileleak/docheck --set`
`↪<設定値>`

- 更新回数

既定値:1000 (最小値:1, 最大値:1024)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/fileleak/count_`
`↪--set <設定値>`

注釈: 「オープンファイル数の監視 (カーネル上限値)」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- オープンファイル数の監視 (カーネル上限値)

オープンファイル数の監視 (カーネル上限値)	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/fileopen/docheck --set  
→ <設定値>
```

- 割合 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/fileopen/rate_  
→ --set <設定値>
```

注釈: 「オープンファイル数の監視 (カーネル上限値)」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- スレッド数の監視

スレッド数の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/thread/docheck --set <設  
定値>
```

- 継続時間 (分)

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:129600)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/thread/count_  
→ --set <設定値>
```

注釈: 「スレッド数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- ゾンビプロセスの監視

ゾンビプロセスの監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/defunct/docheck --set  
↪ <設定値>
```

- 継続時間 (分)

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:129600)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/defunct/count  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「ゾンビプロセスの監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 同一名プロセスの監視

同一名プロセスの監視	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/proccount/docheck --set  
↪ <設定値>
```

- 個数

既定値:100 (最小値:1, 最大値:10000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/proccount/  
↪ number --set <設定値>
```

注釈: 「同一名プロセスの監視」の設定が「監視する」場合に設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>`

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>`

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*77}	16
グループ停止 ^{*78}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

^{*77} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*78} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。


```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/path --set ↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.42.3 プロセスリソースモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon psrw psrw1
```

8.43 プロセス名モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **psw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.43.1 プロセス名モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[プロセス名モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
プロセス名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon psw psw1
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/parameters/processname --set <プロセス名>
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.43.2 プロセス名モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/interval --set <設定値>`

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/timeout --set <設定値>`

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>`

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

`clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>`

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1

次のページに続く

表 8.535 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:3 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字("")を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/servers@<ID>/name --set <サ ー バ 名>
--nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- プロセス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/parameters/processname --set <プロセス名>
```

- プロセス数下限値

既定値:1 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/parameters/processnum --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」 を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」 を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*79}	16
グループ停止 ^{*80}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

^{*79} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*80} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> ↵  
↵ --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/path --set preaction.  
↵ sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.43.3 プロセス名モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon psw psw1
```

8.44 Samba モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **sambaw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.44.1 Samba モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Samba モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
共有名
ユーザ名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon sambaw sambaw1
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/sharename --set <共有名>  
→--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/username --set <ユーザ名>  
→--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/relation/type --set <回復対象種別>  
→--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.44.2 Samba モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/comment --set <コメント>`

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/polling/interval --set <設定値>`
- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/polling/timeout --set <設定値>`
- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

- `clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>`
- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
↪ use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 共有名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/sharename --set <共有名>
--nocheck
```

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:139 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/username --set <ユーザ名>
--nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/password --set <暗号化された
パスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/relation/name --set <回復対象>  
↪--nocheck  
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/relation/type --set <回復対象種別>  
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/threshold/restart --set 0  
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/preaction/userrestart --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/preaction/usefailover --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*81}	16
グループ停止 ^{*82}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*81} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*82} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/preaction/default --set
↳<設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/preaction/path --set
↳<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/preaction/path --set
↳preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sambaw@sambaw1/emergency/preaction/timeout --set
↳<設定値>
```

8.44.3 Samba モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon sambaw sambaw1
```

8.45 SMTP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **smtpw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.45.1 SMTP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[SMTP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon smtpw smtpw1
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.45.2 SMTP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.559 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>
↪ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:25 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/parameters/port --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/type --set <回復対象種別> ↵
↵--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```


注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*83}	16
グループ停止 ^{*84}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13

次のページに続く

表 8.566 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck
```

*83 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*84 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.45.3 SMTP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon smtpw smtpw1
```

8.46 SQL Server モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **sqlserverw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.46.1 SQL Server モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[SQL Server モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データベース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon sqlserverw sqlserverw1
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/dbname --set <データベース名>
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/type --set <回復対象種別> ↵
↪ --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.46.2 SQL Server モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/interval --set <設定値>
- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/timeout --set <設定値>
- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/dumpcollect/use_
→--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/reconfirmation --set
↳<設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 0(データベースステータス)	2
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0
レベル 3(毎回 create/drop も行う)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/monitorlevel --set
↪<設定値>
```

- データベース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/dbname --set <データ
ベース名>
```

- サーバ名 (255 バイト以内)

既定値:localhost

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/servername --set
↳<サーバ名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:SA

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/username --set <ユー
ザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/password --set <暗号
化されたパスワード>
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/encrypwd --set 1↳
↳--nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:sqlwatch

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/table --set <監視テー
ブル名>
```

- ODBC ドライバ名 (255 バイト以内)

ODBC ドライバ名
ODBC Driver 13 for SQL Server (既定値)
ODBC Driver 17 for SQL Server

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/parameters/odbcdriver --set
↳<ODBC ドライバ名>
```


回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/fo
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/fo --set
↪ <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/use --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*85}	16
グループ停止 ^{*86}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/action --set <設定値>
```

^{*85} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*86} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/  
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/path_  
↳--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/path_  
↳--set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/  
↳timeout --set <設定値>
```

8.46.3 SQL Server モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon sqlserverw sqlserverw1
```

8.47 システムモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **sraw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.47.1 システムモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[システムモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon sraw sraw1
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.47.2 システムモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/polling/interval --set <設定値>`

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/polling/timeout --set <設定値>`

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>`

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/firstmonwait --set <設定値>`

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`↪ --nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

監視 (固有)

- CPU 使用率の監視

CPU 使用率の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/cpu/docheck --set <設定値>
```

- 使用率 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/cpu/rate --set <設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:86400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/cpu/time --set <設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- 総メモリ使用量の監視

総メモリ使用量の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/memory/docheck --set <設定値>`

– 使用量 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/memory/rate`
`↪ --set <設定値>`

注釈: 「総メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

– 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:86400)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/memory/time`
`↪ --set <設定値>`

注釈: 「総メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

• 総仮想メモリ使用量の監視

総仮想メモリ使用量の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/swap/docheck --set <設定値>`

– 使用量 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/swap/rate --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「総仮想メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

– 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:86400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/swap/time --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「総仮想メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

• 総オープンファイル数の監視

総オープンファイル数の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/file/docheck --set <設定値>
```

– 総オープンファイル数 (システム上限値に対する割合)(%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/file/rate --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「総オープンファイル数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

– 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:86400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/file/time --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「総オープンファイル数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

• 総スレッド数の監視

総スレッド数の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/thread/docheck --set <設  
定値>
```

– 総スレッド数 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/thread/rate  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「総スレッド数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

– 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:86400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/thread/time  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「総スレッド数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- ユーザごとの起動プロセス数の監視

ユーザごとの起動プロセス数の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/uproc/docheck --set <設定値>
```

- ユーザごとの起動プロセス数 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/uproc/rate --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「ユーザごとの起動プロセス数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:86400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/system/uproc/time --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「ユーザごとの起動プロセス数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

異常判定条件

追加する

```

clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/mountpoint --set
↳<マウントポイント> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/docheck_rate --set
↳<使用率> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/warning_rate --set
↳<(使用率) 警告レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/notice_rate --set
↳<(使用率) 通知レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/rate_time --set
↳<(使用率) 継続時間> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/docheck_size --set
↳<空き容量> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/warning_size --set
↳<(空き容量) 警告レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/notice_size --set
↳<(空き容量) 通知レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/size_time --set
↳<(空き容量) 継続時間> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/docheck_inode_rate_
↳--set <i ノード使用率> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/warning_inode_rate_
↳--set <(i ノード使用率) 警告レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/notice_inode_rate_
↳--set <(i ノード使用率) 通知レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/inode_rate_time_
↳--set <(i ノード使用率) 継続時間> --nocheck

```

注釈:

異常判定条件が 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

異常判定条件が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- マウントポイント (1024 バイト以内)

```

clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/mountpoint_
↳--set <マウントポイント> --nocheck

```

注釈: 絶対パスで指定してください。

監視タイプ

- 使用率

使用率	設定値
設定する (既定値)	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/docheck_
↪rate --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「使用率」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

- 警告レベル (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/warning_
↪rate --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 警告レベル値は通知レベル値以上の値を入力してください。

- 通知レベル (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/notice_
↪rate --set <設定値> --nocheck
```

- 継続時間 (秒)

既定値:86400 (最小値:60, 最大値:2592000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/rate_time_
↪--set <設定値> --nocheck
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- 空き容量

空き容量	設定値
設定する (既定値)	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/docheck_
↪size --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「空き容量」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

- 警告レベル (MB)

既定値:500 (最小値:1, 最大値:4294967295)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/warning_  
↪size --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 警告レベル値は通知レベル値以下の値を入力してください。

- 通知レベル (MB)

既定値:1000 (最小値:1, 最大値:4294967295)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/notice_  
↪size --set <設定値> --nocheck
```

- 継続時間 (秒)

既定値:86400 (最小値:60, 最大値:2592000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/size_time_  
↪--set <設定値> --nocheck
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- i ノード使用率

i ノード使用率	設定値
設定する	1
設定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/docheck_  
↪inode_rate --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「i ノード使用率」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

- 警告レベル (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/warning_  
↪inode_rate --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 警告レベル値は通知レベル値以上の値を入力してください。

- 通知レベル (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/notice_
→inode_rate --set <設定値> --nocheck
```

- 継続時間 (秒)

既定値:86400 (最小値:60, 最大値:2592000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/inode_
→rate_time --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。


```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>`

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/use --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*87}	16
グループ停止 ^{*88}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 8.596 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/path --set <ファイル>
> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」(クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル)を設定する場合、絶対パスで指定してください。

*87 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*88 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/path --set ↵  
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/timeout --set <設 定  
値>
```

8.47.3 システムモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon sraw sraw1
```

8.48 Tuxedo モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **tuxw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.48.1 Tuxedo モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Tuxedo モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
TUXCONFIG ファイル
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon tuxw tuxw1
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/parameters/tuxconfig --set <TUXCONFIG ファイル>
→ --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.48.2 Tuxedo モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_
↪--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`↪ --nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- アプリケーションサーバ名 (255 バイト以内)

既定値:BBL

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/parameters/servername --set <アプリケーションサーバ名>
```

- TUXCONFIG ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/parameters/tuxconfig --set <TUXCONFIG ファイル> --nocheck
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- ライブラリパス (1023 バイト以内)

ライブラリパス
/home/Oracle/tuxedo/tuxedo12.1.3.0.0/lib/libtux.so (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/parameters/libraryfullpath --set <ライブラリパス>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*89}	16
グループ停止 ^{*90}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*89} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*90} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.48.3 Tuxedo モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon tuxw tuxw1
```

8.49 ユーザ空間モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **userw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.49.1 ユーザ空間モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ユーザ空間モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象 (LocalServer)
回復対象種別 (cls)

```
clpcfadm.py add mon userw userw1
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/target --set "" *91
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/relation/name --set LocalServer --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/relation/type --set cls --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.49.2 ユーザ空間モニタリソースのパラメータを設定する

情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

*91 ユーザ空間モニタリソースでは、本パスに空 (設定値無し) を必ず設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:3 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:90 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- nice 値

既定値:-20 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>  
↪ --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ハートビートのインターバル/タイムアウトを使用する

ハートビートのインターバル/タイムアウトを使用する	設定値
使用する (既定値)	1
使用しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/usehb --set <設定値>
```

- 監視方法

設定値
softdog
ipmi
keepalive (既定値)
none

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/method --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

設定値 (「監視方法」の設定が「keepalive」の場合)	設定値 (「監視方法」の設定が「ipmi」の場合)
RESET (既定値)	RESET (既定値)
PANIC	NMI

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/action --set <設定値>
```

注釈: 「監視方法」の設定が「keepalive」「ipmi」の場合に設定可能です。

- ダミーファイルのオープン/クローズ

ダミーファイルのオープン/クローズ	設定値
設定する	1
設定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/repopen --set <設定値>
```

- 書き込みを行う

書き込みを行う	設定値
行う	1
行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/repwrite --set <設定値>
```

注釈: 「ダミーファイルのオープン/クローズ」の設定が「設定する」場合に設定可能です。

- サイズ (バイト)

既定値:10000 (最小値:1, 最大値:9999999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/writesize --set <設定値>
```

注釈: 「書き込みを行う」の設定が「行う」場合に設定可能です。

- ダミースレッドの作成

ダミースレッドの作成	設定値
設定する	1
設定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/mkthread --set <設定値>
```


回復動作

本モニタリソースでは設定できません。

8.49.3 ユーザ空間モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon userw userw1
```

8.50 仮想 IP モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **vipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.50.1 仮想 IP モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
VIP リソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon vipw vipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/parameters/object --set <VIP リソース名>
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.50.2 仮想 IP モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:3 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

監視 (固有)

- VIP リソース名

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/parameters/object --set <VIP リソース名>
```

注釈: 「仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*92}	16
グループ停止 ^{*93}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/action --set <設定値>
```

^{*92} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*93} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/path --set preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.50.3 仮想 IP モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon vipw vipw1
```


8.51 ボリュームマネージャモニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **volmgrw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.51.1 ボリュームマネージャモニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ボリュームマネージャモニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
ターゲット名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon volmgrw volmgrw1
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/parameters/devname --set <ターゲット名>
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/relation/type --set <回復対象種別>
→--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.51.2 ボリュームマネージャモニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)
- リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/timeout/notreconfirmation/
→use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に空文字("")を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/proctrl/priority --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ボリュームマネージャ

設定値
lvm (既定値)
zfspool

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/parameters/type --set <設定値>
```

- ターゲット名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/parameters/devname --set <ターゲット名>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/preaction/userrestart --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*94}	16
グループ停止 ^{*95}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12

次のページに続く

表 8.636 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/preaction/path --set
↳ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/preaction/path --set_
↳ preaction.sh --nocheck
```

*94 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*95 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/volmgrw@volmgrw1/emergency/preaction/timeout_
↳--set <設定値>
```

8.51.3 ボリュームマネージャモニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon volmgrw volmgrw1
```

8.52 WebSphere モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **wasw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.52.1 WebSphere モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[WebSphere モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
ユーザ名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon wasw wasw1
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/username --set <ユーザ名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.52.2 WebSphere モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use_↵  
↵--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`↪ --nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- アプリケーションサーバ名 (255 バイト以内)

既定値:server1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/server --set <アプリケーションサーバ名>
```

- プロファイル名 (1023 バイト以内)

既定値:default

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/profile --set <プロファイル名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/username --set <ユーザー名>  
↪--nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- インストールパス (1023 バイト以内)

インストールパス

/opt/IBM/WebSphere/AppServer (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/installpath --set <インストールパス>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/fo --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*96}	16
グループ停止 ^{*97}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

^{*96} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*97} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/action --set <設定値>`

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/default --set <設定値>`

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck`

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck`

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>`

8.52.3 WebSphere モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon wasw wasw1
```

8.53 WebLogic モニタリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **wlsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.53.1 WebLogic モニタリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[WebLogic モニタリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名 (活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon wlsw wlsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.53.2 WebLogic モニタリソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する

タイムアウト発生時に監視プロセスのダンプを採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/dumpcollect/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/timeout/notreconfirmation/use ↵
↵ --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.653 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
keepalive パニック	3
sysrq パニック	4

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/timeout/notrecovery/use --set <設定値>`

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/reconfirmation --set <設定値>`

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/firstmonwait --set <設定値>`

- (活性時監視) 対象リソース

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>`

注釈: 本モニタリソースでは「EXEC リソース」のみ設定可能です。

- nice 値

既定値:0 (最小値:-20, 最大値:19)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/proctrl/priority --set <設定値>`

- 監視を行うサーバを選択する

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/servers@<ID>/name --set <サーバ名>`
`↪--nocheck`

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:7002 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/port --set <設定値>
```

- 監視方式

監視方式	設定値
RESTful API (既定値)	3
WLST	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/checkmethod --set <設定値>
```

- プロトコル

プロトコル	設定値
HTTP (既定値)	0
HTTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/https --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:weblogic

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/restusername --set <ユーザ名>
```

注釈: 「監視方法」の設定が「RESTful API」の場合に設定可能です。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/restpassword --set <暗号化された  
パスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈: 「監視方法」の設定が「RESTful API」の場合に設定可能です。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

アカウントの隠蔽

注釈: 「監視方法」が「WLST」の場合に設定してください。

- アカウントの隠蔽

アカウントの隠蔽	設定値
隠蔽する	1
隠蔽しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/shadow --set <設定値>
```

- コンフィグファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/configfile --set <コンフィグフ  
ァイル>
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽する」の場合に設定してください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- キーファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/keyfile --set <キーファイル>
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽する」の場合に設定してください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:weblogic

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/username --set <ユーザ名>
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽しない」の場合に設定してください。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/encrypwd --set 1 --nocheck
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽しない」の場合に設定してください。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

認証方式

注釈: 「監視方法」の設定が「WLST」の場合に設定してください。

- 認証方式

認証方式	設定値
Not Use SSL	0
DemoTrust (既定値)	1
CustomTrust	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/authority --set <設定値>
```

- キーストアファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/keystorefile --set <キーストアファイル>
```

注釈: 「認証方式」の設定が「CustomTrust」の場合に設定してください。

注釈: 絶対パスで指定してください。

- ドメイン環境ファイル (1023 バイト以内)

ドメイン環境ファイル

/home/Oracle/product/Oracle_Home/user_projects/domains/base_domain/bin/setDomainEnv.sh (既定値)
/home/Oracle/Middleware/wlserver_10.3/samples/domains/wl_server/bin/setDomainEnv.sh

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/domainenv --set <ドメイン環境ファイル>
```

注釈: 絶対パスで指定してください。

- 追加コマンドオプション (1023 バイト以内)

既定値:-Dwlst.offline.log=disable -Duser.language=en_US

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/parameters/option --set <追加コマンドオプション>

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/relation/name --set <回復対象> --nocheck

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/threshold/restart --set 0

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/threshold/fo --set 0

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/action --set 1

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/threshold/restart --set 0

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/action --set 1

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/threshold/script --set <設定値>`

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/userrestart --set <設定値>`

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/threshold/restart --set <設定値>`

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/usefailover --set <設定値>`

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

`clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/threshold/fo --set <設定値>`

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」 場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*98}	16
グループ停止 ^{*99}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
sysrq パニック	8
keepalive リセット	9
keepalive パニック	10
BMC リセット	11
BMC パワーオフ	12
BMC パワーサイクル	13
BMC NMI	14

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*98} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*99} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「ユーザアプリケーション」 (クラスタサーバ上の任意のスクリプトファイル) を設定する場合、絶対パスで指定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」 を設定する場合は **preaction.sh** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/path --set ↵
↵preaction.sh --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/timeout --set <設定値>
```

8.53.3 WebLogic モニタリソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon wlsw wlsw1
```


第 9 章

パスワードを暗号化した文字列を取得する

設定する項目に応じて以下の表の「参照先」の手順を実施し、パスワードを暗号化した文字列を取得してください。

認証パスワード	参照先
Cluster WebUI 認証 (操作用) Cluster WebUI 認証 (参照用)	<i>Cluster WebUI</i> または <i>Cluster WebUI Offline</i> を使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する
上記以外	<i>clpencrypt</i> コマンドを使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する

9.1 Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline を使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する

以下の手順でパスワードを暗号化した文字列を取得してください。

1. 任意のクラスタ構成情報を Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline でインポートしてください。
2. Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline で該当する項目のパスワードを設定してください。
3. [設定のエクスポート] をクリックし、任意のディレクトリにクラスタ構成情報を保存してください。
4. 上記で保存した zip ファイルを解凍し、clp.conf をテキストエディタで開いてください。
5. 該当するパスの値を確認してください。

例: Cluster WebUI 認証

```
<root>
  <webmgr>
    <security>
      <adminpwd>
        ↪ca978112ca1bbdcafac231b39a23dc4da786eff8147c4e72b9807785afee48bb</adminpwd>
      <userpwd>
        ↪3e23e8160039594a33894f6564e1b1348bbd7a0088d42c4acb73eeaed59c009d</userpwd>
    </security>
  </webmgr>
</root>
```

操作用パスワード **ca978112ca1bbdcafac231b39a23dc4da786eff8147c4e72b9807785afee48bb**

参照用パスワード **3e23e8160039594a33894f6564e1b1348bbd7a0088d42c4acb73eeaed59c009d**

9.2 clpencrypt コマンドを使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する

以下のコマンドを実行し、パスワードを暗号化した文字列を取得してください。

```
clpencrypt <パスワード (平文)>
```

注釈: パスワード文字列に特殊文字を含む場合はシングルクォートで囲んでください。(例:'password!')

第 10 章

注意・制限事項

- CLUSTERPRO インストール先に配置された clp.conf ファイルに対して本コマンドを使用しないでください。
- 各パラメータに入力可能な文字列や禁則文字列は、『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の各章を参照してください。
- 任意のスクリプトファイルなどを指定する設定については、各サーバで同一のパスにファイルを配置してください。

例：モニタリソースの回復動作で指定する任意のスクリプトファイル

```
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソース種別>@<モニタリソース名>/emergency/  
↳preaction/path --set <任意のスクリプトファイル>
```

- 本ガイドに記載するコマンド実行例について、実行するシェルに応じてエスケープ文字が必要になる場合があります。

第 11 章

免責・法的通知

11.1 免責事項

- 本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- 日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。
- 本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

11.2 商標情報

- CLUSTERPRO[®] は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Azure、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Amazon Web Services およびすべての AWS 関連の商標、ならびにその他の AWS のグラフィック、ロゴ、ページヘッダー、ボタンアイコン、スクリプト、サービス名は、米国および／またはその他の国における、AWS の商標、登録商標またはトレードドレスです。
- Oracle、Oracle Database、MySQL、Tuxedo、WebLogic Server、Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における商標または登録商標です。
- JBoss は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の登録商標です。
- Apache Tomcat、Tomcat、Apache は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
- Python は、Python Software Foundation の登録商標です。
- VMware は Broadcom Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。
- WebOTX は、日本電気株式会社の登録商標です。
- IBM、DB2、WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL Global Development Group の登録商標です。
- WebSAM は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Google Cloud は、Google LLC の商標または登録商標です。
- 本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

第 12 章

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2025/04/08	新規作成

© Copyright NEC Corporation 2025. All rights reserved.